

# 地域における孤独・孤立対策に関する NPO等の取組モデル調査研究業務

## 調査報告書（別冊）

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

令和6年3月

**NTT DATA**

株式会社NTTデータ 経営研究所



①市区町村区域を対象とし、地域の関係団体との協働による取組

# ●本モデル事業で採択された団体の類型化

区分		居場所・交流の場の対象とする主な属性				
		多世代	子ども・若者	子育て世代	中高年・高齢者	困難を抱える者
居場所・交流の場に呼び込む主な仕掛け	体験/学び/遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>•WATALIS</li> <li>•Arts Alive</li> <li>•むすびえ</li> <li>•わんず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•たねとしづく</li> <li>•育て上げネット</li> <li>•芸術家と子どもたち</li> <li>•CLACK</li> <li>•よだか総合研究所</li> <li>•サンカクシャ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>•SKY</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•チャンス</li> </ul>
	地域貢献・仕事 (役割の創出)		<ul style="list-style-type: none"> <li>•NIMO</li> <li>•ALCAMO</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>•かみああと</li> <li>•ふらっと</li> <li>•しんしろドリーム荘</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•やどかりサポート鹿児島</li> </ul>
	食の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>•フードバンク八王子</li> <li>•こまちぶらす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•ソーシャルペタゴジーネット</li> <li>•SGSG</li> </ul>			
	イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>•抱樸</li> <li>•カーサグランデ</li> <li>•大牟田未来共創センター</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>•九十九里ホーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•ハレトケの会</li> <li>•坂井市国際交流協会</li> </ul>
	相談支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>•トナリビト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•ウェルネスサポートLab</li> <li>•LivEquality HUB</li> <li>•ママの孤立防止支援協会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>•生きづらさインクルーシブデザイン工房</li> <li>•ほっとプラス</li> </ul>
	多様な仕掛け	<ul style="list-style-type: none"> <li>•子育て応援ワクワクピース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•岡山NPOセンター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•ハピママメーカープロジェクト</li> </ul>		

# 目次

## ① 市区町村区域を対象とし、地域の関係団体との協働による取組

### 体験／学び／遊び

- 一般社団法人WATALIS  
ミツバチと共に創る 心を繋ぐ地域共生コミュニティ…………… P 9
- 一般社団法人Arts Alive  
対話型アート鑑賞《アートリップ》によるあらゆる世代の孤独・孤立防止事業…………… P 11
- 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ  
こども食堂での文化プログラム体験を通じた多世代間の交流促進事業…………… P 13
- 特定非営利活動法人わんず  
玉城町つながりプラットフォーム事業…………… P 15
- NPO法人こどもサポートステーション・たねとしく  
0歳から10代のインクルスペース「こども・若者図書館」プロジェクト…………… P 17
- 特定非営利活動法人芸術家と子どもたち  
芸術家のワークショップによる孤立を防ぐ子どもの居場所づくり…………… P19
- 認定NPO法人CLACK  
中高生のIT居場所を活用した孤独孤立解消を目指す包括支援事業…………… P21
- 一般社団法人よだか総合研究所  
中山間地域の不登校児等を対象とした森のユースセンター事業…………… P23
- 特定非営利活動法人サンカクシャ  
サンカク相談室…………… P25
- NPO法人SKY  
中高年男性の孤独孤立予防対策…………… P27
- 一般社団法人チャンス  
ホップ・ステップ・チャンスでつながろう…………… P29
- 特定非営利活動法人育て上げネット  
若者のための夜の居場所設立事業…………… P31

### 地域貢献・仕事（役割の創出）

- 一般社団法人NIMOALCAMO  
休職者・離職者が社会と繋がる、小さな仕事と居場所の一体化事業…………… P35
- 特定非営利活動法人 かみああと  
日本版メンズ・シェッドの提供事業…………… P37
- 一般社団法人ふらっと  
地域の子供達とおっちゃん有志でみんなで集える公園を作ろう…………… P39
- 特定非営利活動法人 しんしろドリーム荘  
空家再生型メンズ・シェッドとおやじ講を融合させた孤独孤立対策…………… P41
- 特定非営利活動法人やどかりサポート鹿児島  
当事者主体の互助活動を推進する居場所運営とアウトリーチ活動…………… P43

### 食の提供

- 一般社団法人フードバンク八王子  
食で結ぶ孤独・孤立対策プラットフォームの構築…………… P 47
- 認定NPO法人こまちふらす  
多様な人でお惣菜をつくり届ける過程で子育てしやすい街をつくる…………… P49
- 一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット  
リビングカーによるお出かけ「いとこんち」…………… P51
- 一般社団法人SGSG  
困る前に寄り添うユース食堂の運営…………… P53

## イベント

- NPO法人 抱樸  
SUBACOを拠点とした全世代ごちゃまぜに支え合う地域づくりの取組……………P57
- 特定非営利活動法人 カーサグランデ  
多様な事業を通じた子ども・若者・高齢者のコミュニティ創造事業…………… P 59
- 一般社団法人 大牟田未来共創センター  
市営住宅における住民同士・地域とのつながりを構築する取組…………… P 61
- 社会福祉法人 九十九里ホーム  
孤独・孤立の防止につながる福祉のまちづくり…………… P 63
- 坂井市国際交流協会  
さかいからせかいへ国際フェスティバル…………… P 65

## 相談支援

- 認定NPO法人トナリビト  
親を頼れない子ども・若者のためのオンライン相談窓口のシステム化…………… P 69
- 一般財団法人 ウェルネスサポートLab  
かかりつけナースと家事教育によるかくれシングルマザー孤立予防…………… P 71
- 認定NPO法人 LiveQuality HUB  
地域連携で実現する、孤独を抱えた母子のための居場所づくり事業…………… P 73
- 一般社団法人 ママの孤立防止支援協会  
ママの孤立・孤独防止専用LINE「モヤツイ (モヤモヤtweet)」事業…………… P 75
- 一般社団法人 生きづらさインクルーシブデザイン工房  
社会的孤独孤立 (ひきこもり等) に関する合同相談 & 講演会…………… P 77
- 特定非営利活動法人 ほっとプラス  
生活困窮者のコミュニティの活性化および実態調査…………… P 79

## 多様な仕掛け

- NPO法人 子育て応援ワクワクピース  
人・物・心を循環させる赤ちゃんから高齢者までの3世代交流拠点…………… P 83
- 特定非営利活動法人 岡山NPOセンター  
近い立場による若者・子育て世代の孤立孤独を防ぐためのパイロット事業…………… P 85
- ハピママメーカープロジェクト  
孤立するキャバクラや風俗などで働く方を主対象に制度や既存の支援団体からの支援からもれてしまう方への居場所づくりと支援業…………… P 87

## ②小学校区や自治会等の区域を対象とし、地域に密着した取組

### 体験／学び／遊び

- 任意団体たのつく  
こどもと大人の地域イベント「たのつくフェス」……………P93
- NPO法人地域で子どもを育む会  
小学生と地域の大人と学生たちが取り組む楽しい居場所づくり……………P95

### 地域貢献・仕事（役割の創出）

- 特定非営利活動法人CONNECT  
みんなで繋がる！私の避難所……………P99
- 一般社団法人青空プロジェクトTHE DAY  
地域暮らしの「先輩」との対話による孤独・孤立対策の推進……………P101
- 一般社団法人Shien  
自治会運営サポート地域デジタル化推進支援×住民の孤独・孤独世帯を防ぐ取組み……………P103

### 食の提供

- 特定非営利活動法人教育支援協会南関東  
不登校やひきこもり傾向の若者がつなく世代間交流……………P107
- スマイルフードドライブ事業  
特定非営利活動法人アクションタウンラボ……………P109

### イベント

- 特定非営利活動法人福岡終活・相続支援センターみらいあん  
ぶらウオーク福岡……………P113
- 地域サロン・さくら  
フレイル予防、認知症（MCI）予防、仲間作り……………P115
- ハレトケの会  
あいりん地区単身高齢者のつながりづくり・支援者間のネットワークづくり……………P117

### その他

- NPO法人街の家族  
まちっこ家族、じっちゃん、ばあちゃん 三世代見守り愛活動……………P121
- 特定非営利活動法人森ノオト  
「気づきの和」普及啓発のための通信発行・全戸配布プロジェクト……………P123



体験／学び／遊び



# ミツバチと共に創る 心を繋ぐ地域共生コミュニティ

一般社団法人 WATALIS (宮城県亶理町)

## ●本事業のポイント

- ①ミツバチをテーマに多様な人が集い繋がる場を提供し、仲間づくりを図る。
- ②亶理の豊かな自然と調和し共生する新たな地域コミュニティを創造。
- ③参加者が地域復興と環境保全に貢献できる活動。

## ●キーワード

復興/地域貢献/  
自然活動/環境保全

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

東日本大震災の被災地亶理町では、震災後に若年層が都市部に流出。高齢化が進行し独居高齢者は約2倍(2013年との比較)に増加(宮城県高齢者人口調査結果より)。また、障がい者就労支援施設やグループホーム利用者は施設外で地域住民と交流する機会は限定的である。一方、担い手不足の遊休農地が増え農地荒廃が進めば景観が悪化し、住民の心が潤いを失い地域活力低下に繋がる。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

果樹栽培が盛んな亶理町では花粉交配用にミツバチを飼育する農家も多く、ミツバチは地域では馴染み深い生き物である。そこで、これまで取り組んできた遊休農地でのミツバチ飼育による交流活動を基盤として、心を癒し人との繋がりを感じられるような日常的な交流の場を構築することとした。

### ◆取組の目的

コミュニティカフェと担い手不足による遊休農地を活用し、孤立化しがちな高齢者をはじめ障がい者やメンタルヘルスに課題を抱えた人などを対象として、ミツバチをテーマとした体験型プログラムを実施。地域の自然環境について学び、景観維持と環境保全を促進するための実践活動を行う。交流と地域貢献の取組みを通じて、多様な構成員が職業や世代を超えて繋がる新たな地域コミュニティを創る。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

気軽に交流しながら地域復興と環境保全に貢献できる活動として「人や自然と繋がる 学びと実践の体験プログラム」を実施。

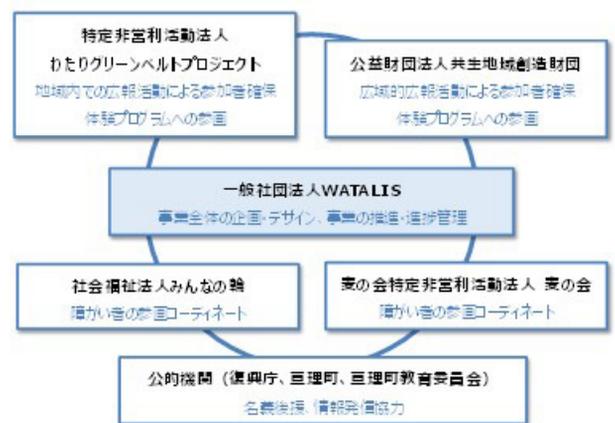
#### ①体験プログラム(月2回×7ヶ月=延べ14回実施)

- ・学び：環境指標生物であるミツバチの生態や生産物の蜂蜜や蜜蝋をテーマに地域の自然を学ぶ体験プログラム(蜂蜜クッキング、蜜蝋キャンドル作り、ミツバチ観察会、蜜源植物を探すフィールドワークなど延べ8回実施)
- ・実践：被災地域の景観維持と環境保全の実践体験プログラム(蜜源マップ編集会議、花の種撒きと手入れなど延べ6回実施)

#### ②ミツバチや花の世話活動(月6回×6ヶ月=延べ36回 12月4回増、1月10回増 延べ50回実施)

### ◆連携先との関わり

- ・亶理町、亶理町教育委員会には書面で名義後援を依頼。新しい東北官民連携推進協議会にはメールで情報提供を行った。
- ・公益財団法人共生地域創造財団、特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクト、社会福祉法人みんなの輪には電話やメールで情報共有を図りながら、参加者募集チラシを送付し、掲出と配布について協力を得た。
- ・参加者の個人情報には本人の承諾を得た上で当法人で管理し、連携先との情報のやりとりについては事業内容に関するもののみにとどめた。



### ◆連携方法

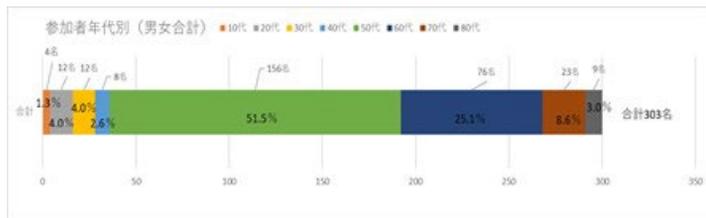
- ・亶理町、亶理町教育委員会：名義後援。チラシに記載し地域内での社会的信頼度の向上に努め、安心して参加できる活動であることを周知。
- ・復興庁：新しい東北官民連携推進協議会にHPやメールでの情報発信を依頼。
- ・公益財団法人共生地域創造財団：広域的(岩手県・宮城県・福島県など)広報活動による参加者確保、体験プログラムへの参画。
- ・特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクト：地域内での広報活動による参加者確保、体験プログラムへの参画(講師派遣)。
- ・社会福祉法人みんなの輪/特定非営利活動法人 農の会：体験プログラムへの障がい者の参画コーディネート。



### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- ・活動の参加者は延べ303名であり、子どもから80代までの男女が参加し、世代や性別を越えた地域住民が語り合うことができた。
- ・特に30代～70代の男性が一人で参加する姿が見られ、少人数での活動を好んで参加する傾向が見られた。
- ・活動終了後、参加者が一緒にランチをとる姿も見られ、関係性が深まっている様子が見られた。



#### ◆つながりの醸成

- ・利用者アンケート(読み書きが困難な参加者もいることからヒアリングでも実施)では、全員が「参加してよかった」「他の参加者と交流できた」という回答。「ずっと家にいると自分だけ取り残されたような気がするが、他の人と会話し笑い合えるとほっとする」など、本取組はこれまで孤独であった方が、安心感を得られる場となっている。
- ・活動により多くの共同作業を盛り込むことで、仲間創りがさらに促進されると考えられる。



#### ◆連携による効果

- ・特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクトと連携したことにより、代表理事東氏をフィールドワークの講師に迎えることができた。地域内の自然環境に関する知見を有する人材の協力を得られたことで、当事業活動の成果物である「蜜源マップ」の質が高まり、参加者をはじめ多くの方々に取組の様子を発信することができた。
- ・公益財団法人共生地域創造財団、社会福祉法人みんなの輪、特定非営利活動法人 麦の会と連携したことで巨理町外在住の生きづらさを抱えた人々にも参加を呼び掛けることができた。今年度は天候やインフルエンザの流行などの影響により参加に結び付いたのは少数であったが、取組の継続を求める声も多く聞かれた。
- ・連携体制を構築したことにより、団体間の情報共有の機会が増え、連携がさらに深まった。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- ①屋外での活動が中心となるため、参加者数が天候に左右されやすい。猛暑のため、参加する意思があっても見送る方が多かった。特に高齢者や障がいのある方々からは、暑さが和らいでから参加したいという声があった。
- ②日程が合わず体験プログラムに参加できなかった方々から、早朝や夕方に「ミツバチと花の世話活動」への実施希望があった。

#### ◆解決策

- ①10月以降はコミュニティカフェ内でのワークショップも計画しているため、より多くの方々に参加を呼び掛けた。夏に参加を見送った層の参加があった。
- ②実施日程をできる限り参加者の希望に合わせて、少人数でも実施した。継続した参加につながった。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- ・今年度の取組では、「ミツバチと花の世話活動」には、30代～70代の男性が一人で参加する姿が見られた。特に男性に「スタッフと1対1での活動の方が気楽だ」「あまり参加人数が多いと話づらい」という声も聞かれることから、次年度以降も当面の間は少人数でも受け入れて実施する対応を継続しながら様子を見ていきたい。

#### ◆取組の継続方法

- ・さまざまな課題を抱えた層が参加者であり、実費程度の参加費徴収しか行うことができないため、本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法としては補助金、助成金申請を検討している。
- ・支援対象者とつながりつづけるために、当事業実施期間対象外となる2月以降も「ミツバチと花の世話活動」を継続し、参加者の活動意欲を高めていきたい。

#### ◆他団体への波及可能性

- ・この成果を通して、他団体においてもそれぞれの地域固有の自然環境や住民になじむ深い生き物などをテーマにした活動が行われるようになれば、孤独・孤立の防止に加えて地域への愛着や誇りを生み出す取組となると考えられる。

#### ●団体概要

一般社団法人WATALIS  
代表：引地恵/設立：2012年/スタッフ：2名  
所在地：宮城県巨理郡巨理町字中町22  
<https://watalis.jimdofree.com>  
主な事業：手しごとワークショップ事業、コミュニティカフェ運営事業、遊休農地活用事業

#### ●メッセージ

- ・今回の取組を通して、全国に孤独・孤立防止に取り組む団体があることを知り、研修会を通してそれぞれの取組を共有する機会を得た。本年度得られた知見を今後のお互いの活動に活かしていきたい。

# 対話型アート鑑賞《アートリップ》によるあらゆる世代の孤独・孤立防止事業

## 一般社団法人 Arts Alive(東京都豊島区)

### ●本事業のポイント

- ① 初対面でも安心してアートを見ながら対話ができるアートリップ
- ② 通常の老化防止事業に興味を示さない高齢者が参加
- ③ 孤独を感じているビジネスパーソンの第三の居場所と仲間作り

### ●キーワード

高齢者/多世代/アート/イベント

## 1 取組の背景と目的

### ◆交流機会の減少

超高齢社会の日本では、世代間交流が乏しい。

- ・在宅高齢者が孤独・孤立しがち。
- ・従来の地域の交流プログラムに関心を示さない高齢者の方々の増加。
- ・仕事と家庭に忙殺されるビジネスパーソンも孤独を感じている人が多い。



### ◆取組を始めるに至った経緯等

弊団体が認知症当事者とご家族を中心に実施しているアートリップ（グループで対話をしながらのアート鑑賞）は、治験によりうつやQOLの改善の効果が認められている。アートリップを10年以上継続実施するうち、心理的安心を特徴としているため、参加者同士の交流が深まり、当事者の男性の一人は、「プログラムの最大のメリットは新しい友人ができたこと」だといった。このことより、孤立しがちな在宅高齢者の方々の孤独・孤立防止にも有効であると思っていた。

### ◆取組の目的

- ・従来の地域での交流事業を敬遠する高齢者（男性が多い）の孤独・孤立の解消
- ・異なる年齢層と一緒に参加可能なプログラムにより世代間の交流を促進
- ・仕事に忙殺されているビジネスパーソンの第三の居場所作り

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ・「アートリップ」による絵を見る会

北区社会福祉協議会と連携して、在宅高齢者の方々を対象に、地域の区民センターや地域包括センター等の5か所において3回から4回継続実施。

- ・延べ参加者数：113名 ・開催回数：17回 募集において北区社協の協力を得た。

### ・アート茶話会

美術館の近隣のカフェで出品作品について、お茶とお菓子を頂きながら、それぞれの感想を共有する会。ファシリテーターによる作品ミニトーク付き。

- ・延べ参加者数：32名、90%がリピーター 開催数：5回（月1回午後）世代間交流：30代から80代が参加、満足度が高い。SNSを利用して公募。有償化で継続希望多数。

### ・ARTRIP + α

仕事帰りのビジネスパーソン対象に週日の夜、都心のレストラン個室にて、アートリップ開催後、会食。

- ・延べ参加者数：49名、うち3名が全回出席 開催数：4回 知人およびSNSで公募。有償化継続希望多数。

### ◆連携先との関わり

北区社会福祉協議会：孤独・孤立しがちな在宅高齢者の方々を対象とするにあたり、10年来の付き合いのある同協議会と連携。最初に、彼らの支援で地域で交流会を主催している地域市民団体の既存のプログラム枠で実施させていただいた。2回目以降はそのまま継続したところが1か所、2か所は新たに場所を設定し、社協の支援で作成したチラシを配布していただき参加者を募集。豊島区民センターや神谷区民センターのセンター職員の方が募集をかけてくれたが、満席になる場合と集客に苦戦することがあった。しかし、継続的に開催することでプログラム実施を視察した近隣の地域包括センターの担当の方が同センターでの実施を希望、追加で2回実施することができた。

### ◆連携方法

北区社協と連携するため、10年来の付き合いのある社協代表に連携を依頼、快諾していただき、地区ごとの担当者に向けた事業説明会を開催。

地区の職員の方々がチラシを地域の市民団体代表者に配布、事業実施を希望した市民団体の既存の事業枠でプログラム実施ができた。



### 3 取組の成果

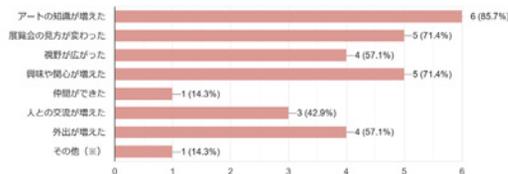
#### ◆日常生活環境における予防効果

地域の在宅高齢者の方々に従来と異なる交流プログラムを提供することで、継続参加により孤独・孤立防止ができ、外出が増加。回を重ねるごとに会話が活性化した。アンケートでは北区で92.7%、アート茶話会で100%、ARTRIP+αで100%の満足度で、すべてが事業継続を望んだことから、従来とは異なる交流プログラムのアートリップの需要は高いことが判明。参加されたビジネスパーソンは40～60代で、「人とつながるこういう場所を求めている」との意見があり、継続により他者との出会いとゆるやかな繋がりが生まれた。

1 プログラムの満足度  
72件の回答



3) 9月から12月まで参加してみて、どんな変化があったと思われますか？  
(あてはまるもの全て)  
7件の回答



#### ◆つながりの醸成

参加者アンケートのコメント／「これまで一人でアートを見ていたが、他の人の全く違う見方を知るのは新鮮」「アートを通じた対話が自然と融合し、暖かさを感じた」ひきこもりの子供への実施の可能性／アートリップをひきこもりの子供を対象に実施する希望があった。ご夫婦の新たな外出の機会／最初は車いすのご主人の付きそいだった奥様が、最後は積極的に発言、ご夫婦でアートリップを楽しまれていた。口コミやSNSの効果／ARTRIP+αでは参加者からの発信で参加者が自然と増えていった。

#### ◆連携による効果

北区福祉協議会と連携したことにより、孤独・孤立しがちな地域の在宅高齢者の方々にアプローチすることが可能となり、弊団体単独ではできなかった地域単位での参加を促進することができた。連携体制を構築したことにより、在宅高齢者の方々は、自宅から徒歩15分圏内の場所にしか出向かないことを知り、社協のご紹介で地域包括センターの職員や保険士の方々のご協力や視察の機会を得て、プログラム実施が可能となり、従来のプログラムに関心を示さなかった在宅の男性高齢者の方やご夫婦単位でも参加して頂けた。新しいタイプの高齢者の方にアプローチできる有効なプログラムであると評価され継続実施を希望された。

ゆるやかな連携として、初めてビジネスパーソンを対象するにあたり、過去にプログラムに関心をもっていただいたメディアの方々のネットワークで、実施場所を提案していただくことができた。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

北区での事業で独自に作成したチラシで参加者を募る際の広報に苦労した。北区3団体と実施したが、初回の市民団体運営の場所でそのまま継続できたところは1か所で、その他は別の場所と時間枠を設定し、新たな参加者を募る必要があった。

ビジネスパーソン対象のARTRIP+αでは、開催できるレストランの個室の確保が大変であった。

#### ◆解決策

区民センターの職員の方が熱心に関心を持ちそうな参加者に、個人的に連絡をして募集をかけてくれて毎回同じ方々が参加された。また、社協の方に地域の市民団体にチラシをご配布いただき、団体代表の2名の方々にご参加いただいたが、時間切れでその先につながらなかったのは非常に残念であり、SNSに不慣れな在宅高齢者の方々に短期間での広報の困難さを痛感した。

最適解は、プログラムの対象と場所・団体の利用者の方々とのニーズの合致を見つけられる場の創出。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

今年度の取組では、在宅高齢者（特に男性）の方とビジネスパーソンとの孤独・孤立防止に取り組んだが、次年度もそれを継続して取り組む必要がある。加えて、北区社協がアプローチできないという子育て世代の方へもアートリップを通してのアプローチを試みたい。

#### ◆取組の継続方法

来年度以降も継続するため、アート茶話会とARTRIP+αは有償化により継続の可能性が高いが、享受者負担が困難な北区の事業では、継続を模索中、地域の企業にスポンサーを募るか、地元自治体の市民活動助成に応募を検討している。

子育て世代へのアプローチは、シングルマザーや子育て世代を対象に活動する団体と連携を試みたい。

#### ◆他団体への波及可能性

この成果を通じて、他団体においても対話を軸としたアート鑑賞のアートリップを実施することが全国でスタンダード化することにつながる可能性がある。その際、アートは敷居が高いと思われないことが重要。

今回の取組を通して、アートリップが在宅高齢者の方やビジネスパーソンに高い満足感を与え、参加・継続希望が高いこと、また単なる教養でなく、参加者同士が交流する仕組みを提供することが重要であると実感した。

#### ●団体概要

一般社団法人Arts Alive

代表：林 容子/設立：2009年/正会員：80名

所在地：東京都豊島区駒込2-5-1-903

主な事業：アートリップ（対話型アート鑑賞プログラム）他

#### ●メッセージ

・ アートを交流のきりくちとすることは、これまで交流に場に参加されなかった層（男性高齢者等）へのアプローチにもなった。

# こども食堂での文化プログラム体験を通じた多世代間の交流促進事業

認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ（東京都渋谷区）

## ●本事業のポイント

- ①多世代交流拠点としてのこども食堂×文化プログラム
- ②地域活動団体との連携によるチラシの全戸配布と声かけ
- ③こども食堂での事業評価によるエンパワメントと中間支援団体の伴走

## ●キーワード

食/こども食堂/文化/多世代/こども/高齢者/地域づくり/イベント

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

- 坂井市は4つの地区が合併し、現在は約9万人の人口規模であるが、新興住宅地と旧村部、旧地域住民同士の知り合う機会が少ない等地域住民のつながりの希薄さ、孤立化が課題となっている。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

- むすびえと坂井市社会福祉協議会は、「居場所の包括連携によるモデル地域づくり」で3年間協働をしている。これまでの連携の中で、こども食堂の多世代交流という特徴を活かし、地域づくり支援につなげていけないかと考えていたこと、そして、多世代交流の居場所と多様な工夫が生まれやすく実施において特別な資格も不要で、継続しやすい文化プログラムの相性はいいことがこれまでの事業を通じて明らかになっていたことから、本事業を実施することとなった。



### ◆取組の目的

- 子どもから高齢者を対象に、地域住民の交流による地域のつながりと多様な人の地域参加を促し地域社会の変化を目的に実施する。具体的には、実施したこども食堂の近隣は学校、学童、コミュニティセンターが隣接するエリアで、文化プログラム体験をイベント的に実施することで、地域住民への発信・告知を強化することができるだけでなく、地域住民の出番や関り合いを創出し、新たな住民とのつながりの機会も生み出す。

## 2 取組内容

### ◆具体的な取組の内容及び特徴

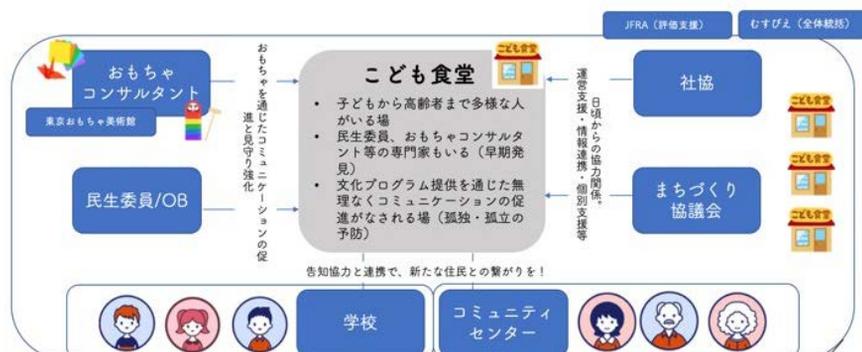
- こども食堂において文化プログラムを実施。文化プログラムは表現したり工夫したりすることを楽しみながら、季節や文化への理解を深めるだけでなく、手や道具を使って遊ぶものが多く、多世代で一緒に取組みやすいため、「教えられたり」「教わったり」「褒められたり」「手伝ってもらったり」「感性にふれたり」などの関わり合いとコミュニケーションがはかりやすく地域つながり機会の創出と見守り力の強化を図る
- 社会福祉協議会、まちづくり協議会と連携して、地域住民への告知等の情報発信や運営支援・情報連携・個別支援等
- アンケート、ヒアリング、グループインタビューによる事業評価の実施。事業評価をすることで、成果を見える化や運営者のエンパワメントだけでなく、事業改善にも寄与している。

### ◆連携先との関わり

- 主の連携先である坂井市社会福祉協議会とは、日常的にメールや電話で連絡を図ることができる関係性。坂井市社協が、告知・開催等に向けてこども食堂や地域団体等への連絡調整やコーディネートをした。

### ◆連携方法

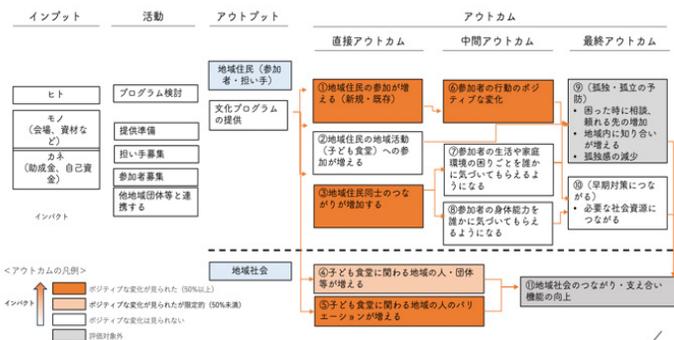
- 告知については、まちづくり協議会、小学校、保育園など既存の情報伝達ルートにてチラシを配布してもらうことで、全戸配布/対象者への広報を行ったことに加え、老人クラブなどでの直接の声かけを行うことで、個人情報管理負担を軽減することができた。



### 3 取組の成果

#### ◆事業評価（ロジックモデル）

- 本事業を通じて、地域住民（参加者・担い手）と地域社会の変化における直接的なアウトカムと中間アウトカムをとおして事業評価を行った。
- その結果、ポジティブな変化として確認できたものを下図の 橙色（濃薄で変化の度合いを表現）で示した。



#### ◆地域住民の参加とつながる機会の創出の成果

- 文化プログラムの実施が新規の参加者獲得と複数回参加者（リピーター）獲得に寄与していることがうかがえる。（アウトカム①）また、運営者ヒアリングからも参加者が通常の子ども食堂より2割程度多く、また年代も多様になったことが確認できた。（アウトカム①、⑤）
- 文化プログラムの実施は居場所への参加の継続率向上に寄与しているといえる。（アウトカム①）
- 子ども食堂及び文化プログラムの実施は地域住民同士のつながりの増加に寄与しているといえる。（アウトカム③）
- 文化プログラムの実施は参加者の行動のポジティブな変化（笑顔を見せる、運営者などに感謝の気持ちを伝える、参加者同士の会話の増加）に寄与しているといえる。（アウトカム⑥）
- 担い手に関しては、子ども食堂ボランティアの数に変化はなかったが（アウトカム②）、文化プログラムの提供に関して新たに東京おもちゃ美術館との連携がスタートし、おもちゃ学芸員が新たな担い手として参加した。（アウトカム④）

#### ●団体概要

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ

代表：湯浅誠/設立 2018年/職員数122名

所在地：東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-5 リンクススクエア新宿16F

主な事業：子ども食堂の支援を通じて、誰も取りこぼさない社会の実現を目指し、1) 地域ネットワーク支援事業、2) 企業・団体との協働事業、3) 調査研究事業の3本柱で運営

#### ●メッセージ

- 子ども食堂は、ボランティア活動であるがゆえに、これまで事業（活動）を評価するという自体あまり注視されてこられなかったが、誰でも参加できる地域の居場所が、どんな結果・成果につながっているかが明らかになることによって、運営者をエンパワメントする事ができることがわかった。また、地域資源やプレーヤーを知る中間支援団体がいることで、地域資源の連携が進むと考えられる。

### 4 取組において工夫した点

#### 取組において直面した課題

- 孤独・孤立の予防や困りごとの早期発見を目指すためには、より多くの地域住民の参加や担い手が増加する必要があると考え、情報周知の工夫を行った。具体的には、運営者や社協が働きかけ、既存の地域活動団体等の情報発信の機会を活用し、まちづくり協議会を通じたチラシの全戸配布や、近隣の小学校、保育園等での配布を行った。
- またそれらを促進していくためにも、シンボルマークを作成し、魅力的な発信になるように努めた。
- 本事業を行なったことも食堂は、コロナ禍で開始しており、食材配布の活動がこれまでメインだったため、ボランティアが調理や配膳をしただけで帰るといいうリズムになってしまっていた。このため、交流の時間をできるだけ長く持ってもらうために、事業の趣旨や目的の説明などを事前・実施中に行なった。

### 5 今後の展開

#### 今後の課題と展望

- 本事業の最終アウトカムである「孤独・孤立の予防」「早期対策」「地域社会のつながり・支え合い機能の向上」のような成果は事業期間が短いなどの制約要因があり確認できなかったが、それらのアウトカムにつながる変化（成果）が直接アウトカムを中心に確認された。したがって、文化プログラムを子ども食堂に組み入れることで、将来的に上記最終アウトカムの発現が期待できる。

#### 取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するために、坂井市社会福祉協議会と協議を行っている。（資金は、自主財源を活用する想定でいる。）

#### 他団体への波及可能性

- 本事業は、高い専門性が求められるアプローチではなく、広く地域住民。ボランティアが担っていけることが特徴である。それが故に、他の子ども食堂等での実施も比較的容易であり、他団体・他地域での展開が可能。
- また、坂井市社協は、厚生労働省が進める地域共生社会の実現を目指す関連事業として「重層的支援体制整備事業」を行っており、地域づくり支援における事業連携/波及効果を期待できるだろう。

# 玉城町つながりプラットフォーム事業

特定非営利活動法人 わんず（三重県玉城町）

## ●本事業のポイント

- ①週5日、うち2日は21：00まで開いているフリースペース
- ②10：00～24：00開設、ネットで会話できる公式LINEチャット
- ③居場所活動を行う他団体との連携

●キーワード  
居場所/子ども・若者/イベント/相談

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

- 玉城町では近隣市町から移転定住する家庭が増えており、以前からの住民と新たな住民との交流が少ないことが、町行政の課題としても挙がっている。転入者には子育て世代が多く、周辺市町と比較すると出生数の減少がゆるやかな状況である。
- 子育て世代が出会う場のニーズもあるが、子どもと共に遊びに行ける場所が屋内、屋外共に少ない。また、行政などの相談窓口も働いている世代にとって、気軽に訪れることが難しい状況があった。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

- 当法人のオフィスである一軒家を有益に活用しようと考えた時、子育て世代を中心に、乳幼児、子ども、シニアなど多様な世代が関わり合い、関係を作っていけるフリースペースの運営がふさわしいと考えた。
- また、外出することが難しい方々にもフリースペースに代わる交流の場を設ける必要があると考え、公式LINEのチャットを利用した雑談OKの窓口を開設することとした。

### 取組の目的

- 孤独・孤立に陥りやすい人々（子育て世代、不登校・行きしぶりの子ども、障害者、独居など）が週5日集まれるフリースペースを設置することで、社会（他人）との繋がりづくりを助ける。
- また、外出が難しい人も参加できるよう公式LINEを利用したチャットを行うことで、社会参加を促す。
- 居場所活動を行う団体が連携することで孤独・孤立を感じている人々の早期発見、早期サポートに繋げる。

## 2 取組内容

### ◆具体的な取組の内容及び特徴

#### ①フリースペース「わんず（Ones）スペース」

月・木 10：00～21：00、  
火・金・土 10：00～17：00開設

【来場を促す工夫】

- Wi-Fi設置
- 100円ドリンクの発売
- おもちゃや将棋盤などボードゲームなどを用意
- ミニイベントの開催

（ミニイベントの例）

浴衣体験、ちくちく同好会（手芸）、CANVA講座、風鈴の絵付け、つまみ細工のキーホルダー作り、野菜の無料配布、ミニ国際交流、夜のわんず（アルコールOKの集まり）オカリナ演奏会、動物の譲渡会の理解を求める紙芝居、体操などの教え合い、等

- 利用者へのボランティア等社会参加の働きかけ
- コワーキングスペースとして活用

#### ②わんず（Ones）チャット

公式LINEのチャットを利用し、休業日無しで  
10：00～24：00まで対応

### 連携先との関わり及び連携方法

- ①令和5年9月21日 第1回連携会議  
合同会社たまきあい、特定非営利活動法人玉絆と三者で連携会議を行う。玉城町の福祉施策の問題などを情報共有したのち、それぞれの対象者を確認し、それぞれの居場所に他団体の利用に繋げることが望ましい人が訪れた際にどのように情報共有し、互いに見守りを行うかなどを話し合った。

- ②玉城町地域ケア会議 居場所部会に参加  
健康麻雀教室などを運営している居場所部会に参加し、当法人のフリースペース、チャットを周知すると共に、居場所運営の連携などを依頼。



### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- ①フリースペース「わんず（Ones）スペース」  
利用者数（1月31日時点） 1,245人（開所日133日）  
1日平均9.3人が来訪  
・悩みをサポート  
訪問者との会話から、悩み相談など、サポート15件以上繋げる。
- ②わんず（Ones）チャット  
利用件数（1月31日時点） 59件  
・悩みをサポート  
児童虐待が疑われるケースを玉城町役場、他団体と共有。見守りを継続。  
母親の過干渉に悩んでいる知的障害者のケースを他団体と共有。見守りを継続。



#### ◆つながりの醸成

- ・利用者者を無償ボランティアなどの社会参加に繋げた。具体的には、町内で行われた縁日イベントの事前、当日スタッフに参加するほか、当法人が運営している農園イベントへスタッフとして参加するなど、新たな関係性づくりを促した。
- ・また、中学生以上の世代にユースボランティアとして登録してもらい、学校でも家庭でもない第三の居場所できいきと活躍できる素地を作った。のべ10名以上の中学生が町内イベントでのボランティアに参加した。

#### ◆連携による効果

- ・ケースの早期発見  
複数の団体がそれぞれの居場所活動の中で見守りを行うことによって、問題を抱えるケースを早期に発見、支援することができた。
- ・最適な居場所の提案  
居場所活動をしている団体にはそれぞれ主な利用者層があり、別の居場所を訪れた人を最適な居場所に導くことができた。
- ・複数の視点による見守り  
居場所の利用者の中には、複数の居場所を活用、居場所を渡り歩くケースも少なくない。団体が連携したことにより、複数の視点から見守りを行い、連携して、支援に当たることによってそれぞれの専門性を活かし、包括的な支援ができるようになった。
- ・情報交換  
それぞれの情報を持ち寄り、互いに議論することで問題を共有すると共に、専門性、知識や技術の向上が見られる。今後は勉強会やセミナー等に繋げていきたい。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- ①利用者の増加促進（周知）
- ②利用者のニーズの読み取り

#### ◆解決策

- ①チラシ（町広報誌挟み込みにより全戸、イベント等での配布を行い計12,000枚配布）  
プレスリリース発行（新聞社2件、FMラジオ1件の取材を受ける）  
SNS発信（Instagram、X、Facebook、LINE活用）  
クチコミ（特にスペース世話人によるクチコミが効果を発揮。それぞれの活動範囲で発信してもらうことで、当法人を知らなかった層の利用が拡大）
- ②日々、スペースを訪れる人に対して世話人がそれぞれのスタンスで寄り添い、話を聞きだすなど丁寧な対応を心がけてくれた。話をきっかけにミニイベントなど活動に繋がるケースも多数あった。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

フリースペースの継続等に関する資金調達。

#### ◆取組の継続方法

「赤い羽根ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン」の第8回助成が決定し、以下のとおり活動拡大して継続することとなった。

- ①フリースペース「わんず（Ones）スペース」継続  
週5日（平日）午後から開設。土日祝日、夜間の利用はイベントなど希望がある際に対応していく。開設予定は令和6年2月13日から。
- ②わんず（Ones）チャット継続  
利用時間を19：00～24：00に変更。「いない時はごめんね」とゆるい繋がりで継続を考えている。開設予定は令和6年2月13日から。

#### ◆他団体への波及可能性

- ・わんず（Ones）スペースの世話人の一人が中心となり、週1回、小学生の帰宅時間が早い水曜日に子どもの居場所が開設された。他にも、居場所運営についての問い合わせ、自ら取り組んでみたいという夢や希望が寄せられている。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人わんず  
代表：栃本明子/設立 2019年/職員数18名  
所在地：三重県度会郡玉城町田丸176  
主な事業：人や団体の繋がりを作り、地域の人々がそれぞれの場所で活躍できるよう拠点づくりと中間支援を行っている。

#### ●メッセージ

- ・行政のタテ割りの枠では解決できない孤独・孤立対策の取組は、採算事業とするのが難しく、継続するためには資金面や保険などの安全面での問題も多い。
- ・しかし、多くの人が人や社会と繋がる場を求めており、場が醸成する雰囲気や関係性を育てるために必要だと感じる。居場所活動が広がり、孤独・孤立に悩む人がひとりでも減っていくよう、我々も活動を続けていきたい。

# 0歳から10代のインクルスペース「こども・若者図書館」プロジェクト

## NPO法人 こどもサポートステーション・たねとしずく（兵庫県西宮市）

### ●本事業のポイント

- ①0歳～10代のこども・若者の孤立を防ぐ
- ②小規模で多機能なフリースペース
- ③保育士資格のある専門スタッフと学生スタッフがこども達を迎える

### ●キーワード

こどもの権利／  
インクルーシブ

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

西宮市の不登校児童の割合は、H29年以降増加傾向にある。（R2年度小中学校不登校児童の割合：全国4.09% 西宮市5.37%）。当団体がこれまでにひとり親家庭支援に関わってきた家庭には、不登校児童の割合が高い。また近年、不登校児童の親の相談先は増加しているが、こどもの日中の居場所は限られる。またフリースクールは高額で困窮家庭のこどもは利用しにくい。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

当団体に関わりのあるひとり親家庭にアンケートを行ったところ、障がいのあるこども達の割合も高く、特別な配慮が必要なこども達が地域の居場所に行きづらいことがわかった。また、日中に学校に行かず、ひとりで留守番していることも多いことを知った。また、複雑な背景やこどもの障がいなどが理由で孤立を深めない居場所が必要との認識があった。

### ◆取組の目的

孤立しがちな不登校児童や障がいのある乳幼児親子が日中過ごせる場所を開設し、社会的孤立を防ぐ。同じような境遇の同年齢が集まる場ではなく、さまざまな世代や地域の人が共に過ごすインクルーシブな場にする事で、誰もが受け入れられる安心感を感じながら過ごすことができる。まずは家から一歩出ることから始め、徐々に自発的に参加したり、役割を見つけていくことを目指す。

「学ぶ」・・・中学生以上は自由に2階の自習室で勉強することができる。

「企画する」西宮市のこども支援団体が中心になり実施した「こどもマルシェ」に当居場所を利用するこどもたちが主体になってホットドック店を出店した。



### ◆連携先との関わり

- ・こどもを中心に支援を行う。日々、関係機関と連絡調整しながら、保護者からの直接相談だけではなく、学校園・児童相談所、行政担当者からの相談の窓口となる。
- ・保護者からの相談には、保護者担当が窓口になり対応する。当団体だけでは支援が十分ではないと団体内で判断した場合は、他の支援団体や行政サービスにつなぎ連携して支援を続ける。
- ・深刻な状況の場合は関係者が集まりケース会議を実施。支援のあり方を協議しこどもと保護者を支える。
- ・開催日は必ず終了時間後にスタッフにより振り返りを行い、支援者間の意見交換を行い、支援者が孤立しないように工夫をしている。また、専門的な悩みや課題に対しては臨床心理士や看護師等の専門家にスーパービジョンを受ける。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

こども・若者図書館「たねとしずくライブラリー」の運営

◆実施日時：平日3日間(水・木・金)、10時～15時

◆実施内容：

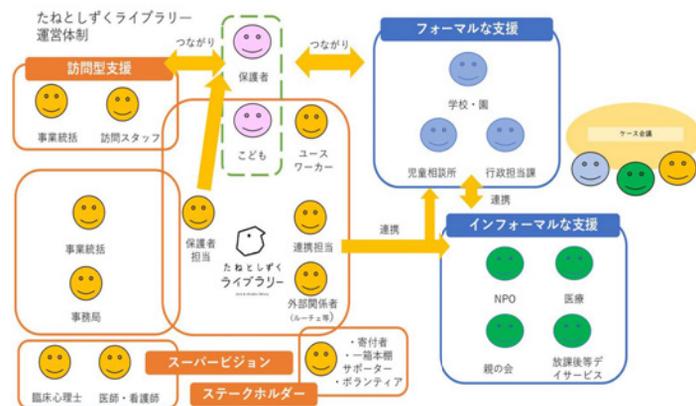
「居る」・・・図書館として開館している。本や漫画を手にとったり眺めるだけでもよい。今ここに「居る」口実ができる。

「本」・・・本に出会う貴重な経験。

「食べる」・・・ごはんと汁物を無償で提供する。

「経験する」・・・料理、掃除、植木の手入れ、裁縫など、日常的な作業を手伝い、担うこともある。

「遊ぶ」・・・外遊び、カードゲームなど、ともに遊ぶしかけも準備している。



### ◆連携方法

- ・当団体の事業である「訪問型支援」と連携し、そこで出会ったこどもたちをライブラリーに誘い、学び・遊びの場の機会を提供した。

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

週3日10時から15時まで開館しているため、学校に行きにくい子ども達が継続して利用している。子ども達が日中過ごせる場所は少なく、親子での見学を通して外に出る一步の役割を担っている。

#### ◆つながりの醸成

##### 子どもたちの変化

・普段、体を動かす機会の少ない子ども達が居場所に来て、公園で一緒にバレーボールや縄跳びなどをする姿が見られる。異年齢が教え合う姿も多く見られるようになり、通い始めの頃とは違う表情を見せてくれるようになった。

##### 本との関わり

・ライブラリーでは本を手取る、本について話す機会が多い。本に対して親近感を抱く子どもたちが増えた。ほかの人が読んだ本を借りて帰る姿や読みたい本やマンガをスタッフにリクエストすることも達している。

### 4 取組において工夫した点

#### 【課題】

スタッフ間の日々のできごとの共有方法を決めないまま居場所がスタートした。

#### 【解決策】

グーグルフォームの振り返りシートを作成し、毎回閉館後に担当スタッフが入力するようにした。嬉しいエピソード、困ったことなどを共有し、個々の子どもとどう関わっていくかをスタッフ、学生スタッフ間で話し合うようにした。

#### 【課題】

不登校の親子の見学は多いが、子どもと一緒にいる場合、状況を聞き取ることが難しいまま子どもだけの利用が始まっていた。また、低年齢の子どもだけで利用することもあり、親とのコミュニケーションの必要性がでてきた。

#### 【解決策】

・HPに見学の場合は事前に電話やメールで連絡をもらうように追記した。その後は事前に電話等で保護者と話をした上で見学に来てもらえるようになった。  
・親向けの団体説明書類、登録用紙を作成した。子どもだけで利用している場合、それらの書類を手渡し、次回来館時に持ってきてもらうようにした。

#### 【課題】

開館から数ヶ月経ち、利用する子ども達を増やしていきたいと感じている。

#### 【解決策】

近隣高校1、中学校2、小学校2に施設の案内を配布。校長などとも意見交換できた。

#### 【課題】

不登校の子どもたちが定期的に利用するようになり、個々の子どもの成長をどう見守り、学びを後押ししていくか専門的な知識をもつスタッフが必要と感じる場面が出てきた。

#### 【解決策】

不登校支援に関心を持つ学生ボランティアと日中の過ごし方、子どもとの関わり方などについて話を。スタッフ間で今後の対応を検討している。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

##### 【孤立する乳幼児親子を対象にした企画】

ひとり親家庭の乳幼児親子、障がいのある親子が参加しやすいように開催日や時間、テーマなどを工夫し、つながるハードルを低くする。子育ての方法や悩みを気軽に相談でき、孤独を感じずに子どもを育てられる状況を作る。

1. 乳幼児との遊び方、おもちゃづくりを学ぶ
2. 障がいのある子ども達が音楽や楽器に触れる

##### 【連携】

児童相談所や子ども家庭支援課からの紹介に対しては、ケース会議などで状況を共有し、子どもの成長にどう伴走するのかを一緒に考える体制を築いていく。また、西宮市の子ども・若者の居場所のロールモデルになり、公的な居場所の設置につながるように、運営基盤を整え、知識や経験を共有できるよう情報を整理する。

##### 【一箱本棚サポーター】

大人の利用ができないライブラリーに大人が関わるしかけとして「一箱本棚サポーター」制度を設ける。現在53人のサポーターがマンスリーサポーターとして寄付と本の提供でライブラリーの運営をご支援いただいている。子どもたちにとっては、本との出会い、個性的な本棚から様々な大人の存在を感じる。団体にとっては、居場所運営及び資金面での安定につながっている。来年度は80人のサポーター獲得に向けてサポーターのための限定イベントや、SNSでの発信を強化していく。



#### ● 団体概要

NPO法人子どもサポートステーション・たねとしずく  
代表：大和陽子/設立：2022年/スタッフ：運営スタッフ5名・学生スタッフ3名・ボランティア10名程度  
所在地：兵庫県西宮市城ヶ堀町2-22早川総合ビル3F

<https://tanetosizuku.com/>

主な事業：訪問型家事・子育て支援、子どもの居場所支援、支援者の支援等

#### ● メッセージ

- ・ 居場所を開設して半年、子ども達に家と学校以外の居場所があること、その場所を中心に「子どもの権利」が子どもにも大人にも周知されていくことに大きな意義を感じている。このような居場所を全ての子ども達が享受できるよう、今後も尽力していきたい。

# 芸術家のワークショップによる孤立を防ぐ子どもの居場所づくり

特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち（東京都豊島区）

## ●本事業のポイント

- ①文化活動による地域の子どものつながりづくり
- ②創造体験による自信の育成やコミュニケーション力、人とつながる力の強化
- ③地域の子ども支援団体との連携による子どもを取り巻く環境の改善

## ●キーワード

居場所/こども・若者

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

親の経済的貧困が子どもから学習や文化的体験の機会を奪い、その結果、低学力低学歴となり職業選択の幅が狭まると貧困の連鎖が生じる。

外国ルーツの青少年への支援は主に「教育分野」に偏りが見られ、生活・福祉等に関わる支援やその他の社会的資源へつなげることも課題である。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

当法人が活動拠点をおく豊島区内において、困窮家庭や外国ルーツの子どもの対象とした文化活動の機会が少ないことに注目し、区内で同対象者向けに食事や学習支援を行っている認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークにヒアリングを実施。困難を抱える子どもたちを対象とした文化活動の機会づくりの必要性について、同意を得ることができ、連携による事業実施を企画した。

### ◆取組の目的

生きづらさを抱える子どもたちが、文化芸術に親しみ、感動する心や自他の表現を認める心を育みながら、人とのつながりを生み出すことを目的とした。



影絵の体験

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●困難を持つ家庭の子どもの対象としたワークショップ（グループ1）

- ・豊島区内のひとり親家庭や困窮家庭、外国にルーツを持つ家庭の子どもたちが対象。
- ・演劇やダンスなど、多様な表現活動を取り入れたワークショップを区内集会室で実施。

#### ●母子生活支援施設を対象としたワークショップ（グループ2）

- ・豊島区内の母子生活支援施設で暮らす子どもたちを対象に、音楽ワークショップを実施。

#### ●発表会

- ・各グループで月2回程度の間隔でワークショップを行い、終盤は2つのグループがワークショップや発表会を通して交流。ワークショップで創作したオリジナルの舞台作品を上演した。観客は、保護者や日頃から子どもたちの支援に携わっている人を招き、地域で孤立しがちな家族同士の交流を生み出すと共に、支援する団体間の連携を深めた。

#### ◆連携先との関わり

- ・連携先である認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク（以下WAKUWAKUネットワーク）は豊島区内で子ども食堂やプレイパーク、学習支援等を展開している。当該NPOがつながりのある家庭を中心に、参加者募集やワークショップ日の送迎の協力を得た。
- ・母子生活支援施設「愛の家ファミリーホーム」とは、入所者や近隣の退所者を対象に参加者募集や、ワークショップ実施場所の提供において連携した。
- ・アーティストは、様々な課題を抱える多様な子どもたちの興味・関心を引き出せるように、特別支援学級などでもワークショップの経験が豊富な渡辺麻依（演出家・俳優）、中村大史（音楽家・作曲家）を選定した。加えて、子どもたち一人ひとりの興味関心に応じた対応ができるようにアシスタント・アーティストも起用した。
- ・豊島区内のひとり親家庭や困窮家庭、外国にルーツを持つ家庭の子どもたちへの参加募集では、大塚エリアで学習支援や住宅支援などに携わる方々の協力を得て、参加募集チラシを配布した。また、ワークショップ開始後も、情報をキャッチしづらい層に対し、個別の声掛けを継続した。

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- 本取組への参加者は、期間を通じてグループ1で延べ32人、グループ2は延べ12人の子どもとその保護者3名となった。
- 利用者アンケートでは、本事業を経験した子どもたちの成長や変化が「あった」と回答した人が86%。「家でも踊っています。創造力が付きました。」「個々にのびのび動きながらも、全体のまとまりもあって“みんなで場をつくる”ことが感じられた。」といった意見が認められた。意欲面や表現面等でプラスの効果が認められ、それが将来的な孤立予防につながる効果が期待できる。

#### ◆つながりの醸成

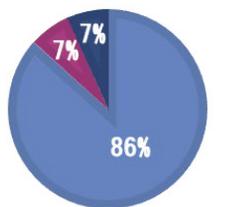
- 発表の観客向けアンケートでは、「地域の中に、学校以外の友達とつながりが持てる場があることをどう思いますか？」という質問に100%の人が「よい」と回答。
- 本取組によって、地域における子供のつながりの醸成の成果について地域で多くの賛同を得ることができた。
- また、保護者が「今回のようなワークショップや発表にまた参加させたいか？」という質問に83%が「はい」と回答。地域におけるつながりの必要性について保護者の理解を得ることができた。

#### ◆連携による効果

- 子ども募集にあたっては、大塚エリアでひとり親家庭や困窮家庭、外国ルーツの家族への支援を行っている人や場をWAKUWAKUネットワークに紹介いただき、地域の支援者たちにも、チラシだけでは情報が届きにくい家庭へ個別の声掛けを行っていただけよう働きかけた。参加募集を通して、地域の支援にかかわる大人たちの横のつながりが見えた。地域の子ども支援に関わる大人たちとの関係が構築された。

Q.ワークショップや発表を通して、子どもたちの成長や変化を感じることがありましたか？

N=15



■あった 86% ■なかった 0%  
■わからない 7% ■未回答 7%

Q.地域の中に、学校以外の友達とつながりが持てる場があることをどう思いますか？

N=15



■よい 100%

アンケート結果  
(一部抜粋)

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

グループ1を進めていくうえで課題となったのは情報の伝達と、参加の継続性である。それぞれの家庭の事情や連絡の不達によって、参加予定の子どもが当日参加できなかつたり、期間中の継続参加が難しい子どもがいた。グループ2では、参加者募集にあたり、参加型の表現活動(ワークショップ)への心理的ハードルが見られた。

#### ◆解決策

グループ1では、上記内容を解決するために、まずは連携団体によって継続的に声掛けを行い、多くの子どもの参加を得ることができた。また、事業終了後の情報提供に向け、LINEを活用した新たな連絡手段を整備した。グループ2では、ワークショップ時間の前半に、アーティストによるミニコンサートを実施。複数の子どもたちや親子が音楽に出会う場づくりを行うことで解決を図った。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 今年度の取組では、継続的に参加が叶わなかった子どもいたため、次年度以降も継続的に場づくりに取り組み、本事業を地域に定着させる必要がある。予算が確保できれば、長期的に、複数の地区で、より頻回に活動を行う必要があると思われる。

#### ◆取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するため、行政への働きかけを通じてより長期的な運営体制を整える。寄付や助成金による資金調達を実施するほか、連携団体との関係継続、支援対象者とのつながりつづけるために、保護者が日常的に利用している連絡手段(LINE)を整備。連絡やフォローアップの方法などWAKUWAKUネットワークの経験やノウハウを参考に、参加者がより扱いやすいものに整備していく。

#### ◆他団体への波及可能性

- この成果を通じて、他地域においても、困難を抱える子どもたちへの食事や学習支援を行う団体と、芸術文化団体の連携が進み、困難を抱えた子どもがアートや表現活動に参加する機会が生み出され、子どもたちが心理的に成長する新しい孤立防止のアプローチが始まることを期待したい。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人芸術家と子どもたち  
代表：堤 康彦/設立：1999年/スタッフ10名  
所在地：東京都豊島区池袋本町4-36-1 旧文成小学校2階  
主な事業：アートを通じた交流、学校等でのワークショップ等

#### ●メッセージ

- 今回の取組では連携団体から多大な協力を得られたことで沢山の子どもと繋がることができ、子どもたちへのアートを活用した支援が孤立予防につながる手応えを得ることができました。同じ地域で子どもの支援にあたる連携団体と目的意識を共有することが新しい支援の可能性を開くと思います。

# 中高生のIT居場所を活用した孤独孤立解消を目指す包括支援事業

認定NPO法人 CLACK (大阪府大阪市)

## ●本事業のポイント

- ①デジタル機材への興味関心をつかったアウトリーチ
- ②地域の支援団体等と連携したアウトリーチ
- ③安心できる居場所とITスキルを身につける機会の提供

## ●キーワード

居場所/こども・若者

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

貧困、不登校、外国ルーツ、発達障害、ヤングケアラーといった困難を複合的に抱える中高生が大阪市には多い一方で、こういった困難を抱え、孤独孤立状態のまま時間が過ぎ、将来自立が難しい状態になってしまう課題がある。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

私たちは、中高生のデジタル機器への興味関心の高さ、ITスキルを身につけることでの将来の自立へのつながりやすさ高さに着目してきたが、学習だけでなく居場所としての機能を有し、継続的に個人のペースでの支援が必要だと感じ、本事業を開始した。

### ◆取組の目的

本取組の目的は、孤独孤立状態にある中高生とデジタル機材への興味関心を用いて、つながった上で将来の自走につながりやすいITスキルを身につけるための学びの機会に繋げていく。それらを通じて、ひとりひとりのペースに合わせてITスキルだけでなく、援助希求能力や頼れる大人とのつながり、問題解決能力などを醸成する。これによって、困難を抱える中高生に広くアプローチし、将来の自立に繋げていくことを目的とする。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●つながるきっかけとしてのデジタル機器

- 中高生の興味関心が高い3Dプリンター、レーザーカッター、ゲーミングPCなどを用いて、困難を抱え孤独孤立状態にあった中高生にアウトリーチを行う。

#### ●支援団体と連携したアウトリーチ

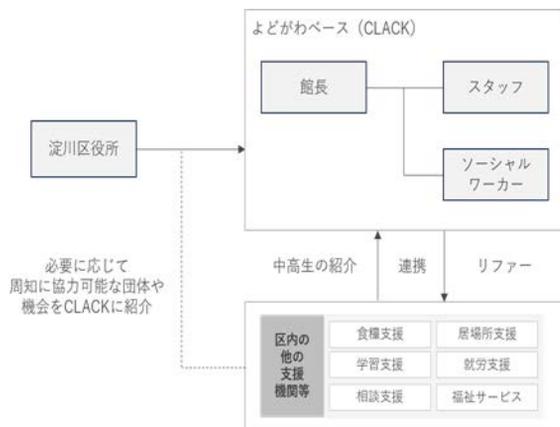
- 淀川区内の中学や高校といった日常的に困難を抱える中高生とつながっている機関や子ども食堂や居場所支援を行う団体と連携し、アウトリーチを行う。

#### ◆連携先との関わり

- 淀川区役所とは定期的に居場所の運営に関する情報交換を行っている。また、中学校への居場所開始の周知や、区内の相談窓口の定期的な会議などに必要に応じてCLACKから居場所の周知をさせてもらうなどの連携も行っている。
- 既存事業でつながってきた高校でのチラシの配布、淀川区役所や淀川区社会福祉協議会から紹介を受けた子ども支援団体への出張イベントの実施や各団体が運営するLINEでの周知などで連携している。



デジタル機器の活用



関係機関との連携図

### 3 取組の成果

#### ◆困難を抱える中高生のつながりの醸成

- 中高生が孤独孤立ではなく、日常的にだれかと繋がれている状態をつくることができた。たとえば、淀川区内の中学校やNPO等の支援団体と連携し、さまざまな困難を抱える中学生にリーチすることができた。週3日の開設に関わらず、経済困窮や不登校などで孤立している中学生は平均週2日程度の利用する姿が多く見られた。

#### ◆他団体との連携体制の構築

- 居場所や食事支援を行う団体とは、淀川区内のこども居場所ネットワークで居場所の情報提供を行った。実際に2団体で出張イベントを実施することもできた。
- 居場所や食事支援や相談窓口を行うNPOや支援団体との連携は4団体になり、継続的にケースについての情報交換を中学校1校と高校2校と行っている。



居場所での活動の様子

### 4 取組において工夫した点

#### ◆中学生へのアウトリーチ

これまで行ってきた事業の性質上、高校生との接点は多く、居場所開設直後から多くの高校生が参加してくれている。しかし、中学生向けの周知は当初の想定より広がらず課題を感じる場面も多かった。

地域の支援団体での出張イベントや、すでに定期的に参加している中学生が在籍する中学校との打ち合わせや再度の周知などを今後も行っていく。

#### ◆個別のケース対応

開所してから中学生や高校生の中でも定期的に参加している子どもたちがいる。そういった子どもたちと日々コミュニケーションをとっていると、すでに経済的に困窮していたり、不登校状態にあるなどのなにかしらの困難を抱えている状況であることがわかった。そういった中高生に対して、どこまで踏み込んでケース対応をしていくのが課題としてあがった。

ケースごとの対応を一律に決めることは難しいため、まずはよく参加している中高生の中で進路や生活環境などに課題がありそうな子どもたちから順にカウンセリングを開始した。カウンセリングを開始したことで、生活や学校での状況がクリアになり、居場所での関わり方を具体的に、スタッフ間で共有することができるようになった。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 居場所としての安心した空間をつくることができたものの、将来の自立につながるためのステップやチャレンジを中高生に提示しきれない部分も多かった。
- 事業目的の言語化とスタッフ間での共有を進めることが必要になる。

#### ◆取組の継続方法

- 来年度、再来年度は別の助成金での資金確保ができています。しかし、その後の継続も視野に入れ、企業からの協賛を得るなどのアプローチも進めていく。

#### ◆他団体への波及可能性

- この成果を通じて、デジタル機器を活用したアウトリーチをパッケージ化することで、新しいアウトリーチの手段としての可能性を模索していきたい
- 今後の社会的なニーズからも、同様にデジタル機器のある居場所は増えていくと考えており、今後の継続的な活動の中で運営のパッケージなどを整備し、全国で波及できるモデルにしていきたいと考えている。

#### ●団体概要

認定NPO法人CLACK

代表：平井 大輝/設立：2019年/スタッフ20名

所在地：大阪府大阪市淀川区十三東

4丁目1-5 よどがわベース2階

主な事業：高校生対象のプログラミング学習支援、キャリア支援等

#### ●メッセージ

- 本助成金を活用して中高生のための居場所提供のスタートを切ることができ、孤独孤立状態に陥らないための支援を行っております。
- 引き続き居場所を運営していくことはもちろんですが、今回の活動を通じて、孤独孤立の予防や早期対応には、単独ではなく他団体との協力が不可欠であることを再認識しました。より多くの子どもに支援が届くよう、たくさんの団体、パートナーが協働し、インクルーシブな社会の実現ができるよう願っています。



居場所での活動の様子

# 中山間地域の不登校児等を対象とした森のユースセンター事業

一般社団法人 よだか総合研究所 (岐阜県揖斐川町)

## ●本事業のポイント

- ①放棄山林を活用し、中山間地域に屋外型のユースセンターを設置した
- ②利用者の約45%は、学校やフリースクールに全く通わない子どもだった
- ③子ども若者への行政予算が少ない地域で、貴重な選択肢を提供した

## ●キーワード

子ども・若者/地域貢献/自然活動/中山間地域

## 1 取組の背景と目的

### ◆不登校児童の居場所の不足

2021年度、岐阜県内の小中学校で、不登校だった子どもは、4,371人と前年度より約27%増え、過去最多となった。当団体が活動する本巣市や揖斐郡においても、不登校は急激に増加している。特に本巣トンネル以北の根尾川流域には19歳以下の子どもが1,382人いるが(本巣市民560人、揖斐川町民822人。

2021年国勢調査)、この地域に学校と家以外に子どもが自由に居場所にできる空間や、率直な話や悩みの相談ができる場所が圧倒的に不足しているため、中学生の自殺未遂が発生するなど、孤独孤立が極限化している。



### ◆取組を始めるに至った経緯等

当法人は2020年以降、子どもの権利保障に関する勉強会、基礎調査および情報提供、担い手となる人々のコミュニティ形成等に取り組んできた。その過程で、子ども若者のサードプレイス不足や、それによる深刻な影響を発見し、速やかにユースセンターの実装に取り組む必要があると考えた。

### ◆取組の目的

当法人は(1)一時避難所としての安心できる居場所を提供して自殺や引きこもりや孤立を予防する、(2)地域社会や自然の中での豊かな体験を通じて生きる力や自己効力感や社会性を育む、の2点を目的として、ユースセンター事業を実施する。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容及び特徴

#### ・内容

「根尾川むいむいの森」に、ユースセンターを週1日(6時間/日)開設する。来訪した子どもに対して、安心安全な居場所と遊び場、自然体験プログラム、カウンセリングや進路相談、プロジェクト型学習を臨機応変に提供する。

#### ・活動場所

「根尾川むいむいの森」は、樽見鉄道谷汲口駅から徒歩10分、根尾川に隣接した約4000m<sup>2</sup>の針広混交林を活用したフィールドで、多様な自然体験や休息が可能。元々は放棄山林であった。当法人が所有・運営する。

住所 岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬485

web <https://mui.place/>

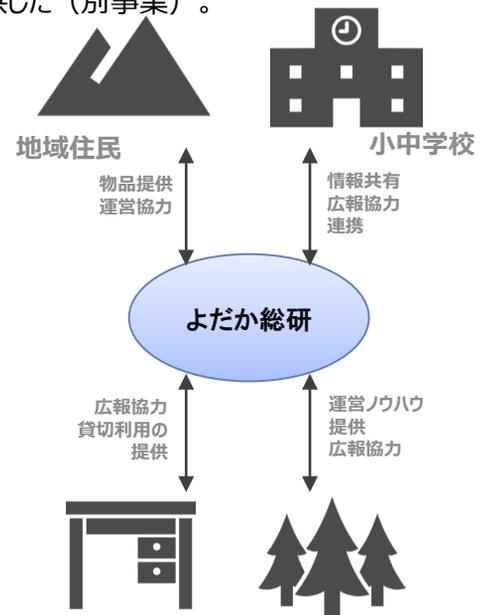
#### ◆連携先との関わり

・対象地域の小中学校：教育委員会からの後援のもと、本事業に関するチラシの配布に協力いただいた。子どもの支援状況について情報共有し、よりよい支援方法や連携方法を検討した。

・いび森のようちえんこだめき：野外活動や子ども支援の豊富な知見を活かし、ボランティアスタッフやリスクマネジメント手法を提供するなど、ユースセンター運営に協力いただいた。また、不登校児等との繋がりを活かし、広報に協力いただいた。

・対象地域の住民等：物品や活動場所等の提供等、様々な協力をいただいた。

・周辺地域のフリースクール・支援団体等：不登校児等との繋がりを活かし、広報等に協力いただいた。貸切サービスを提供した(別事業)。



#### ◆連携方法 フリースクール等

・揖斐川町、本巣市、揖斐川町教育委員会、本巣市教育委員会から後援を得た。

・揖斐川町および本巣市の自治体職員や議員に対して、説明会を開催した。

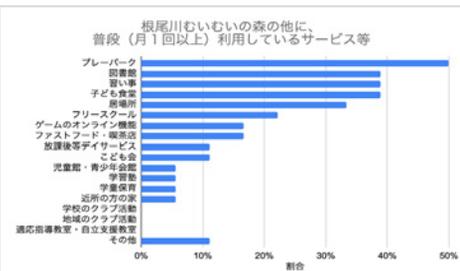
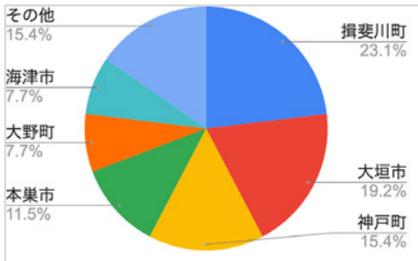
・地域住民に対して、広報チラシを定期的に配布した。

### 3 取組の成果

#### ◆居場所としての定着

- ・期間中、ユースセンターを毎週月曜日（祝日年始を除く）、合計26回開催した。
- ・期間中、子ども若者の合計利用者数はのべ331名だった。
- ・利用者の居住地構成は、揖斐川町(23%)、大垣市(19%)、神戸町(15%)、本巣市(12%)、大野町・海津市(各8%)、その他(15%)。

刈谷市や米原市など、岐阜県以外からの参加もあった。



・小中学生の利用者の45%は学校にまったく通っておらず、フリースクールも利用していなかった。

- ・他の支援サービスを利用できない子どもが「むいむいから帰ってくる日はとても機嫌がいい」という事例が相次いだ。
- ・利用者の72%が、むいむいの森に来て、考え方や気分が「ポジティブな変化があった」と答えた。

#### ◆「森のユースセンター」の特性を活かした成果

- ・利用者がユースセンターで好きな過ごし方の上位は、火と遊ぶ・水と遊ぶ(各72%)、体を動かす・友達と過ごす(各67%)、木と遊ぶ・玩具で遊ぶ(各50%)など。屋外型の利点を活かした体験や居場所の提供ができた。
- ・広い空間で他人と距離が取りやすいことで、他人との距離感に悩む子ども若者が参加しやすかった。



・焚き火の料理やブッシュクラフト、秘密基地や小屋づくりなど、森の素材や環境を用いた子ども若者自身によるものづくりや没頭・創造によって、孤独状態を質的に転換する事例が生まれた。

#### ◆多者連携による支援の成果

- ・期間中、のべ96名の大人がボランティアスタッフとして参加し、子ども若者の利用者が孤独孤立に陥らないように見守る協力者として発掘できた。
- ・本巣市では、教育長や教育委員会の協力のもと、ユースセンター利用日が小学校の出席扱いとして認められるケースができた。



### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題 → 解決策

- ・近隣に釣り人等による不法駐車が発生した →案内看板を設立した
- ・川遊びが多く、安全確保のためスタッフの増員が必要となった →開催回数を調整、ボランティア参加を募り、育成の機会を提供した
- ・小中学校との連携強化 →「岐阜県 学校・フリースクール等連携ガイドライン」に基づく運営規定等を整備した
- ・ボランティア人材の発掘育成 →スタッフ希望者向けの公開研修を定期開催した

#### ◆子どもの居場所づくりにおいて工夫した点

- ・毎回、開始時や終了時の対話を通じて、子ども若者同士がつながる機会を作った
- ・スタッフ研修やふりかえりを定期的に行い、個別ケースを手厚くケアする体制を作った

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

民間団体として単独で申請できる補助金・助成金等を活用しながら、最低週1回のユースセンター開催を継続する。民間企業等との連携や寄付集めなど、複数の収入源を構築する。2024年4月にオープニングイベントを開催予定。今後、企業向けの研修サービス等（収益事業）を通じて、ユースセンター（非収益事業）を持続させるための収益確保をめざすため正式に事業を開始する。また、他の孤独孤立対策に取り組む民間団体や、ぎふNPOセンター等の中間支援組織と共に、岐阜県や県内市町村が官民連携でより一層の孤独孤立対策を推進するための政策提言に取り組む。

#### 他地域への波及可能性

中山間地域は都市部と比較して子ども若者が少なく、居場所やケアに割かれる行政予算や人的リソースが不足する傾向にあり、孤独孤立が深刻化しやすい。一方で山や川など豊かな自然があり、放棄山林も増加しており、子どもの受け皿となる潜在的な資源は豊富にある。本事業はそれらを活用してリデザインすることで、子ども若者の孤独孤立を防ぐための貴重な選択肢を提供し、かつ有効な仕組みとすることができた。他の中山間地域においても、ケア団体や環境保護団体や地縁団体などが協力することで、同様の仕組みを生み出せる可能性がある。

#### ●団体概要

一般社団法人よだか総合研究所  
 代表：中原 淳/設立：2016年/スタッフ：4名  
 所在地：岐阜県本巣市根尾門脇5-3/揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬8-7-8  
 主な事業：調査研究、子どもの権利推進、地域振興他

#### ●メッセージ

・中山間地域は、行政予算・人的リソースが不足する傾向があり孤独孤立が深刻化しやすい一方で、山や川など豊かな自然があり、子どもの受け皿となる潜在的な資源は豊富にある。それらを活用することで、子ども若者の孤独孤立を防ぐための仕組みを作ることができた。

# サンカク相談室

特定非営利活動法人 サンカクシャ（東京都豊島区）

## ●本事業のポイント

- ①オンラインでの居場所づくり
- ②配信を通じたアウトリーチ
- ③新たに繋がった若者とのゲーム大会

## ●キーワード

居場所/子ども・若者/  
オンライン

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

核家族化、地域のつながりの減少、コロナの影響などにより、人とつながることが難しくなった今、誰しもが孤独、孤立するようになるようになった。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

コロナの影響も相まって、若者の人付き合いは大きく変わり、オンライン空間で人と繋がり、居場所を見出すようになっている為、まずオンラインで、孤独感を感じる若者の日常に少しでも安心を与えられるような取組を作りたいと考えた。

### ◆取組の目的

本取組を始めた背景は、貧困、不適切な養育、不登校等の理由により孤立している子ども若者に対して、多様な主体が連携して包括的に支援する体制づくりを行い、子どもや若者が生まれ育った環境に左右されず、信頼できる他者と多様な社会資源に繋がることができる社会の実現を目的とする。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●オンラインでのアウトリーチ

- 週に5日間程TikTokのLive配信を行った。一度の配信は1時間から2時間程行い、配信の中で配信者の人柄、弱みを見せることによって誰もが安心して気軽に悩み事を相談できる環境を作り、相談に答えていった。その中で直接の相談が必要な方に対しては、サンカクシャの来訪や他機関への相談を促していき、課題の解決を図った。また実際にサンカクシャを利用しているゲストを招き、普段対面では話せないことを話して貰いオンラインの居場所空間を作り上げていった。

#### ●オフラインイベントの開催

- 配信やSNSで繋がった若者も含め、esports会場でのゲーム大会を実施し、対面でのゲームを通じての交流を深めていった。

### ◆連携先との関わり

- 連携先であるTikTok Japan様からは、配信の目的や内容を伝えていく中で、TikTokの配信機能を付与して頂いた。
- 配信やSNSで繋がった若者の相談内容に応じて、地域の支援団体や関係各所に繋げていった。



オンラインでのアウトリーチの様子

アウトリーチ  
オンラインの居場所

サンカクシャの支援



ウリホバキキ

サンカク  
クエスト1

サンカクハウス

他団体・他機関

連携のイメージ

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- 配信の中で悩み相談してくれた若者が、その後の直接のやり取りのなかで、「目標が出来た」「気持ちが軽くなった」との言葉を頂いた。またゲーム大会には普段家を出ていない若者が外に出る貴重な機会となり、他者と交流を深める場になった。

#### ◆つながりの醸成

- 配信で新たに繋がった若者の中には、その後に配信外でのやりとりで繋がりが続けることが出来た。
- また、多くの視聴者からゲストとして出演して悩み相談をしたいと仰っていて、オンラインでの関係生だからこそ、繋がりたい、自分の悩みを聞いて欲しい若者の多さを実感している。

#### ◆連携による効果

- TikTokは若者が最も観ている配信媒体の一つである為、視聴者も20代までの若者が最も多く、情報を届けたい層に届いている。
- 特に引きこもりの若者などを支援している団体から、気軽に視聴できるオンラインの居場所は紹介がしやすいとの言葉を頂き、実際に視聴して頂いている。



オンラインイベントの様子

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

ユニーク視聴数が他の媒体と比べても多いが、一人一人の配信を視聴する平均時間が短い為、相談のコメントが無い時間は、何をしている配信かが、視聴者側から見て分かりづらかった。

#### ◆解決策

上記内容を解決するために、まずは背景画像で相談室ということを知りやすく伝えていった。また、Xでハッシュタグを使ったポスト、質問箱を開設して、寄せられた質問を多く集め、相談に乗っている時間を増やしていった。その中で当初よりも新規の視聴者の相談が増えていった。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 今年度の取組ではサンカク相談室の基礎の部分を作り出すことが出来た。次年度以降はこの体制を発展させていき、ショート動画の作成や配信の質を高めしていく。そのなかで、新たな相談窓口としてこれまで届かなかった層が気軽に相談できる仕組みを作り上げていく。

#### ◆取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するために、オンライン相談支援員や編集者の拡充が必要になってくる。採用から育成まで行い、オンラインでの居場所作りの新しい在り方を模索していく。

#### ◆他団体への波及可能性

- 今後配信のゲストとして、他団体の方が出ることが増えて行けば、サンカクシャでは対応が難しい相談にも対応出来ると思われる。またSNSでは一つの分野に特化することが重要であるため、対象範囲が明確に定まっている団体は配信で発信を続けられればアウトリーチの場として十分機能すると思われる。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人サンカクシャ  
代表：荒井 佑介/設立：2019年/スタッフ26名  
所在地：東京都豊島区上池袋4-35-12  
主な事業：子ども・若者を対象とした居場所づくり 等

#### ●メッセージ

- 今回の取組を通して、多くの若者がオンラインで人と繋がり、人と交流していることが分かった。また対面では中々相談出来ないことが相談しやすく、Line相談以上にスピード感があり、答える側の人柄が見えることは、相談する若者によって安心感が生まれる。
- オンラインの居場所を行う際は、配信環境と継続力、配信者の人柄を見せていくことが必要だと感じました。

# 中高年男性の孤独孤立予防対策

NPO法人 SKY (大阪府大阪市)

## ●本事業のポイント

- ①中高年男性の孤独リスクを低減させる
- ②コミュニティへの移行がスムーズに行えるための「心構え」や「コミュニケーション力」を身につける

## ●キーワード

中高年男性/イベント

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

内閣府の資料によると「孤独リスク」が高いのは「中高年男性」であることが明らかになった。理由として、男性は生活の拠点を主に「勤務先」に長期間及び長時間置いており、他コミュニティとの接触の機会に乏しいことや女性と比較して一般的にコミュニケーション力（言語を介して他者と交流する事）が低いと言われている。



### ◆取組を始めるに至った経緯等

我々SKYでは、「産業カウンセリング」の考え方を基軸としていることから「働く人」へのアプローチを専門としている。特に「キャリアコンサルタント」や「メンタルヘルス予防」「ファシリテーション」等のスキルを身につけている専門家である。

今回の活動では、我々の専門スキルを活かして、孤独・孤立リスクの高い「働く中高年男性」を対象とし「将来の孤独リスク」に備えるべく「セルフヘルプ」のスキルを学習、体験するとともに、居場所としてのコミュニティ参加を促す。また個別相談にも応じながら、地域及び自身の職場への学びえたスキルの還元により孤独・孤立予防の社会への広がりを目指したいと考えた。

### ◆取組の目的

今後中高年男性が定年し、地域や高齢者施設などと生活拠点が変更した際、そのコミュニティへの移行がスムーズに行えるための「心構え」や「コミュニケーション力」を身につける。また、独居や老後に備えて「セカンドライフ」を想定しておくことで自立した生活力や生きがい（役割理解）を持つことにより、地域社会での自立・協働へと繋げていく。コミュニケーションスキルを身につけることにより、中高年男性に多い孤独リスクを軽減し、社会生活が良好に行われること、地域コミュニティにおいて地域防犯活動に参加し貢献することを期待する。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

体験やワークを中心とした集合研修を週1度のペースで行う。特徴としては、中高年男性の孤独リスク要因とされる「コミュニケーション」「今後のキャリア形成に対する思考」「内省」「自炊」をテーマとしたことである。以下の4テーマを毎月1回行いメンバーが対面することで「仲間意識」が醸成され、一つのコミュニティとなっていく体験をしていただくことも特徴的である。

#### 1) セカンドキャリアを考える (第1週)

「キャリア教育」を受けてこなかった世代においてキャリア教育的なワークや体験を行う。

#### 2) 男の料理教室 (第2週)

講師を招き簡単なメニューを調理し、出来上がったらメンバーと一緒に食事する。

#### 3) コミュニケーション研修 (第3週)

一般的に男性が不得意とされるコミュニケーションについて学習し気づきを得てもらえるようなワークを行う。

#### 4) 私活用術 (第4週)

これまで「自分自身」について考えてこなかった対象者に「内省」を促すワークを行う。

### ◆連携先との関わり

実施については、外部講師として生涯学習インストラクターバンク様との連携により、料理教室講師を派遣して頂いた。その他の講師については内部講師で賄うことができた。

内部講師に関しては、「キャリアカウンセリング」「コミュニケーション」「ファシリテーション」「産業界におけるメンタルヘルス」を専門とするカウンセラーなどが担当した。スタッフに関しては、当日の進行を補佐する役割を担った。

### 連携方法

大阪市生涯学習インストラクターバンクへ連絡し、料理教室の講師を紹介して頂いた。その後、直接講師との交渉を行い、予算内での料理教室を行うことができた。

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

参加者個人のパーソナリティの変容も若干見受けられ、よりポジティブで積極的な関りを進んで行えるような行動変容がうかがえた。

事前・事後に集計「孤独感尺度」の数値には変化が見受けられなかった（事前42点→事後42.6点）が、事後のアンケートの回答では「孤独を楽しんで生きたい。」「自分だけが孤独ではないと実感できた。」等、孤独に対する不安や心配が軽減しているような感想を抱き始めていることが確認できた。

★日本語版 UCLA 孤独感尺度（第3版）集計結果

対象	点数	孤独感
A	52	高い
B	38	やや高い
C	48	高い
D	35	普通
E	40	やや高い
F		
平均	42.6	やや高い

#### ◆つながりの醸成

メンバーを固定化することにより一つの「コミュニティ」が形成された。「男のセカンドキャリア塾」が参加者にとって



「孤独・孤立」から脱却できる「居場所」となっていたことは、予想を上回る成果であったといえる。

取組終了後には参加者自らが計画し、メンバー内での懇親会を催した。また、当団体において「公式LINE」を立ち上げ、今後の繋がりを保つこととした。

#### ◆連携による効果

生涯学習インストラクターバンクと連携したことにより、内部講師の専門外である料理教室を行える人材を確保することができた。



### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

現役世代の男性に対する参加呼びかけが困難であり、参加者数が伸び悩んだ。宣伝告知や勧誘などの機会が創出できず大きな課題となった。

6か月にもわたるイベント期間において固定メンバーで運営していくため、メンバー間の人間関係などにも配慮する必要があった。

#### ◆解決策

大阪商工会議所や中小企業同友会などの本部へ宣伝をするため担当者様との面談を行ったが、実際に所内での告知や勧誘が行われるに至っていないと考えられた。運営スタッフにカウンセラー職を配置したことや「料理教室」での共同作業をとおして、自然とメンバー内で暖かい雰囲気醸成された。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

・取り扱った4テーマは適当であったと考えられた。特にワークや体験など「自ら語る」ことを多くすることで、自然と「孤独」に対する意識が向上し他者とのかかわりを容易にする効果が認められたため、今後の取組においても採用できると考えられた。

「居場所」としての機能が継続的に必要であると痛感したため、今後は地域における取組を重点的に行う必要があると考えられた。連携先として社会福祉協議会など地域支援を行っている機関との協同が有効であると考えられた。

#### ◆取組の継続方法

本取組実施の際には、傾聴を始めとするファシリテーションスキルを習得し、「心地の良い居場所」を提供することが肝であると考えられた。

#### ◆他団体への波及可能性

この成果を通じて、他団体においても孤独・孤立リスクのある人が「自らを語る」ということでその対策となることがヒントとなると考えられる。

#### ●団体概要

NPO法人SKY

代表：藤田 公恵/設立：2019年/スタッフ：10名

所在地：大阪府大阪市生野区新今里3丁目6番14号

<https://esukeiwai.jimdofree.com/>

主な事業：心理相談事業、心理研修事業、心理啓発事業

#### ●メッセージ

・今回の取組を通して、孤独リスクのある人が他者とかかわることにより認知や行動が変容していくことがわかった。本取組実施の際には、傾聴を始めとするファシリテーションスキルを習得し、「心地の良い居場所」を提供することが肝であると考えられた。

# ホップ・ステップ・チャンスでつながろう

一般社団法人 チャンス（愛知県名古屋市）

## ●本事業のポイント

- ① 社会的に孤立し、困難な状況に孤立無援状態で立ち向かう人々へ安全基地を提供
- ② 子どもからおとなまで幅広い年齢層を対象にWell-being（幸福と喜び）を実感できる安心安全の場所づくりを目指す
- ③ 人とつながる、地域とつながる、自分とつながるがキーワード

●キーワード  
多世代/安全基地  
/心理的ケア/相談

## 1 取組の背景と目的

### 取組を始めるに至った経緯

課題を抱えた対象者たちが孤独や孤立無援の状態から解放され、より健やかな日常生活環境を構築してほしいとの願いから、人、地域社会そして自分とのつながりが感じられる居場所として、「安全基地」を創設した。



### 取組の目的

自分で小さな目標を立て、その達成を目指すプロセス（試行錯誤、成功、失敗、目標再設定など）を支援者や仲間と共有することで自己肯定感や自己効力感を醸成し、孤独・孤立に陥ることなく自立・自律を目指す。

## 2 取組内容

### 具体的な取組の内容及び特徴

#### ①安全基地の創設

- 人、地域社会、自分とのつながりが感じられる居場所を創る活動
- 子どもからおとなまで幅広い年齢層を対象に、公認心理士と等の支援の下、以下の活動を行った。
- 楽しむ活動：造形、物作り（粘土、折り紙、コラージュ等）  
生きづらさの緩和活動：運動（ブレインジム、卓球）、伝承遊び、ボードゲーム・カードゲーム
- 食事の楽しさを実感する活動：栄養士の指導の下ランチを提供

#### ②『つながる会議』の実施

- 対象者が自由に意見を表明できる会議の開催。公認心理士や看護師等が参加し、セルフ・アドボカシー・スキルを養うことを目指した。

#### ③支援者養成セミナーの開催

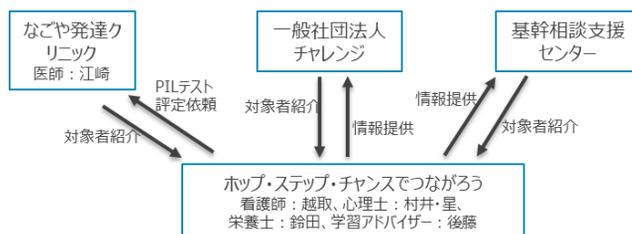
- 活動を充実させ『つながる会議』の効果を高めるために、講師を招いて計4回セミナーを開催した。
  - ✓ 視覚支援に関するセミナー2回
  - ✓ 人との心地よい距離感のセミナー2回

#### ④対象者の早期発見

- 弊社および弊社グループ運営の連携団体を活用し、対象者を早期に発見するためにアプローチを行った。
  - なごや発達クリニック（心療内科、小児心療内科）
  - 一般社団法人チャレンジ（障害者就労支援施設5カ所、障害児通所支援5カ所、相談支援事業所1カ所運営）

### 連携

それぞれの団体に本取組の情報を提供し対象者を紹介してもらった。対象者が安心して参加できるよう協力し合い、話し合いの場を複数回設ける観点で協働した。



### 3 取組の成果

#### ◆参加者

28日開催 99名参加（子ども20名含む）

#### ◆セミナー

- 9月14日 おめめどう視覚支援セミナー【時間軸】  
参加者41名
- 9月28日 おめめどう視覚支援セミナー【予算軸】  
参加者45名
- 10月5日 【サークルズプログラムご紹介】  
参加者26名
- 11月9日 【子どもの“紫色の自分サークル”を育む支援】  
参加者27名



#### ◆参加者の意見

- 安全な環境の中で作品を作ることができ、みんなと話せてほっとするひと時だった
- このひと時は服薬より良い気がする
- ブレインジムなどの運動を一人ではなく一緒にできるのが嬉しい
- コラージュや粘土、皆さんとのおしゃべりの時間、コーヒーやパンの時間がとても有意義だった
- ゲームでカードが配られたとき自分の存在の確かさを感じた
- ここにいるときは孤独じゃない、近くに人がいてくれて自分の輪郭がはっきりしてくる感じ

#### ◆支援者（看護師、公認心理士、栄養士等）より

- PILテスト15名実施  
PILテストとは人が生きる上での意味や目的をどの程度見出しているか調べるテスト
- 自由に意見を表明できる場があることや没頭できる何かがあることが大事

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

対象者が自由に意見を表明できる場として「つながる会議」を毎回実施したが、初対面の対象者が多かったため、対象者が緊張している場面があった。

#### ◆解決策

会話のきっかけにつながるようボードゲームやカードゲームを会議前に行った。一緒に取り組むゲームは会話や笑顔につながり、明るい雰囲気です『つながる会議』を実施することができた。

### 5 今後の展開

#### ◆取組の継続方法

対象認識、活動内容、達成目標などを検証し、連携団体や開催時間、開催日を拡大していきたいと考えている。

孤独・孤立は地域社会全体が等しく直面する課題で、特にコロナ禍で一層顕著であるため、継続的な取組を予定している。

財源確保策として、補助金や助成金の申請を行う予定であり、本取組は課題解決に貢献するものと確信し、広く支援を求めていく。

#### ◆他団体への波及可能性

今回障害者就労支援施設や障害児通所支援施設を運営する団体や基幹相談支援センター等と連携を構築した。これらの団体には孤独・孤立支援が今後も必要だという考えに賛同していただいた。今回の成果を通じて、より多くの障害者・障害児への支援をおこなっている団体と協働し、孤独・孤立を支援できる場を広げていきたいと考えている。

#### ●団体概要

一般社団法人チャンス  
代表：鈴木 愛/設立 2012年/職員数107名  
所在地：名古屋市中川区高畑3丁目40 ブラザービル203  
主な事業：子育て支援、療育支援、学習支援22カ所  
展開中

#### ●メッセージ

- 今回の取組を通して、人は他人とつながることで、幸福度が一定上昇することがわかった。また本取組実施の際には、「このひと時が服薬よりよい」といった声もあったように、他人とつながることで薬以上の効果を感じる人もいた。
- 孤独・孤立感を感じる方へ、まずは他人とつながれる場所を数多く提供できるような社会の実現を共に目指していきましょう。

# 若者のための夜の居場所設立事業

特定非営利活動法人 育て上げネット（東京都立川市）

## ●本事業のポイント

- ①居場所の提供
- ②潜在的利用者層へのアプローチ
- ③若者に有用な社会資源と連携
- ④同様の事業を行う他団体との連携

## ●キーワード

子ども・若者/夜の居場所/相談

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

対象者の抱える課題には、「家に居たくない。家に居られない。」「お腹を空かせている」「支援・被支援の関係が曖昧な場所を求めている」「公共機関での相談や居場所が早く閉館してしまう」「誰かとつながってほしい」などがある。このようなことを誰にも相談出来ず、安心できる場もないなど、様々な悩みと生きづらさを抱えている若者たちがいる。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

当団体は、立川を拠点に若者への就労支援を行っている。様々な悩みと生きづらさを抱える若者たちから「家に帰りにくい」という相談が日々寄せられており、10代～30代の若者の約5～7%が孤独感を「しばしば・常に感じている」という結果が出ている。若者の生きづらさにつながる「不登校」「児童虐待」は過去最多を記録し、中学2年生のヤングケアラーは5.7%、高校2年生で4.1%と1クラスに一人は苦しい境遇にある若者がいる状況である。そういった境遇の若者たちにとって、「家」や「学校」、そしてそこにいる大人は心の底から安心して頼れる存在が必要である。また、家や学校が安心と安全を感じられる場でない若者達の為にも、彼らの居場所と、一緒に問題解決に悩んでくれる新たな大人が存在が重要である。

### ◆取組の目的

本事業によって期待する効果は3つある。1つ目は、夜の居場所の利用者の確保であり、年度末までに毎回安定的に30人程度の利用者を見込む。2つ目は夜の時間帯の居場所の必要性の確認であり、本事業の利用者へのアンケート調査を行い、昼の居場所との比較における夜の居場所の重要性、夜の居場所に来る理由などを確認する。3つ目は、夜の居場所に対する関心の広まりである。この効果への本事業の直接的な効果を測る定量指標の設定は難しいが、見学者数や、同様の事業を行う団体とのつながりの数などを参考指標とする。



夜の居場所での活動の様子



## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ・居場所の提供

毎週土曜日の18時から21時の間、育て上げネット本部事務所の就労支援事業を行っているフロアを解放し、居場所として提供する。原則、弊法人または他の関係機関とつながりをもつ若者を対象としている。年齢制限はないが、主たるターゲットは15歳から39歳の「若者」。居場所フロアにはゲーム用PC5台、各種ボードゲーム・カードゲーム、アイロンビーズなどの手工芸用の材料などを常時備え付け、これらを自由に使えるようにする。また、事務所の会議室も開放し、集団から距離をおきたい利用者のための空間も確保する。加えて、困窮家庭やネグレクトなどにより十分な食事をとれていない若者も想定し、無料での食事（弁当販売店などから購入）の提供と、フードバンク事業などから提供を受けた食材を常時置いておき、自由に持って行ってもらえるようにする。

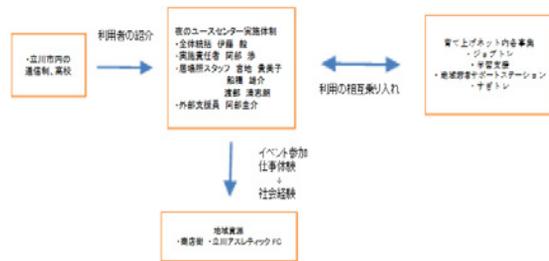
### ◆連携先との関わり

#### 1) 潜在的利用者層へのアプローチ

立川市および近隣市の若者支援団体への情報提供と具体的な利用相談や、弊法人が事務局を務める立川市の子ども若者サポートネットワークを介した情報提供・相談、さらに、潜在的な利用者層が多いと想定される通信制高校との連携を中心に行う。

#### 2) 若者に有用な社会資源との連携

一時避難を受け入れてくれる団体、児童相談所、メンタルクリニックなど、若者にとって緊急性の高いケースへの支援を提供できる機関・団体を中心に関係づくりを行う。



関係機関との連携図

### ◆連携方法

#### ・同様の事業を行う他団体との連携

弊法人は休眠預金の資源配分団体に選定されており、夜の居場所を始めようとする団体への支援を行っている。この活動と本事業を接続することより、夜の居場所の実施団体との連携を構築する。

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

2023年4月～2024年2月までに44回実施し、延べ利用者総数は741人。実数として91名が登録。実際の居場所に参加する若者たちは毎回20名程度。利用者の中には、以前は新宿歌舞伎町のいわゆる「東横」に行っていたが、最近夜のユースセンターを代わりに利用するようになり、無事高校に通えるようになった利用者もいる。

潜在的利用者層への具体的なアプローチとしては、立川市内の通信制、定時制高校、児童養護施設、立川市児童相談所との連携を行い、教員、職員から利用者の紹介があり、8人の定着に繋がった。



夜の居場所におけるみんなでの食事

#### ◆つながりの醸成

アンケート調査の実施を1月に実施した。居場所開催時間帯の希望について聞いたところ、夜（18時以降24時まで）の時間帯を希望する回答が100%だった。



夜の居場所でのそれぞれの過ごし方

#### ◆連携による効果

・地元地域との連携を目指し、事務所が所在する高松町の商店街、また、立川を拠点とするプロフットサルチームのアスレティックFCと連携の可能性を検討し、地元でのイベントやその準備への参加、フットサル公式試合の前の準備作業への参加などが実現した。これらにより、夜の時間帯だけではなく昼間の活動の機会も作ることができた。

・週1回、Facebookに毎回の利用状況を投稿するなど、SNSを中心に情報を継続的に発信している。これまで見学に来た数は66名。団体数は23団体。またジャーナリストの津田大介（YouTubeチャンネル）、読売新聞、朝日新聞、文化放送等のメディアの取材もあり、夜の居場所の社会的な意味と重要性について関心を高めることに貢献できたと考える。

また、5月には、JANPIAの支援枠組みのもと、当法人とREADYFOR株式会社が共同で「若者の『望まない孤独』支援モデル形成事業」を実施し、孤立しやすい夜間の居場所の可能性について、同様の活動を行っている全国8団体と意見交換会を実施した。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

閉所の21時以降も帰宅しない利用者があることが運営上の困難の一つであり、声掛けやその他の方法を工夫したものの、解決には至っていない。今後の課題として引き続き取り組む。

#### ◆工夫した点

楽器経験者や楽器に触れたい利用者のニーズに応えるために、法人に備えられている楽器を用いて毎月2回、音楽に触れる新しい取組を始めた。これが居場所利用の誘導（新規利用）にもつながっている。

#### ◆解決策

21時の閉所となっても帰りがらない若者たちも多く、職員が相談に乗りつつ帰宅を促している。  
※解決方法としましてはガラガラ聞き過ぎずに次回の参加の時に話す約束を取り付けている。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

・安定的事業運営：週1回の安定的な居場所事業の実施は今年度中の標準化で完了する見込み。唯一の課題である定時に帰宅しない利用者への対応は、引き続き有効な手段を検討・試行予定。実施曜日・時間の拡大についても検討する。

・スペースの確保：今後の利用者の増加を想定して、実施会場の代替案を検討する。

#### ◆取組の継続方法

・財源の確保

来年度以降も、立川市のふるさと納税制度、クラウドファンディングを活用した寄付金の募集を続け、合わせて、こども家庭庁が2024年度の施策として表明した「こども若者シェルター」事業からの補助についても検討する。

#### ◆他団体への波及可能性

他の支援団体との連携の拡大、他の夜の居場所事業実施団体との情報共有、一般への情報発信の強化、などが挙げられる。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人育て上げネット

代表：工藤啓/設立：2001年/スタッフ：45名

所在地：東京都立川市高松町二丁目9番22号

生活館ビル3階

主な事業：居場所、就労支援、自立支援

#### ●メッセージ

・夜の居場所を設立して、夜の時間に不安を抱く若者や一人であることに孤立感を感じる若者が大変多く、それだけ自分の周りに安心できる場所や人がいないことが分かった。いきなり支援を受けるのはハードルは高いため、居場所という形でまずハードルを下げ、信頼関係を高めていくことが今後の選択肢の幅を増やすことができる。ぜひ夜間の居場所の必要性を皆さんで広げていきましょう！

# 地域貢献・仕事 (役割の創出)



# 休職者・離職者が社会と繋がる、小さな仕事と居場所の一体化事業

一般社団法人 NIMOALCAMO (大阪府大阪市)

## ● 本事業のポイント

- ①カフェと隣接した居場所スペースを運営。「居てもいい場所」をつくる
- ②ファシリテーション型プログラムで利用者同士の「つながり」をつくる
- ③カフェ業務の中から負荷の小さな仕事を切り出し「出番」をつくる

## ● キーワード

離職/休職、中間的就労

## 1 取組の背景と目的

### ◆ 対象者が抱える課題

精神的な理由による休職者数は年々増加傾向にあり、特に若者世代(20代)ではこの10年で約2倍になるなど、大きな問題となってきている。「職場」という居場所を失い、自信を喪失していることも多く、友人関係なども希薄になることも少なくない。



### ◆ 取組を始めるに至った経緯等

休職・離職という出来事は、職場という所属を失い孤独・孤立状態に陥りやすいタイミングであるにも関わらず、既存の行政施策は再就職支援が中心で居場所の支援は少ない。本事業を通して、行政支援につながっていない休職・離職者への支援を届けることをめざした。

### ◆ 取組の目的

制度のはざままで困窮する若年層のうち、特にメンタルヘルス不調による休職・離職者は居場所やカウンセリングだけでなく、仕事を通じた感謝や責任感といった社会的役割を求めている場合が多い。本事業を通して、休職・離職者をきっかけとして孤独・孤立状態にある若者へ、居場所や相談支援にとどまらない、中間的就労を通じた困窮状態の解消ステップを届けることを目的とした。

3) 地域の活動などボランティア参加できる機会をつくる  
地域の都市型貸し農園の雑草抜きなど、他団体と連携したボランティア活動も実施した。カフェという居場所にいながら、定期的な地域活動へ参加できるきっかけを提供した。

### 4) カフェの業務の一部を切り出し、中間的就労の機会をつくる

居場所で過ごしているあいだに、「やってみたい」と思う気持ちになるタイミングで、カフェ業務の中から簡単な負荷の仕事を切り出して有償ボランティアとして関わってもらった機会をつかった。

### ◆ 連携先との関わり

・地域若者サポートステーションはじめ就労支援機関とはチャットでスムーズにやりとりができる窓口を設けており、紹介希望者がいた場合は適時連絡をいただく体制を構築している。

## 2 取組内容

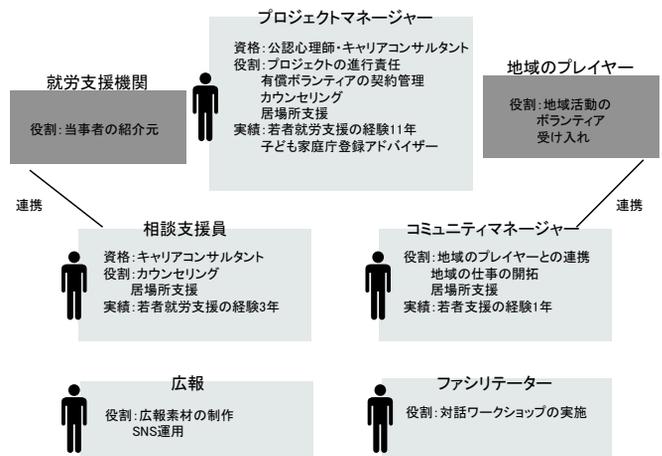
### ◆ 具体的取組内容と特徴

#### 1) 日常生活上の接点となるカフェを入り口としたアウトリーチ

休職者、離職者は、日常生活で交友関係が狭まる一方で、社会との関わりが無くなることへの不安からカフェや図書館など人のいる場所へ意識的に出かける当事者も多い。本取組では、孤独・孤立リスクのある方との日常生活的な接点である、地域のカフェを舞台とした居場所づくりを行った。

#### 2) 居てもいい場所をつくる

大阪市住之江区にあるスパイスミルクティー「チャイ」の製造所兼カフェに隣接するスペースを居場所として運営した。キャリアコンサルタント、公認心理師など専門知識を持ったスタッフが希望者との面談も実施した。



### ◆ 連携方法

・地域で活動する方とコミュニティマネージャーがつながり、ボランティア活動を通して地域と関わる場をつかった。

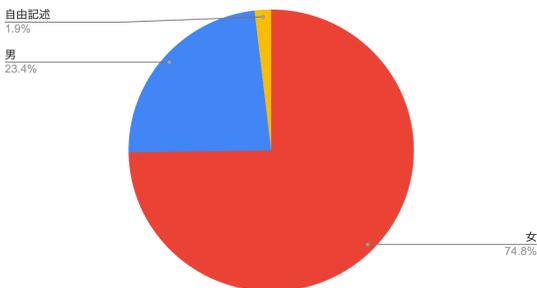
### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

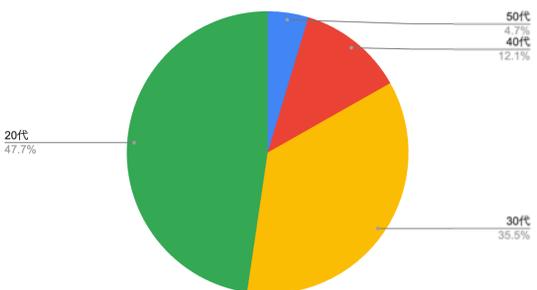
##### アウトリーチ

・カフェを通じた広報など、日常的な接点を持つ拠点からの広報を行ったが、結果としてメンバー登録者数は23年7月～24年1月のあいだで107名にリーチすることができた。その中で障害福祉サービスや行政の相談支援サービス等につながっていない方が58%だった。  
・登録者の約7割が年収100万円以下という困窮状態であり、無業状態もしくは不安定雇用の中で、物価高騰も合わせて生活が非常に厳しい状況にある方々だった

メンバー登録者の性別内訳（107名）



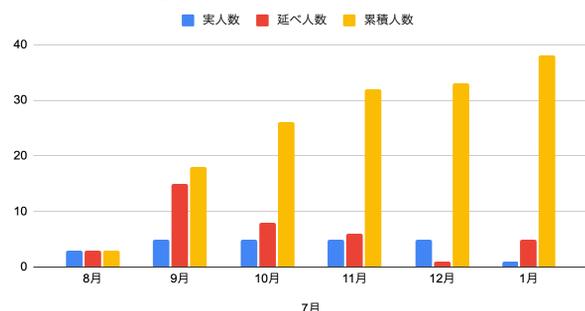
メンバー登録者の年代（107名）



##### 中間的就労

中間的就労ではカフェの製造業務の一部を切り出し体験してもらい、有償ボランティアとして報酬を支払った。中間的なステップを経て、週4日のアルバイトを始めた方、1製造で自信をつけたことで接客の業務体験に挑戦している方など、参加者に大きな変化があった。また、単に居場所に来ているだけでなく働いているという状態が本人の精神的な支えになっており、自己肯定感を取り戻していくような効果も見られた。

中間的就労参加者数



### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

・当初は毎週開催予定だったファシリテーション型プログラムだが、参加者の調整などが難しく毎週実施を前提とする予定は変更した。  
・すべての方が交流を希望している訳では無く、誰もいない環境で一人作業を希望する参加者もいた。

#### ◆解決策

・毎週固定での開催ではなく、日時を適時調整して実施することにした。また遠方からの参加希望者もいたため、オンライン開催も実施した  
・交流を希望しない参加者には一人になれる時間を調整して用意しておくなど、社会との繋がり方をそれぞれに合わせて設ける柔軟な体制で対応した

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

短期間で100名を超える登録者が出たことで、弊団体の取組のアウトリーチの一定の成果を確認することができた。ただ、手厚い支援を継続するためには運営コストをいかに捻出していくかが課題である。

#### ◆取組の継続方法

来年度以降、助成金などの活用ができれば対象者を広く公募することができるが、たとえ助成金がとれなかった場合も規模を縮小して、カフェ業務の一部として居場所機能を継続させていく。居場所担当スタッフは現在カフェ業務も担っており、カフェ業務と支援業務を両立させ続けることが可能。

#### ◆他団体への波及可能性

今回の事業を行っていく上で、就労支援機関では中間的就労へのニーズが強くなってきた。今回構築できたネットワークを継続し、中間的就労をそれぞれの団体でも実施できるようなノウハウ共有を実施していきたい。

#### ●団体概要

一般社団法人NIMOALCAMO  
代表：古市邦人/設立：2020年/スタッフ3名  
所在地：大阪府大阪市東住吉区南田辺1-1-10  
<https://nimoalcamo.com/>  
主な事業：多様な就業機会創出事業等

#### ●メッセージ

・居場所に中間的就労機能があることで社会との繋がり直しが進む。もし関心のある団体の方がいらっしゃれば意見交換などさせていただきたい。

# 日本版メンズ・シェッドの提供事業

## 特定非営利活動法人 かみああと（愛知県瀬戸市）

### ●本事業のポイント

- ①大工仕事などを通じた中年・シニア世代の交流の場（メンズ・シェッド）
- ②参加者の「ものづくり」による成長

### ●キーワード

中年・シニア世代/  
メンズ・シェッド/ものづくり

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

現代社会において、一人を好む傾向や社会的孤立感が増しており、コミュニティやつながりを持つことが重要視されている。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

社会的弱者と云われる方々の自立支援を主として、障がい者就労継続支援事業を運営している。そのような経験を活用しながら、社会的な課題である孤独・孤立に関しても取り組みたいと考え、事業を開始した。

### ◆取組の目的

#### ①コミュニティの形成

- メンバー同士が共通の趣味や興味を持って交流する場所を創ることで、孤独感や社会的孤立感を抱える男性が、コミュニティの中で交流し、支え合う。

#### ②スキルアップの機会

- DIYや工作などのワークショップを開催し、参加者が新しいスキルを学び、自己実現や自己成長の機会を得る。

#### ③ストレス解消効果

- 活動や趣味に没頭することや、コミュニティの中で話し合うことを通じてストレスを共有する。

#### ④健康増進効果

- 活動やワークショップなどの活動を通じて、運動不足や偏った食生活などの生活習慣病の予防や改善につなげる。

#### ⑤社会参加の促進

- 活動などの企画を通じて、男性の社会参加を促進する。また、コミュニティの中で交流することで、就職や転職などの機会を得る。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容及び特徴

大工仕事などを通じた中年・シニア世代の交流の場として、高齢男性向けの新たな居場所を立ち上げ提供した。

#### （１）ワークショップの開催

- DIYや工作に関するワークショップを開催した。木工や金属加工、レーザークラフト、陶芸、ジオラマなど、様々な分野でワークショップを提供し、メンバーが自分の趣味や興味に合わせて学ぶことができた。

#### （２）ツール・機材の貸し出し

- DIYや工作に必要なツールや機材を揃え、必要に応じて参加者に貸し出しを行った。

#### （３）交流会の開催

- メンズ・シェッドは、男性専用のコミュニティスペースであり、メンバー同士の交流を重視し、定期的に交流会を開催し、様々なテーマで話し合ったり、趣味や仕事の話をした。

#### 連携先との関わり

- ✓ 対象者が利用する場所、施設・・・広報協力
- ✓ 南東町町内会・・・広報協力
- ✓ 関係団体（スマイルプロジェクト等）・・・講師の紹介、広報協力
- ✓ 市議会議員、行政機関、民生委員等・・・取組への協力要請

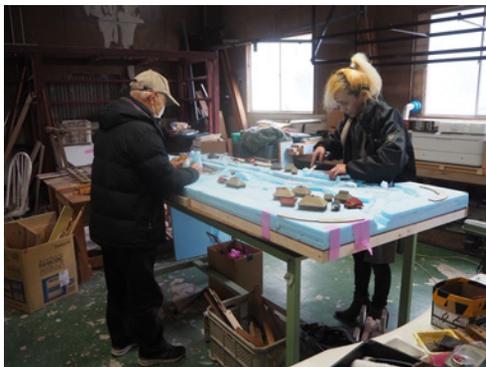
#### 連携方法

- ① この趣旨を広く伝播するため、ポスター、チラシ、ミニフリーペーパーなどの紙媒体を発行して、対象者の利用する場所、施設などへの配布し告知協力を依頼した。
- ② この趣旨を各地域限定的に広く伝播するため、町内会発行の回覧板によるチラシ配布の協力を依頼した。
- ③ この趣旨への理解を広く伝播するため、各市政に係る市議会議員へ協力を依頼した。また行政機関担当者、民生委員、その他係の関係者方々にも協力連携を要請した。
- ④ 取組や活動状況を対象者以外の方々にも理解して頂けるよう、特に若年層一般向けとして発信するためYouTube、インスタなどスマホ、PCをモバイル媒体にする動画コンテンツを内閣官房・民間企業と連携して製作、発信した。

### 3 取組の成果

#### ◆活動の成果

- 当団体からの呼びかけに対して、理解され賛同された方が4名いた。また、様子見的に賛同される方が4名、そのうち3名の方に参加活動に従事した。
- ジオラマ制作を通じて、交流を深め、また、ジオラマの出展において他市の担当者の興味を引くことができた。
- 活動に参加する事で楽しみが増えたという意見があった。



#### ◆連携による効果

- 町内会と連携したことにより、この地区（愛知県瀬戸市洞地域）の観光活性に個人として活動され、空き家陶器工場の観光用復元化を目指している実業家の方（今後、高齢者孤独・孤立対策にも理解され当方ともに活動を共にされるよきリーダー的人材として活躍が望まれる方）と繋がることになった。
- このように、これまで団体単独ではできなかったことが、関係機関との連携により可能となった。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- 他地域から居住してきた者にとって、地域の活動される方々や地元の方々の活動に関して理解を求める、趣旨を説明、発信するなどの活動は、とくに排他的と云われる地方にとって大きな壁として感じられた。

#### ◆解決策

- 高齢者の困りごとお手伝い（例：家の片づけ、不用品処分の手伝い等）を通し、まずは蟻の一穴からとチャンスに変え、隣り近所のコミュニケーションから地域の状態、状況を捉えるように工夫した。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- ジオラマ製作を通じた交流が参加者及び出展した場合の閲覧者に好評であった為、この活動を継続すると共に、隣接市の岐阜県多治見市においても活動を開始する予定。
- 行政や社協も興味を示しているため、当団体の関連団体が主体で実施する予定。

#### ◆取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法は寄付金、クラウドファンディングを行う。
- 支援対象者とつながりつづけるために広報活動の強化を行う。

#### ◆他団体への波及可能性

- 本事業を通じて、高齢者だけでなく様々な方々の「いきがい創出」が居場所として重要な要素であることがわかった。また、事業の収益モデルを構築することが、他団体に同様の取組を波及させるポイントとなると考える。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人かみああと  
代表：高木 敏明/設立：2008年/スタッフ数 5名  
所在地：愛知県瀬戸市南東町13番地  
主な事業：障害者、難病者、高齢者などの社会的弱者に対して自立支援に関する事業等

#### ●メッセージ

- 今回の取組を通して、居場所を整備することで交流が深まり、孤独孤立の解消に繋がる事がわかった。地域の特性に応じた居場所の整備と共に、事業継続の為の収益化を検討することが肝要だと考えている。

# 地域子ども達とおっちゃん有志でみんなで集える公園を作ろう

一般社団法人 ふらっと(徳島県海陽町)

## ● 本事業のポイント

- ① 地域のおっちゃんが講師になる居場所づくり
- ② 人が集まりやすい空き地・空き家を開墾・開拓
- ③ 地域作業所の会員も一緒に事業をすすめる

## ● キーワード

地域貢献/中高年/  
多世代/役割創出

## 1 取組の背景と目的

### ◆ 居場所の不足

当該地域にも、退職後つながりが減った男性や、独身で家庭でも孤立しがちな男性がおり、そういった方が活動する場がないことが課題であった。



### ◆ 取組を始めるに至った経緯等

町の中心地という好立地でありながら放置された空き家と荒れた広い庭があった。

草や木々が覆い茂った2反ほどの土地の周辺には小学校や高校、児童館があり、子どもたちが多く集まるエリアであったことから器用なおっちゃんたちを講師として子どもたちと一緒に庭を整備し交流の場にできたらと考えた。

一人暮らしや家族がいても家庭で孤立しがちな男性、社会や地域とのつながりが減ってしまっている男性におっちゃん講師として参加いただき、空き地の整備という目的を持って活動していただくことで地域交流の機会としたいと取組を始めた。

地域には障がい者が通う地域作業所もあり、地域交流の拠点づくりといった目的に対して協力いただける環境であったことから、普段接点がない方々が集まる機会として本取組を活用することとした。

### ◆ 取組の目的

出かける場所もなく孤立しがちなおっちゃん講師と地域の子もたちが一緒に荒れ地を整地する機会を設けることで、おっちゃん達に生きがいや達成感を感じてもらう。また整備の過程も含め、整備された空き地を地域交流の拠点として活用していく。

## 2 取組内容

### ◆ 具体的取組内容と特徴

荒れ地の整地を、おっちゃん講師と近くの障がい者が通う地域作業所「虹」の会員を中心に実施する。

おっちゃんを講師として、集いの場（整地された空き地）に設置するベンチを子どもたちと制作する。整地された空き地にベンチ等を設置し、手作り公園として地域の方に利用いただく。

また、ホールインワンや隣接した空き屋で囲碁将棋大会などの交流事業を開催したり今後も地域のニーズを考慮しながら交流の拠点として活用していく。



### ◆ 連携先との関わり

庭整地作業にはおっちゃん講師の他に、地域の障がい者が通う作業所「虹」の会員と整地を行った。

イベント時には海部高校生、こども交流事業を展開し地域の子も達に声かけをしている「NPOあったかいよう」会員の協力があつた。

地域で孤立する男性の情報を共有してもらうため、社会福祉協議会や役場福祉課にも相談に行った。また、実際に事業に参加してもらうための声かけ方法や課題認識についても意見交換を行った。

教育委員会や高校魅力化事業をしている「一般社団法人disuport」には地区の小中高校生にチラシ配布時の了承と参加者集めの協力を得る。

### ◆ 連携方法

地域の団体とは対面で会う機会も多く情報交換も密に行える関係ができています。

イベント時開催時に必要な交流道具は教育委員会や社会福祉協議会に借り入れることができた。また、他団体関係者も本事業に参加し、不足する備品や設備の支援や人的協力も得ることができた。

SNSツールで情報共有もしながらイベント参加協力を募つた。

### 3 取組の成果

#### ◆定期的な活動の提供

おっちゃん講師5人や地域作業所「虹」会員5人がその都度時間をやりくりして作業やイベントに参加してくれた。

一緒に作業する事で会話がうまれ作業もスムーズに行われた。

参加は各自都合に合わせての参加ではあったものの、ある程度参加者が固定化し継続して参加頂けたことで参加者同志の関係がうまれた。

空き地を整備するという目的があったことで、参加しやすい環境で空き地がきれいになるという成果もあったことで継続して参加いただくことができた。

定期的に参加する場が地域にあることで、これまで外に出て交流を持つことがなかった方が出かける理由となり孤立しやすい状況に対する予防となった。

#### ◆つながりの醸成

特にベンチ作りに講師として参加してくれたおっちゃんは、子どもたちとベンチを組み立てたり、ペンキで色を塗る作業をしたことで、やりがいを感じ、楽しかったとの感想を頂いた。子どもたちも毎回楽しく参加していた。



#### ◆連携による効果

地域作業所の会員と一緒に整地作業をしてことで活動費が収入となったり、会員が育てたスイカでスイカ割りをする事で、また機会があれば参加したいと積極的な意見を出していただけた。

地域づくりを目的とするNPOあったかいよう、地元海部高校魅力化事業遂行の一般社団法人disuportの会員9名にも作業やイベントのサポートをしてもらい拠点利用に今後も連携していく事になった。

教育委員会や社会福祉協議会に孤立支援者の情報提示を相談にいき、個人情報保護法の関係で情報はいただけなかったが令和6年度には孤独孤立防止事業の委託をうけたり、別の助成金の協力を頂くことになった。

協力者・協力団体が増えることにより居場所づくり事業が継続して遂行できる見込みができた。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

荒れ地を開墾して、手作り公園にするには人力だけでは厳しかった。

また、コロナ流行が落ち着き、様々なイベントが一気に開催されるようになり集客が難しくなった。引きこもりがちな方の情報が得られにくかった。

#### ◆解決策

上記内容を解決するために、まずはコンボをリースし、おっちゃん講師に整地をしてもらった。

中高年男性にも参加してもらいやすいよう、囲碁や将棋なども取り入れ対象世代にあわせた内容とした。

引きこもりがちな方は、交流事業に参加しづらいようなので今後は平日に開催する事も検討していく。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

居場所を必要とする孤立しがちな方の情報は個人情報保護法の関係で提示して頂くことが難しくなった。家庭訪問を繰り返す保健師とも協力して進めていく必要があると思った。

利用者が増えたが、ペットボトルや缶などのゴミの放置が見られるようになってしまった。

ゴミの持ち帰り案内の掲示や可能な限りの見守りをする必要がある。

#### ◆取組の継続方法

今後は役場の保健福祉課から孤独孤立予防の事業の委託を受けて交流事業を継続する。

#### ◆他団体への波及可能性

この事業を行う準備段階で関係機関に相談や声かけをさせて頂いた。

同じ課題をもつ福祉課と今後、情報共有しながら町の広報にもPR掲載して頂き安心できる居場所として広く周知してもらえる可能性がでてきた。

無理なくできることから目的を明確にして発信、事業遂行をすることで協力者は必ずあられる。

#### ●団体概要

一般社団法人ふらっと

代表：岩本 優/設立：2023年/スタッフ：5名

所在地：徳島県海部郡海陽町四方原字旭町8番地6

主な事業：第三の居場所づくり

#### ●メッセージ

●地域の課題、事業の目的を整理し地域関係者に相談しながら事業を進めることで、1団体の取組にとどまらず地域ごととして進めることができた。

# 空家再生型メンズ・シェッドとおやじ講を融合させた孤独孤立対策

特定非営利活動法人 しんしろドリーム荘（愛知県新城市）

## ●本事業のポイント

- ①地域の空家対策をきっかけに男性高齢者が自宅から出るようになること
- ②炭焼き小屋を再生したメンズシェッド（男の小屋）を作ること
- ③孤独・孤立状態の方が本事業で新たな居場所を得ること

## ●キーワード

男性高齢者/メンズシェッド/役割の創出/地域づくり

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

本事業が対象とする男性高齢者は、プライドが邪魔をして支援を受けることを忌避する面があるので、最大の病理と言われる孤独・孤立状態に陥りがちとなることが課題である。



### ◆取組を始めるに至った経緯等

高齢者「うたごえサロン」等の居場所づくりをしても男性の参加が少なく、その解決のために、世界中で広まっているメンズシェッド（男の小屋）に着目し、目的をもって肩を並べて活動することを好む男性の特性に合った居場所づくりに取り組んだ。

### ◆取組の目的

男性高齢者を対象とした、空家再生型メンズシェッドをつくることにより、市内各所で独りで居た男性高齢者がメンズシェッドに集まり、共同作業を楽しみ、もって健康な地域づくりを行うことを目的とした。

## 2 取組内容

### ◆具体的な取組の内容及び特徴

- 本事業の推進役であるコアチームをつくり、実作業をリードした。
- 愛知県新城市八名井（やない）地区の炭焼き小屋（竹枝、松ぼっくりなどを炭にした工芸品を登り窯で製作していた場所）跡地を八名井メンズシェッド（MS）として人が集まれるように整備した。
- 八名井MSで、「おやじ講」と称する勉強会の集まりを4回開催した。（第1回:本事業の開設、第2回:八名井MSの起案、第3回:地区の歴史、第4回:空家再生の可能性）
- 家にひきこもりがちであった高齢男性の地権者、移住して来たが未だ地区から孤立がちであった高齢男性が、八名井MSに集まり笑顔で語り合うようになった。

### ◆連携先との関わり

- 連携先である新城市社会福祉協議会と、当団体代表理事が直接連絡をとり、実行委員の一員となるとともに、若手職員をオブザーバーとして本活動に加わることで今後の持続的協働関係を築いた。
- また、民生委員・児童委員協議会とは、直接的に孤独・孤立化している地域住民の情報を得て、それぞれの地区の実情に合わせた対策を講じるための協働関係を築いた。
- 個人情報取り扱い等、連携先との情報のやりとりについては、本人に直接会って同意を求めることを基本に行った。

### ◆連携方法

- 新城市社会福祉協議会と連携するため、ボランティア連絡協議会にアプローチし、加盟のボランティア団体に本事業を説明し、当事者の情報提供及びメンズシェッド候補地の情報提供を受けた。



### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

利用者から以下のような声を聞くことができ、孤独・孤立状態の解消に寄与できたと考える。

- ・八名井地区男性IRさん(87)の声：「諦めていた炭焼き小屋が再生されて、もう少し皆と頑張ってみる気が湧いてきた。」
- ・同地区男性KHさん(72)の声：「MSは地区の活性化になるので協力したい。」
- ・同地区男性KYさん(74)の声：「空家再生で移住してきた。仲間になりたい。」

#### ◆つながりの醸成

・炭焼き小屋の再生を機に八名井地区の4名の高齢男性が地区住民のつながりづくりの拠点とすべく活動を始めた。

・利用者にとって本取組は、孤独・孤立状態から抜け出し、自らの役割を見出し再び活動的な日々を送るきっかけになった。



#### ◆連携による効果

- ・社会福祉協議会や民生委員経験者と連携したことにより、見えにくい隠れた孤独・孤立者を掘り起こすことができ、その連携により時間を要さずに本人と直接面会することができたため、八名井MSを早期に立ち上げることができた。
- ・各地の世話役経験者を実行委員にしたことにより、各地区の実情が明らかになり、地域づくりの課題である空家の状況がわかり、本活動の適地を選定することができた。



本事業を実行するための体制



### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- ① 空家再生型MSの候補地は、事業開始時点では白紙の状態であったため、場所を見つけることが課題だった。
- ② 本活動が地区住民に好感をもって受け入れられるかが課題だった。

#### ◆解決策

- ① 実行委員が各地を聞取った結果、八名井地区でかつて集いの場であった今は廃墟となった炭焼き小屋跡地を見つけることができた。
  - ② 地元区長や有力者に挨拶してから地区での活動をするなど、村組織の流儀をわきまえ、手順を損なわないように付度し活動を進めた。
- それらの効果により、予想以上に順調に進み着実な成果を上げることができた。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

・今年度の取組では、八名地区に1か所目の事業地を実現した。次年度からは1年に1か所以上の空家再生型メンズシエッドを実現し、最終的には新城市内の中学校区10か所に各1か所ずつ取り組む予定。

#### ◆取組の継続方法

- ・本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法は、各種団体からの補助金、助成金の活用及び一般市民や地区住民への資金や物品の寄付の呼びかけ等を想定しており、その規模に応じた速度で継続している。
- ・支援対象者とながり続けるために、八名井メンズシエッドにおいて、世代間交流イベントを秋口に開催する予定。

#### ◆他団体への波及可能性

・この成果を通じて、令和6年4月に施行される孤独・孤立対策推進法が周知され、連携団体においても、それぞれの活動分野での取組が進んでいる。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人しんしろドリーム荘  
 代表：山本 拓哉/設立 2005年/職員数10名  
 所在地：愛知県新城市豊栄439-2  
 主な事業：高齢者や障害者の福祉増進、ものづくりを通じた交流の推進、住民参画型まちづくりの推進、及び親子合唱団やプログラミング学習を通じた子どもの健全育成などのための提案、助言、啓発等に関する事業

#### ●メッセージ

・今回の取組を通して、孤独・孤立対策で重要なことは「楽しく集まる場」をつくることであると確認した。本取組実施の際には、枠組みに捕らわれず、日頃の活動の息抜き程度の気軽さで取り組むことが結果的によい成果を上げるのではないかと考えている。

# 当事者主体の互助活動を推進する居場所運営とアウトリーチ活動

特定非営利活動法人 やどかりサポート鹿児島（鹿児島県鹿児島市）

## ●本事業のポイント

- ①居住困難の経験のある当事者自身が主人公の活動
- ②身寄りのない者同士が互助するという明確な目的を持った居場所
- ③当事者自身が同様の境遇にある当事者をアウトリーチ

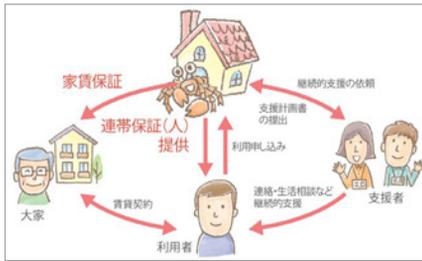
## ●キーワード

生活困窮者支援/  
地域づくり/役割創出

## 1 取組の背景と目的

### ◆当団体の活動

住宅の確保に困難を要する方に対し、地域福祉の担い手の方々が『支援者』となることを前提に保証を提供する「地域ふくし連帯保証」を実施。利用者は2023年3月末時点で398人。2017年に鹿児島県より居住支援法人の指定を受け、同県居住支援協議会による相談窓口を担っている。



地域ふくし連帯保証の仕組み

### ◆取組を始めるに至った経緯等

当法人の利用者は連帯保証人がいないために居住困難に陥った方々で、多くが身寄りがなく社会的孤立を経験した方々である。支援者を確保できない方々にどのようにして住居の保証を提供するか？ 試行錯誤する中で、当事者どうしのつながりに着目。

### ◆取組の目的

身寄りのない者同士が互助を実践し、各々が身寄りがないことで困難に陥らないようにするためにという明確な目的をもった居場所に集うことで①なかまどうしの支えあい助けあいの在り方について協議し、②地域の人たちと支えあい助けあう活動についても活動の幅を広げていく、という取組。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●居場所サロン「やどかり交民館」の運営

毎週火曜日に当事者が集う居場所サロン「やどかり交民館」を、「身寄りのない者同士が互助を実践し、各々が



身寄りがないことで困難に陥らないようにするための活動拠点」という明確な目的を持って運営した。

やどかり公民館の様子

### ●アウトリーチ活動

・「地域ふくし連帯保証」利用者であって現に孤立している状態にあると推察される人たちのもとと同じ「地域ふくし連帯保証」の利用者である「やどかりライフ」参加者が訪問し、活動への参加を促すアウトリーチ活動を実施した。

・アウトリーチ活動は、町内会・民生委員・地域包括支援センター等からの情報提供に基づいて、「地域ふくし連帯保証」利用者以外も対象として実施し、あらたな連携が生まれた。

### ◆連携先との関わり

連携先である、鹿児島市地域包括支援センター、鹿児島県社会福祉会、鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会等とは、当法人の「地域ふくし連帯保証」において日頃より連携を図る関係である。

### ◆連携方法

・アウトリーチ活動のチラシを、9月に鹿児島市地域包括支援センター、鹿児島県社会福祉会、鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会等を通じて、地域の福祉専門職へ配布した。

・孤独死ゼロアクションLINEオープンチャット事業者連絡用に、姉妹団体である特定非営利活動法人がごしまホームレス生活者支えあう会や、今年度より連携が始まった伊集院こどもふれ愛食堂も加入。当法人のやどかり交民館他居場所等や、支えあう会の料理会、伊集院こどもふれ愛食堂のこども食堂の情報共有を行っている。



アウトリーチ活動で配布したチラシ

### 3 取組の成果

#### ◆居場所サロン参加者の推移

回数当たりの居場所の参加者は、開始時の2023年6月には8.5人であった。8月に少し落ち込んだものの、その後はゆるやかに増加を重ね、2024年1月には最高人数の11.75人を記録した。



参加者の推移

#### ◆居場所サロン参加者アンケート結果

・やどかりの居場所サロン参加者を対象に行ったアンケートでは、令和4年度の内閣官房の調査と比較し、孤独を感じている人の割合は低い結果となった。  
・回答者全員が「居場所に参加してよかった」とアンケートに答えた。



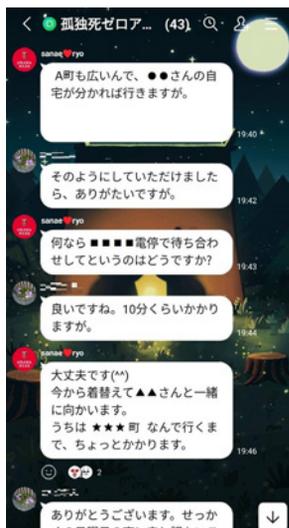
参加者アンケート結果

#### ◆役割の獲得

6月～1月のやどかり交民館で、10月・1月に当事者主体のイベントが開催された。2つのイベントは全て当事者が発案・企画。実施も全て当事者それぞれが役割を担った。

#### ◆互助の促進

孤独死ゼロアクションオープンチャットにおいて、個別具体的な互助の事例がいくつも生まれた。



参加者の壊れたエアコンを別の参加者が修理しに行った事例

#### ◆連携による効果

・伊集院こどもふれ愛食堂と連携したことにより、10月に当事者主体で行われた『カレーを食べよう会』で枝豆の提供があり、食糧支援も行うことができた。  
・特定非営利活動法人がごしまホームレス生活者支援あう会と連携したことにより、当法人の利用者ではない方が2名やどかり交民館に参加されるようになった。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

・6月に開始した孤独死ゼロアクションオープンチャットでは、9月に2度トラブルが発生し4名がLINEを退会。人数が多くなったこと、投稿が活発化したこと、意見の食い違いが原因と考えられる。  
・11月には居場所参加者内でのトラブルが発生し双方が来なくなる事態が発生。

#### ◆解決策

・トラブルでLINEを退会した4名うち、2名はすぐに再度LINEへ参加した。残りの2名は、法人とは良好な関係を継続でき、11月にはどちらも再度LINEに参加した。法人において、『ひとつ切れても、つながりが切れないつながりの網をめぐる』環境を構築することが重要。  
・トラブル後、やどかり交民館参加者でチャットのルールを協議し、11月にはルールを定めた。以降はトラブルになりそうになっても当事者が主体的に解決できた。  
・居場所のトラブルについては、相互の意見を当事者グループワークで議論する場を設けた。  
・これまで孤独孤立に陥っていた方が『相互行為』が行われる居場所に参加した場合、必ず何らかのトラブルが起こる。しかし「トラブルを避けるために当事者どうしをつなげない」ではなく、参加者には誰にでも社会に参加しトラブルを自ら解決できる能力があるという前提（社会参加における能力存在推定）に支援者が立つことが必要である。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

・参加者全員に互助における役割が生まれているか  
・孤立している当事者にアウトリーチが届いているか、再孤立化を防止できているか  
・無償・有償ボランティア、有給の仕事の線引き

#### ◆取組の継続方法

・本取組を来年度以降も継続するために当事者主体の寄付募集活動を始める。  
・一つ切れても切れない多階層のつながり構築を目指す。  
・「線引き」を決める当事者グループワークを繰り返す。

#### ◆他団体への波及可能性

・「当事者の意思表示」「社会参加における能力存在推定」「当事者グループワーク」など、互助のコーディネートメニューが少しずつ確立しつつある。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人やどかりサポート鹿児島  
代表：芝田淳/設立：2007年/スタッフ：11名  
所在地：鹿児島市下荒田4-30-5 プレジデント下荒田403  
主な事業：居住支援、居場所サロン

#### ●メッセージ

・誰でも他人のために、地域のためになにか役に立つ力を必ず持っています。まずは、当事者（支援対象者）に「私たち困っているんです」って泣きついてみませんか？

# 食の提供



# 食で結ぶ孤独・孤立対策プラットフォームの構築

一般社団法人 フードバンク八王子(東京都八王子市)

## ●本事業のポイント

- ① 官民を問わず、支援者相互の「顔の見える関係」を構築する。
- ② 孤立者をターゲットにして「フード・カフェ」を開催する。

## ●キーワード

フードバンク/中核団体  
連携/居場所づくり

## 1 取組の背景と目的

### ◆多様な課題に対応する

貧困とは社会的な孤立の一形態である。孤立していなければ（頼れる人がいれば）フードバンクを訪れる必要はなく、これほど貧困に陥ることもない。

しかし、貧困から、その背後にある社会的な孤立へと視野を拡大する時、その在り方は実に複雑な様相を呈し始める。貧困だけが孤立と連動しているのではなく、貧困でなくとも社会的に孤立することは十分にあり得るからだ。



### ◆取組の目的

貧困でなくとも社会的に孤立する問題に対処するためには、貧困のみに特化するのではなく、一定の包括的アプローチが必要になってくる。そのために本プラットフォームプロジェクトを企画した。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

官民を問わず、孤立の多様な在り方に対応して支援している団体が参加するプラットフォームを構築する。その方法として、毎月の定例会を開催して、各団体の活動報告と意見交換を行う。これを通じて「顔の見える」関係を構築する。

フード・カフェを開催する。そのモットーは「一緒に作って、一緒に食べる」。毎週定期的で開催して、孤立している人、孤立しがちな人が気軽に参加できる居場所を作り上げる。



### ◆連携先との関わり

八王子市内で、社会的に孤立している方々と既に直面している団体や八王子市の関連部署と連携する。また、プロジェクトそのものを運営する体制としては、フードバンク八王子のスタッフが担当する。（全体統括：國本康浩、他に、川久保美紀子、浅野里恵子、小澤恵美）

参加団体については、下記の画像を参照のこと。

## プラットフォーム参加団体

### 民間団体

パントリー	はちせいパントリー、まほうのほうき
子ども食堂	カフェ北野、たてキッチンさくら
不登校児支援	プラス・パス
里親里子支援	NPO法人里親ひろばほいっぶ
障害者支援	社会福祉法人武蔵野会
若者支援	八王子若者サポートステーション
高齢者支援	高齢者あんしん相談センター高尾
地域福祉	八王子市社会福祉協議会
医療機関	駒木野病院

### 八王子市

- 生活自立支援課
- 障害者福祉課
- 学校給食課
- 福祉政策課
- 八王子保健所

### 大学

- 東京都立大学 子ども・若者貧困研究センター

### 3 取組の成果

#### ◆定例会で「顔の見える関係」の構築

本プロジェクト参加メンバー（団体）が、お互いの活動報告を通じて活発に意見交換し「顔の見える関係」を着実に構築できた。

団体間の連携も徐々に進展し、定例会参加者も30名を越えるほどに増えてきた。



定例会の具体的内容は以下の画像を参照のこと。

食で結ぶ「孤独・孤立対策プラットフォーム」の定例会年間計画  
～ただし「お話」をするだけではなく、個別具体的なケース会議を通じて実践的な連携を深める～

<p>7月19日:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的孤立と八王子市の課題 (福祉政策課)</li> <li>本プロジェクトの趣旨説明 (フードバンク八王子)</li> <li>生活自立支援課が運営している孤立の問題 (生活自立支援課)</li> <li>自己紹介を兼ねた小宴</li> </ul> <p>8月23日:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世帯単位から見た孤立の問題 (坂本洋子氏)</li> <li>八王子の子ども食堂の現状と課題 (川久保美紀子)</li> </ul> <p>9月20日:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児への支援ネットワーク (プラス・i(s))</li> <li>給食センターと不登校児 (学校給食課)</li> </ul> <p>10月16日:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども食堂の現状 (キッチンさくら、カフェ北野)</li> <li>バトラーの現状 (かじやし、まほうのぼうし)</li> </ul> <p>11月15日:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>依存症の観点から見た孤立の問題 (駒木野病院)</li> <li>保健所が運営している孤立の問題 (八王子市保健所)</li> </ul>	<p>12月20日:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の孤立の問題 (高齢者安心相談センター一基尾)</li> <li>はちまるサポートの活動 (社会福祉協議会)</li> </ul> <p>1月17日:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者が運営している孤立の問題 (武蔵野会)</li> <li>地域生活支援拠点のこれから (障害者福祉課)</li> </ul> <p>2月3日: イベント開催 (たまたまメッセ第一会議室)</p> <p>都立大「令和4年度・八王子市の生活実態調査」の概要発表 表や「ネルディスカッション」のイベント</p> <p>3月13日: (第二水曜日です!)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤立対策へ向けた八王子市の展望 (福祉政策課)</li> <li>本プロジェクトの総括 (フードバンク八王子)</li> <li>次年度へ向けた連携と活動方針に関する合意形成 もろもろ、大宴会!</li> </ul>
---	--

上記のタイトルは全て仮称  
定例会の開催は、原則として、毎月第三水曜日18時～21時  
場所: フードバンク八王子 (八王子市幸町2-8-33)2F

#### ◆つながりの醸成

##### フードカフェの開催

毎週火曜日に定期的に開催する居場所として企画。ターゲットが孤立しがちな人々たちなので、そもそも集めるのが難しいが、本プロジェクトメンバーを通じた様々な人たちの助けによって、徐々に集まるようになってきた。



今は、毎回、10人前後の人が集まるようになり、常連さんも生まれて、とてもなごやかな雰囲気で開催できている。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

定例会に関しては、参加者のそれぞれが地域で第一級の方々なので、活動報告の内容についても簡単な打ち合わせで済んだ。むしろ、毎回、活発な意見交換が生じて時間が足りないくらいになっている。

しかし、フードカフェについては、ターゲットが「動かない人たち」なので難しい。従って、ターゲットにダイレクトにアプローチするよりも、彼らと繋がっている支援者の方々に重点的に広報した。その結果、今は常連さんも生まれているが、しかし逆に、一見さんが参加しにくい状態にもなりかねないので、注意深い運営が必要と考えている。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

次年度は、今回のチームを増強し、より団体間の連携を活性化させるように活動を継続してゆく必要がある。

#### ◆取組の継続方法

##### イベントの開催と市民への訴求

2月3日 (右のチラシ参照) にイベントを開催し、このプラットフォームを市民に向けてしっかりとアピールする。それが同時に、このチームの存在意義を高めることにも通じるからだ。



#### ◆他団体への波及可能性

以上の活動成果を通じて、他団体からの関心も高まり、より広い連携ネットワークへと成長させることが可能になるだろう。実際、その種の声を既に頂いている。

社会的な孤立とは、単純ではなく、多様な在り方をしていきます。必ずしも貧困だけではありません。だからこそ、様々な領域で活動している団体との連携が必須であり、しかも、言葉だけではなく「八王子らしい顔の見える関係」の中で密接な連携を図ってゆきたいと思っています。どうか、ご協力をお願いできれば幸いです。

#### ●団体概要

一般社団法人フードバンク八王子  
代表: 國本 康浩/設立: 2016年/スタッフ: 4名  
所在地: 東京都八王子市中町2-9ランメンビル3F  
主な事業: 困窮者への食糧支援他

#### ●メッセージ

●孤独孤立の要因は多様であり、様々な領域で活動する団体が連携することで対応できることも増える。地域の関係者との顔が見える関係が重要である。

# 多様な人でお惣菜をつくり届ける過程で子育てしやすい街をつくる

認定NPO法人 こまちぷらす（神奈川県横浜市）

## ●本事業のポイント

- ①お惣菜を保育園に届け、園から保護者に渡すことで共働き世帯の家事負担を軽減
- ②お惣菜をきっかけに利用者が地域とつながる機会の創出
- ③保育園・就労移行支援事業所・商店会・デイサービス等、多様な主体との連携により地域全体で子育てを応援する土壌をつくる

## ●キーワード

食事提供/子育て世帯

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

「子育てにおける孤独感を感じたことがある」母親は約7割。横浜は転出入が多く自分の育った市区町村以外で子育てをしている『アウェイ育児』者が6割を超え共働き世帯は子育ては約5割（2017）に迫っている。頼れる身近な人がいない中で家事/子育て/仕事の両立をし、母親を中心に精神的・身体的な負担があることが課題である。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

こまちぷらすは、これまで「こまちカフェ」という居場所を運営してきたが、場に足を運べない子育て当事者や働いていて平日昼間を中心とした居場所に足を運ぶことが難しい世帯の孤立に着目し、様々な人にお惣菜を届け物理的な家事負担を減らす挑戦をすることにした。お惣菜をきっかけとして地域とつながる機会の創出にむけて、法人として2つ目となる居場所「こよりどうカフェ」の立ち上げをきっかけに始めた。

### ◆取組の目的

働きながら子育てをしている世帯を対象とした、孤立予防と家事負担の軽減を目的とする。具体的には、利用者の子育ての負担感の軽減、まちとの関わりに変化が生まれることを、保育園、就労移行支援事業所や商店会等と連携することで目指す。



お惣菜の販売

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●保育園との連携/申込～受け渡し

- 保育園との事前打ち合わせやトライアルを通じて、プロジェクトの共通目的を確認した上で、保護者がオンラインショップで申込と事前決済を行い、保育園では受け渡しのみを行うシステムを構築。メニューに対するフィードバックを基に改善を重ね、カフェスタッフが注文をまとめて保育園に配送する仕組みをつかった。

#### ●多様な方々との共同作業

- 週1回のボランティア（学生、子育て層、高齢者）がキッチンで調理補助に参加し、就労移行支援事業所とも連携。障害がある人も働きやすい環境を整えるため、視覚的にもわかりやすい表示で物の置き場やレシピの整理を実施。

#### ●地域情報の提供

- 配達するお惣菜に、地域のイベントやお出かけ情報、カフェのお知らせを含むニュースレターを作成して同封。デザインはボランティアが担当し、カフェスタッフが文面作成を交代で実施。子育て中のスタッフが推薦する散歩コースなどの親しみやすい情報も提供。

#### ●出張販売の実施

- 2園の保育園でお惣菜を配達し、他1園を含む計3園にて出張販売を実施。10-20名/回 の利用者に直接商品を手にとってもらい、メニューリクエストを収集。保育園のイベントでの出店を通じて、保護者間の交流を促進。

#### ●地域連携イベントの開催

- コロナ禍前実施していたイベント（キャンドルナイト）を地域施設団体と共同で再開。高齢者デイサービス、就労移行支援事業所、新たに2つの保育園を含む連携により、各世代が作ったランプシェードをお寺で展示するイベントを実施。

### ◆連携先との関わり

- 構想段階から相談や保育園が把握している当事者のニーズヒアリングを丁寧に行った。職員の負担が過大にならないよう、注文・決済システムも工夫した。
- 様々な障害を持つ利用者の事前情報を考慮し、キッチンスタッフと協働する環境を整えた。
- 高齢者、障害のある方、子どもたちが一緒にキャンドルナイトのイベントを作り上げるため、事前の打ち合わせを丁寧実施。商店会の事業として位置づけ、会員にも安心して参加してもらえるよう、会合での説明を重ねた。イベント当日は町内会長も招き、地域に根付くよう多様な参加者を迎え入れた。

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果とつながりの醸成

- 2園に対し30名程にお届けし、出張販売会も3園にて4回実施。
- 利用者にとって本取組は、家事育児仕事を全てできないといけないうプレッシャーから解放できるようなメッセージ性が含まれていることで、罪悪感なくお惣菜注文をできていることがわかった。また、そこから地域の人やつながりへとつながるためには、「偶然出会う」機会が多く街の中であり、外から様子が分かるような出入り自由なゆるやかな参加の場が必要であることもわかった。

(3人の利用者へのヒアリング結果)

「買い物やお迎え後の調理ということからの解放」「家に帰ってからお菓子で子どもを待たせる罪悪感をもたなくてよいこと」

「受け取り時の先生と話すきっかけが生まれている」「先生から後押ししてもらうことで『罪悪感』なくお惣菜を頼める」等の意見があった。



お惣菜・お弁当の調理

#### ◆連携による効果

- 5主体と一緒に1回イベント実施。当日は約50名程の参加者があった。
- 保育園・就労移行支援事業所・デイサービス・商店会等多様な人が一緒に関わるイベントをコーディネート。保育園に通う働いている世帯が地域の場に足を運び、子どもたちを中心として様々な人が主体的に関わる場をつくることができた。
- キャンドルナイトのイベントは、コロナ禍で開園した園にとっては、初めての地域連携事業となり、地域との関係構築や交流のきっかけになった。
- 就労移行支援事業所にとっては、地域の中で連携をすることで利用者にとっての就労訓練機会になるだけでなく事業所を知ってもらうきっかけになった。
- 商店会にとっても、様々な年齢の人が足を運んでくれることによって商店会周知にもなった。このように関わる多様な主体の方々それぞれにとってよいことがあることで、この連携が継続し、子育てしやすい風土の醸成につながっていくことを実感した。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

進めていくうえで課題となったのは、保育園側の衛生管理の懸念や職員の負担増への懸念から園数を増やすことが難しかったことである。

また、お客様側からは日々忙しい中で、申し込みをするための時間や選ぶ手間すら取れないという声があり、申し込み増につながらなかったことも課題に挙げられる。就労支援以降事業所との連携においては、障害がある人と働くということを日常的にしていなかったスタッフにとっては、初めての経験となり身構えるスタッフもいた。

#### ◆解決策

上記内容を解決するために、まずは事前注文/決済システムをつくることで、園への負担を減らせるように工夫をした。お客様からの申し込みのしやすさについては、申し込み注文サイトの工夫等をした。就労移行支援事業所との連携においては、間に障害特性を理解して伴走するスタッフが入ることによって、一緒に働く環境整備ができ、結果的に多くの人にとって働きやすい職場になった。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 今年度の取組では、まずは保育園との関係性構築とコンテンツ作成（お惣菜のメニュー開発や改善）、基本的なシステムやフローづくりに力を入れた。次年度は更にお申し込みのしやすさにつなげるため、LINEの活用や頼みやすいメニュー設定を検討する。
- 衛生面での懸念を減らすため今後は覚書き等のひな型をつくり責任の所在の明確化をし、導入のしやすさにつなげたい。

#### ◆取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法は、利用者負担に加え寄付や協賛で支えていただけるような仕組みにしていこう。
- 支援対象者をつながりつづけるために、各園や関係機関とのコミュニケーションを密にし、園の皆様からもアプリ等を通じた情報発信依頼をしていく。

#### ◆他団体への波及可能性

- この成果を通じて、全市においても保育園にお惣菜を届ける事業を実施することが広がっていくことを目指す。そのためには、利用者や関係機関のニーズを聞きながら更に取組をブラッシュアップしていきたい。

#### ●団体概要

認定特定非営利活動法人こまちづらす

代表：森 祐美子/設立：2012年/スタッフ47名

所在地：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町145-6奈良ビル2F

主な事業：カフェ、子育て支援等

#### ●メッセージ

- 今回の取組を通し、「頼ること」には、人によっては罪悪感が伴うということも分かった。本取組実施の際には、その気持ちによりそのような仕組みづくりと情報発信が必要だ。

# リビングカーによるお出かけ「いとこんち」

一般社団法人 ソーシャルペダゴジーネット（北海道札幌市）

## ●本事業のポイント

- ①孤独・孤立を防ぐための居場所運営実績のある団体と協働した
- ②孤独・孤立を防ぐための専門機関連携実績のある団体と協働した
- ③本事業を通じて居場所と専門機関と家庭とを「リビングカー」でつないだ

## ●キーワード

子ども・若者/相談/地域貢献

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

子育て中のシングルマザー・ヤングケアラー・社会的養護施設出身者などは、頼れる家族・親族がいない、地域の人と出会う機会が少ない、対人面への苦手意識からSOSを出すことが難しい等の課題から社会的孤立に陥るリスクが高い。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット（以下、SPN）の母体となる公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会（以下、SYAA）では、児童館や青少年キャンプ場などで広く子どもたちの健全育成に携わってきた。

現場で出会う子ども・若者のうち、とりわけ孤独・孤立リスクの高い子ども・若者をサポートするために、SPNでは2020年6月から、「子ども・若者の居場所いとこんち」をSYAAと協働運営してきたところである。

「専門性を要する援助業務」と「何気ない日常の見守り」とを繋ぐ取組である「いとこんち」は、令和4年度内閣府「子供と家族・若者応援団表彰」において内閣府特命担当大臣表彰を受賞するなどの評価を得てきたが、一軒家を活用して拠点としているため、どうしてもその近隣地域に成果が限定されていた。

### ◆取組の目的

いわゆる「移動型いとこんち」として、拠点型の居場所には繋がることの難しい対象者と出会い、日常の見守りを新たなかたちで実践できるかを試行する。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

大型車両内にリビングスペースを設けた「リビングカー」で市内各地に出向き、食べながら交流を深める・スタッフに相談する・地域の人とあたたかも親戚のように繋がる、という活動を展開する。

### ◆主な訪問先

- ・困窮世帯が集中している地域の中学校と定時制高校
- ・児童館や公園など子ども・若者が夜に集まっている場所
- ・ヤングケアラーやシングルマザーなど、孤立リスクの家庭



リビングカーでのお出かけの様子

### ◆連携先との関わり

・SPNの母体であるSYAAと協働で本事業を実施した。SYAAは「さっぽろ子ども・若者支援地域協議会」の事務局を担っており、児童相談所や学校といった公共セクターから子ども食堂等の民間団体まで、幅広くネットワークを有している。

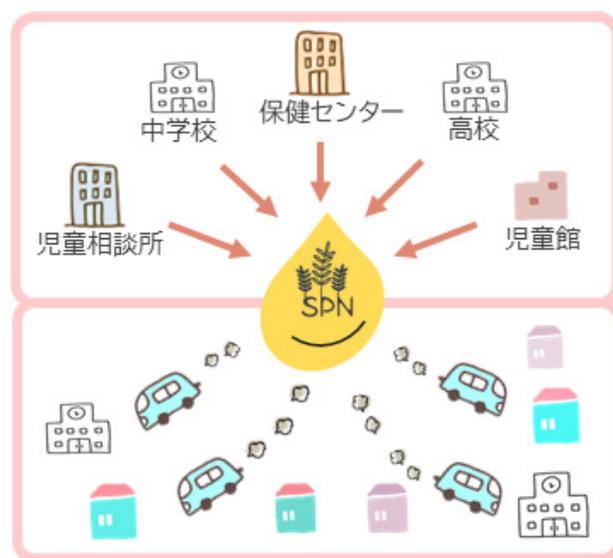
SPNの代表理事は、SYAAの子ども若者支援担当部長を兼務しているため、主にSYAAがこれまで築いてきたネットワークを活用して他団体と連携した。

・SYAAは市内200館近い児童館を管理運営しており、各児童館では子育て事業に協力的な地域住民と日ごろから関係性を構築している。児童館との連携により、このような地域住民をサポートとして登録していただいた。

### ◆連携方法

・子ども・若者に関わる各分野の専門機関や市内各地の民間活動団体からの要請にもとづいて、「リビングカー」を出動させた。

・出動後は、要請元の各機関へ日常の中での見守りで見てきた子ども・若者の様子を報告し、専門機関のアセスメントに必要な支援情報を提供した。



関係各所との連携図

### 3 取組の成果



#### 訪問先別の出勤状況

#### ◆日常生活環境における予防効果

- ・「朝ごはんカフェ（下記参照）があるとその日の集中力や元気が全然違う。登校の意欲も上がった気がする」（中学生・見守り型サロン参加者）
- ・「いつも物資を届けてくれてありがとうございます。子どもも多く食べ盛りなので本当に助かります」（家庭訪問先のシングルマザー）

#### ◆連携による効果

- ・本事業の活動を知った中学校長から「朝食を食べていない生徒を支援してほしい」との依頼を受け、週1回程度、当該中学校に「リビングカー」で訪問し、朝食の提供を行う「朝ごはんカフェ事業」を開始した。専門機関からの依頼により、新たな事業の展開へつなげることができた。
- ・保健センター等の専門機関からは、保護者の養育状況の心配や行政への抵抗感の強い世帯への訪問依頼を受けた。食料品等の宅配と称した家庭訪問を行うことで、当該世帯の負担感を和らげ、日常的な場面を支えることにつながった。
- ・このように、SPNのこれまでの支援実績のなかで培われた専門性によって表出される支援ニーズと、関係機関ネットワークとのつながりのなかで表出される課題に対して、柔軟かつ即興性のある日常の見守りを行うことができた。



### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- ・関係機関からの依頼増加等ニーズの高まりを受け、当団体のスタッフ体制が追い付かないこともあった。

#### ◆解決策

- ・地図アプリを活用し、同じ方面への訪問の際は途中で立ち寄るなどの効率化を目指した。
- ・新たな地域住民サポーターを獲得し、定期的に活動に従事していただいた。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- ・冬季は積雪により車両周辺での居場所活動が困難になることから、リビングカー車内空間での個別相談・支援の場としての活用を予定していたが、施行実施に留まってしまうため、次年度は更なる活用を推進していく。

#### ◆取組の継続方法

- ・取組の継続にあたっては車両の安定的確保が欠かせないため、助成事業の活用により資金調達を行う。
- ・今後も、本人や家族をゆるやかに確実に見守るためにも、拠点型と移動型をセットで事業継続していく。また、子ども食堂等の地域団体とも連携し、拠点間の食材の受け渡しや子どもたちの体験機会づくりなど、点（拠点）と点を結ぶ線の役割を当該車両が果たしていく。

#### ◆他団体への波及可能性

- ・この成果を通じて、拠点型と移動型をセットとした新たな居場所事業のスタイルを他団体に向けて発信することができた。



#### ●団体概要

一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット  
代表：松田考/設立：2020年/スタッフ：20名  
所在地：北海道札幌市中央区南4条西6丁目8番地3晴ればれビル4階  
主な事業：居場所づくり、生活相談、体験機会提供、地域づくり

#### ●メッセージ

- ・本事業を通じて、孤独・孤立対策に取り組む諸団体と出会う機会を得ることができた。今後も実践交流をしながら、子ども・若者・家族支援分野の向上に共に取り組んでいきたい。

# 困る前に寄り添うユース食堂の運営

一般社団法人 SGSG（岡山県岡山市）

## ●本事業のポイント

- ①カフェ形式のユースセンターを常設で開く
- ②ユース世代対象のイベント・支援者対象の情報交換会を開く
- ③「困る前になんとかする」をコンセプトに予防型支援体制を構築する

## ●キーワード

居場所/子ども・若者/  
食事提供

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

2022年度当法人の調査により「困った状態」に陥る状況であっても「相談できる人」「安心できる居場所」が無いとし、その中の多くが公的機関の開設する「相談機会」は心理的ハードルが高く利用することを躊躇することがわかった。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

カフェのようなカジュアルな雰囲気を用意している。このユースセンターに気軽に足を運んでもらうには、施設を半常設で開け、カフェのような居場所で安価もしくは無料（対象者の経済状況による）の「ユースカフェ」（子ども食堂の中高生向けのイメージ）を運営すればよいのではないかという仮説を立てた。

### ◆取組の目的

食の提供によって支援への参加ハードルを下げ、何らかの「困った状態」に陥る状況であっても「相談できる人」「安心できる居場所」が無いという状態に置かれている中高生の「公では拾えない困り感」「公が対象とする困り状態になる前の状態」の声を適切に拾い、必要に応じて連携している専門機関に繋ぎ、支援が途切れない状態を目指す。



ユースカフェの様子

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●ユースセンター日常の取組

- 併設するカフェで中高生対象にアイスクリームを無償で提供した。
- 毎週1回、センターを利用するコアメンバー・中高生による定例ミーティングを開催

#### ●ユース食堂の観点を入れたイベントの運営（土曜夜市・ユースサミット・ユースカフェ）

- 土曜夜市…中高生による商店街での夜市で模擬店の運営
- ユースサミット…中高生による商店街でのステージイベントの運営
- ユースカフェ…中高生による中高生対象の無料カフェの運営

#### ●支援者による情報交換会

- ユースワーカー・大学生・ステークホルダー（企業・教員・大学・行政関係者）などが毎月1回集まってもらい、ユースセンターの活動報告を行う。

#### ◆連携先との関わり

- 商店街でのイベント開催にあたり、商店街の振興組合協力をいただき、商店街アーケード内のスペースをイベント会場として便宜を図っていただいた。また、岡山市社会福祉協議会には、岡山市内の要支援対象者メーリングリストへ当事業の実施案内を掲載させてもらうなどの強力を得た。岡山市教育委員会はイベントへの後援をもらい、広報活動へ協力していただいた。
- 企業関係者・行政関係者・学校の先生などの支援者（ステークホルダー）には当事業の情報を適宜提供しながら、毎月1回の情報交換会への参加の呼びかけを行った。

### 3 取組の成果

#### ◆常設居場所から拾えたホンネ

- ユースセンターでの飲食を提供しての居場所作りにおいて、利用者の何気ない会話の中から、「家庭では居場所が無い」、「実は学校に行けていない」、「学校を休みたいのに親が許してくれないので辛い」、「小さいきょうだいの世話をしなければならず、なかなかユースセンターに来れない」などを拾うことができた。

#### ◆ステークホルダーとの情報共有

- この状況を、毎月1回の支援者情報交換会で共有し、学校などで、ユースセンターの場を必要としている対象者に勧めるなどの協力の申し出を得ることができた。
- 商店街でイベントを開催することで、「商店街全体を居場所にする」という考え方が、商店街関係者に持ってもらえるようになった。



ユースセンターでの活動



商店街でのイベント



ユースカフェの様子

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

「場を対象者に認知してもらう」ことに苦労した。

#### ◆解決策

広報方法として、SNS、ラジオ・新聞・テレビなどマスメディアの利用、チラシやポスターなどの紙媒体などを活用した。案内チラシは、性質の違うもの（ビジュアル重視・情報重視）を2種類作成することで、多様なニーズに応える工夫を行った。

マスメディアは主に支援者となる大人への広報活動との位置づけにした。



案内チラシ

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 今年度の課題であった広報の強化は、特にSNS運用に知見のある大学生スタッフを募集するなどし、効果の得られるPR活動を行う予定である。

#### ◆取組の継続方法

- 2024年度は、基本的に今年度行った事業をすべて継続させる計画を立てている。その中でも奉還町商店街との連携は更なる強化の方向で進んでおり、ゴールデンウィークのイベントにもユースセンターとして参加する予定である。

#### ◆他団体への波及可能性

- 民設民営方式のユースセンターの継続的な在り方としてステークホルダーとの連携は欠かせない。官・民・学との協働視点での事業計画づくりがスムーズに進めばどの地域でも実行できるモデルであると考えられる。

#### ●団体概要

一般社団法人SGSG

代表：野村 泰介/設立：2017年/スタッフ14名

所在地：岡山県岡山市北区奉還町3-1-30

主な事業：学習支援、居場所づくり等

#### ●メッセージ

- 今回の取組を通して、事業成功のコツは、支援コンテンツではなく、対象者に自団体の活動を知ってもらう「広報力」であると実感した。まずは「知ってもらう」ことが重要となる。

# イベント



# SUBACOを拠点とした全世代ごちゃまぜに支え合う地域づくりの取組

NPO法人 抱樸（福岡県北九州市）

## ●本事業のポイント

- ①新規・既存のつながりの創出、関係の継続性と深化
- ②家族機能の社会化
- ③地域コーディネーターの配置
- ④地域共生社会の実現

## ●キーワード

多世代/地域づくり  
/居場所/イベント

## 1 取組の背景と目的

### ◆地域が抱える課題

- 全国的に単身世帯の増加や高齢化、人口減少に伴い人とのつながりが希薄化してきている。
- 活動をする場所は暴力団事務所があったため、人の往来も少ない。
- 誰も寄り付かなかった怖い地域から、希望のある地域へとイメージの刷新を図るとともに、人とのつながりを増やしたいという課題があった。



### ◆取組を始めるに至った経緯等

- 当法人では、2020年に暴力団事務所の跡地を購入し、2025年に複合型の施設を開所予定。
- 建築が始まるまでの間の活動として、2022年6月にSUBACO（プレハブ）を設置し、定期的にイベントの開催を通して、誰も寄り付かなかった場所に住民が集まり「出番と役割」のある日常のつながりを創出。

### ◆取組の目的

- 今回、助成事業を活用し、地域コーディネーターを配置したり、日常の活動を充実させたり、大規模なイベントを実施することで、多様な主体と連携し、日常生活における住民同士のつながりや緩やかな見守りができる土台づくりを目指す。

## 2 取組内容

### ◆具体的な取組の内容及び特徴

- 定例のイベント
- 毎週火曜日にカフェ、まちの先生企画（ダーニング、浴衣着付け、ウォーキング等）を実施。そのほかにも、地域清掃や庭作業も実施。

- 2023年7月～2024年1月で、イベントは32回、参加人数延べ443人、うち新規98人。
- まちの先生企画では、まちで得意としているものを持っている人の活躍の場にもなった。
- まちの身近な場として住民に意識してもらえるように、定例で開催。
- ◆大規模イベント
- 相談会&フードパントリー、移動動物園、マルシェ、竹あかりを実施。
- 累計で約1300人が来場。
- 福祉のイメージをあえて全面に出さずに、「楽しい、面白い、かっこいい、おしゃれ」という点で多くの住民が参加しやすいように工夫。
- 来場者が敷地内に滞在しやすいように、無料の飲食を提供する等も特徴。
- ◆地域コーディネーターの配置
- 人と人や場・活動・地域とのつながりの創出のために住民や活動の発掘・開拓とつなぎを行った。
- ◆連携先との関わり
- 連携先は、市民センターや社会福祉協議会・企業・市民活動団体等、様々。
- 日常的に連携を図る市民センターや社会福祉協議会とは、頻繁に顔を合わせ、連絡をとり、活動を共にした。市社会福祉協議会においては、希望のまちプロジェクトの担当課長が今年度より配属されたこともあり、連携強化につながった。
- イベントに応じて連携先も変わるため、イベントをきっかけに関わるようになった団体については、イベントのカレンダーを毎月配布したり、イベントの報告を作成して届けたりと、継続的な関わりを持つように意識した。
- ◆地域コーディネーターのはたらき
- 人と、人や場・活動・地域とのつながりの創出したり、関係の継続性と深化のためには、地域コーディネーターのはたらきは大きい。
- 多様な主体との連携においては、日頃から団体等に顔を出し、課題や希望等の把握をするように心がけた。それぞれの団体等が困っていることや悩んでいることに対し、地域コーディネーターがその課題に寄り添い、主体の強みを生かすことを大事にした。協働してイベント等の企画・運営をすることで、SUBACOがハブとなり各団体の理念や目的の相互理解が進み、互いの強みを活かし合う視点が育まれた。まさにSUBACOを拠点として多様な主体が出会うプラットフォームの役割を担うことにつながった。

### 3 取組の成果

#### ◆つながりの醸成

- ・定例のイベントでは、32回開催、参加人数延べ443人、うち新規98人。
- ・大規模のイベントでは、約1300人が来場。
- ・新たにつながり、そしてそのつながった関係性が持続できる場としてSUBACOを開放したり、福祉を全面に出さずに文化や芸術などのイベントを行ったりすることで、新規層に知ってもらえる機会も増えた。



#### ◆何気ない日常の共有・家族機能の社会化

- ・まちの身近な場として認識してもらえるようになりつつあり、何気ない日常を共有する住民や機会が増えてきていることは成果といえる。
- ・特段の用事がなくても、ふらっと立ち寄る人や、近隣でも声をかけてくれる人が増えてきている。
- ・SUBACOにおける活動を通して、多様な社会参加の機会を生み、何気ない日常を共有する心地のよい他者との関係や空間の創出ができつつある。
- ・これらは、地域の中の支え合いや緩やかな見守りを生み出すことにつながる。
- ・社会の変化に伴い、これまでは家族が担ってきた機能を他者が担いあう時代が到来している。何気ない日常を共にするなかで、家族以外の者が誰かの変化に気づいたり他につないでいくことになる。これはまさに家族の機能の社会化である。



#### ◆連携による効果

- ・多様な主体とイベントや日常を通して連携をすることによって、これまで団体単独ではできなかったことができるようになった。
- ・イベント等を行うことが目的ではなく、SUBACOを通して団体同士の顔見知りや知り合いが増えることが重要。これは地域における団体同士のつながりというセーフティネットを重層化することに寄与する。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- ・参加する住民が高齢者層に偏りが見られた。
- ・新規のつながりの創出後、何気ない日常を共有するような身近な存在と感じられたり、有事の際にSOSを出ることができる関係になることが課題。
- ・希望のまち・SUBACO = 福祉というイメージが固定される懸念があった。

#### ◆解決策

- ・より多様な層に参加してもらうために、子どもが参加したくなるようなイベントを開催したり、子育てや若者層の興味を引くようなイベントの内容を検討した。現状を把握し、できる限り柔軟にイベントの中身を検討するように工夫した。
- ・日常の関わりを継続できるように、SUBACOのイベントは毎週1回以上の定例開催をしたり、SUBACOに地域コーディネーターが常駐するようにした。また、各イベントにおける意味や意義を考えたり、参加者にとってSUBACOがどのような位置づけなのかを意識化したりするようにした。
- ・文化や芸術、まちづくり等の視点からもイベントを開催し、参加層が広がるように工夫をした。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- ・新規のつながりづくり
- ・住民や多様な主体とのつながりの継続と、関係性の継続と深化が課題

#### ◆取組の継続方法

- ・希望のまちの建設が着工になるまでの間はできる限りSUBACOで活動をし、その後に活動拠点を移す予定。
- ・関係の継続性が重要であるため、SUBACO解体後の活動拠点は、当法人の施設の一角と、近隣4校区の市民センターにて活動を継続する予定。

#### ◆他団体への波及可能性

- ・人口減少や単身世帯の増加や共同体の機能の脆弱化は、北九州に限った現象ではない。家族機能を社会化するというSUBACOでの取組の機能や要素は、他の地域においても汎用性が高いといえる。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人 抱樸

代表：奥田知志/設立 1988年/職員数118名

所在地：福岡県北九州市八幡東区荒生田2-1-32

主な事業：ホームレス支援から活動を開始し、現在は子どもから大人まで包括的な支援を独自・制度・委託事業で27展開。近年はまちづくりも行っている。

#### ●メッセージ

- ・活動を通して、「支える側」、「支えられる側」という関係を超えて、住民同士、住民と社会がつながり、一人ひとりに役割と出番があることで、支え合いながら暮らしていくことのできる包摂的な社会を創造することにつながっていくと考えます。活動の場所は違えども、同じ目標のもと一緒に活動ができる皆さんの存在は、非常に心強く、有難いです。今後も色々なアイデアを共有しあえればと思います。

# 多様な事業を通した子ども・若者・高齢者のコミュニティ創造事業

特定非営利活動法人 カーサグランデ（宮崎県宮崎市）

## ● 本事業のポイント

- ① 孤立した方や世帯・家庭の把握
- ② 孤立した方や世帯・家庭への周知
- ③ 民間団体と自治体との協働

## ● キーワード

高齢者/子供/交流/  
居場所/民間団体/  
自治体/協働

## 1 取組の背景と目的

### ◆ 対象者が抱える課題

- ・孤独・孤立した高齢者やシニア世代と地域の子供たちや家族の交流する居場所がない。
- ・支援して欲しくても、支援機関に繋がらない。

### ◆ 取組を始めるに至った経緯等

私たちは、民間団体のそれぞれ特徴のある活動と地域自治体との協力があれば、地域の孤立した世帯の把握ができる可能性があることに着目し民間団体と地域を繋ぐ役割ができないかと思い取り組む。

### ◆ 取組の目的

地域の孤立した方を対象に、交流する居場所や支援団体があることを伝え、安心して生活してもらうことを目的とする。具体的にめざす姿は、地域に密着した支援団体。



### ◆ 連携先との関わり

- ・連携先であるDreamSupportやみやざき公共・協働研究会・あけびの会とは様々なイベントを通して交流をはかっていた。
- ・また、直接関わるフードバンクみやざきに対しては、頻りに食支援提供の共有をしている。
- ・新町自治会とは、地域の清掃活動などに参加し、交流をしている。
- ・地域と様々な民間団体と餅つき大会  
日本の伝統的な行事でもある餅つきを体験していない子ども達と、地域のベテランの高齢者との交流を図りながら知恵を伝えていく。

## 2 取組内容

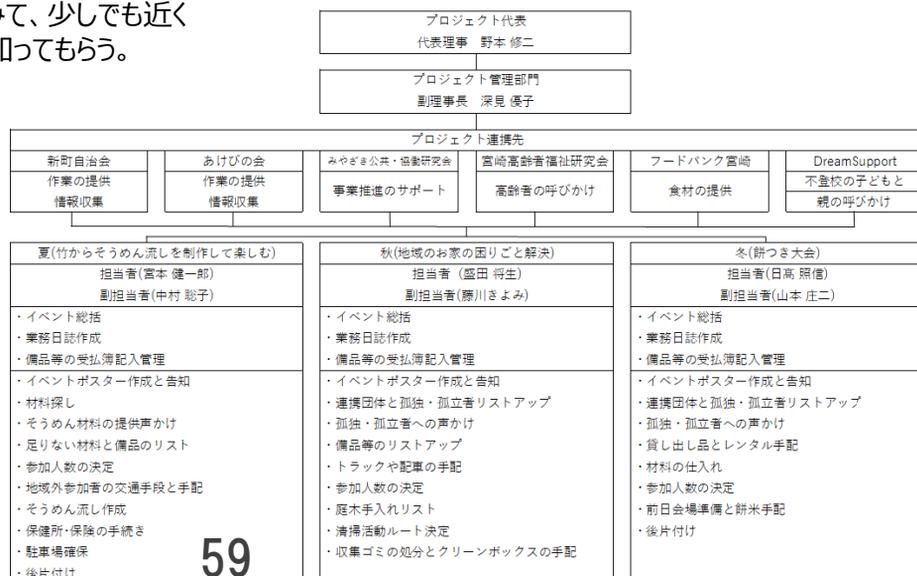
### ◆ 具体的取組内容と特徴

- ・そうめん流しとD I Y  
大工さんに教えてもらいながら、竹をとってきてそうめん流しを作成。夏祭りの準備と、当日は様々なゲームを通して地域との交流をはかる。
- ・地域のお家の困りごと解決  
地域の孤立した家庭の困りごとを徴収。自治会の協力を連携した民間団体を得て、2世帯の孤立した家の困りごとの手伝いをする。  
地域の方が、きれいになった状況を見て、少しでも近くに手助けしてくれる団体がいることを知ってもらう。

### ◆ 連携方法

- ・各団体や新町自治体と連携するため、代表や自治会長にアプローチし、この活動の主旨を説明した。
- ・連携会議の日程調整や担当者への連絡は、カーサグランデでとりまとめ調整した。
- ・個人情報の取り扱い等、連携先との情報のやりとりについては、カーサグランデで管理し、連絡等もカーサでとりまとめている。

多様な事業を通した子ども・若者・高齢者のコミュニティ創業事業 体制図



### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- 各民間団体の居場所の利用（DreamSupport）が当初月延べ12名から1月時点で23名へ右肩上がり増加傾向を示している。
- イベント実施後の利用者アンケートでは、ソーメン流しや餅つきを始めて体験した。
- 子どもも喜んだが、保護者も出来ない事や知らない事が多く、地域の高齢者に教えてもらいありがたかった。



#### ◆つながりの醸成

- 利用者アンケートでは、なかなかすることもなくなった餅つきの準備や餅の丸め方ではあった方が、地域の子どもや保護者に教える事によって生きがいやまたやってみたく楽しみが増える感じがしたとの意見があった。
- 利用者にとって本取組は、孤独で生活していて、兄弟も高齢で孤独の中で、自宅の手つかずの場所を地域や民間団体にきれいにしてもらいほっとした。
- 地域と繋がっている事を実感でき、安心して生活出来るように思えてきた。



#### ◆連携による効果

- みやざき公共・協働研究会やDreamSupportと連携したことにより、不登校の親子や発達障害の子ども達とカーサの孤独者や地域の孤独者が交流し、これまで団体単独では体感させることができなかった事を、連携をすることでできるようになった。
- 連携体制を構築したことにより、食支援の周知と様々な知恵の交換ができた。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- 進めていくうえで課題となったのは、それぞれ草の根活動を続けている民間団体との時間を調整することが難しかった。複数の連携機関にまたがり検討し調整するため、それぞれ限られた時間の中でのイベントはかなりの労力と時間を要した。
- このような提出物も増え、ここに使う人件が足りなく大変だった。

#### ◆解決策

- 上記内容を解決するために、まずは人件の確保と資金の確保。
- 事務作業の簡素化。
- それらの効果によりもう少しスムーズにイベント開催ができる。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 今年度の取組では、様々な民間団体と地域の自治体が協働で地域の孤立問題に取り組む事。次年度は、継続していくことで、まだ届いていない孤独の方や、繋がりが出来た方との伴走支援に取り組む必要がある。このことを1つ1つ積み上げることで、地域に民間団体の存在を知ってもらえる事に繋がり、相談出来る場所があることを知っていく事に繋がり孤独・孤立の解消に繋がっていく。

#### ◆取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法は、現在の状況ではこの事業用に補助金や助成金の活用をすること。
- 支援対象者とつながりつづけるためには、今年度取り組んだような事を、地道に続けていくこと。

#### ◆他団体への波及可能性

- この成果を通じて、他団体（不登校・ひとり親支援）においても民間団体と自治体との協働を実施することがスタンダード化してくると、地域の課題は少しでもスムーズにいく。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人カーサグランデ  
代表：野本修二/設立：2015年  
所在地：宮崎市清武町木原413番地 1  
カイルアビルⅢ103号室

主な事業：生活困窮者総合支援（独居高齢者・障がい者・刑事施設退所者・DV被害者等生活に困窮している者）

#### ●メッセージ

- 今回の取組を通して、地域の問題は、地域の民生員や主任児童員、自治体と協力すると課題を抱えている家庭の居場所がわかった。本取組実施の際には、それらの方が間に入ることで、スムーズに進んだ。

# 市営住宅における住民同士・地域とのつながりを構築する取組

一般社団法人 大牟田未来共創センター（福岡県大牟田市）

## ●本事業のポイント

- ①公営住宅は住宅セーフティネットとして、高齢者、障がい者、低所得者等の人とつながりにくい人たちの入居を進めてきたため、より「孤独・孤立」が発生しやすい
- ②行政、地域事業者に加え、地域の高等教育機関である有明高専と連携
- ③住民同士のつながりのみならず、地域とのつながりも意識し、地域への愛着形成を促す

## ●キーワード

公営住宅/多世代/対話のうまれる環境づくり/意欲の向上

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

大牟田市は高齢化率37.7%(2023年4月1日時点)と、2065年の日本の状況に既に直面しており、その中でも大牟田市営住宅においては、世帯員の高齢化率は50.9%(2021年4月1日時点)で、本市の高齢化率を大きく上回っている。



市営住宅

### ◆取組を始めるに至った経緯等

市営住宅の耐用年数経過に伴う建替えにより強制的に移転が求められる事態が発生し、移転そのものや移転後の生活に支障が生じる事態が発生したため、当団体では市役所内の関連部署や地域の団体と協働し、市営住宅における相談支援・生活支援に取り組んできました。しかし、住民には相談窓口機能としての印象が強く、困り事があるとみられたくない人や問題を自覚していない人とつながりにくい状況があった。一方で、市営住宅を対象とした調査において、住民がより地域でのつながりを求めていることも見て取れた。

### ◆取組の目的

こうした実情を踏まえ、住民同士が出会う場を増やすとともに、出会った後につながり、そのつながりが強まっていく取組をすることで、住民同士の自然な対話やコミュニケーションを引き出し、孤独・孤立を予防することを目的とした。また、住まいや環境に働きかけることで、居住する地域・場所への愛着が育まれることで、その場所が新たなつながりをつくることを目指す。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●男性や現役世代を対象とした夜間帯での食事会・集いの場の企画・実施

集いの場への参加が少なかった男性や現役世代が参加しやすくなることで、より多くの住民が出会い、つながる機会を目的とした。準備段階を住民と一緒に行うことで単なる参加者ではなく主体性を発揮できるようにする、高齢男性が参加しやすい企画の設定や個別に声掛けをして抵抗感を軽減する、子どもは参加機会を増やすために食事を無料とするなどした。

#### ●お散歩会など隣近所と顔見知りになり地域への関心を高める企画・実施

新たな住民と既存の住民が出会いつながることで地域コミュニティが広がるとともに、地域と出会い直すことにより、居住する地域に対して愛着を育むことを目的とした。住民同士が話しやすくなるように名札を着用し、事前に周辺地図をみながら地域の素敵なお店（商店・季節の花・野生生物など）を話し合ってから、実際に居住地周辺を歩くこととした。

#### ●畑・植栽・大作業等を通じた思い入れのある環境づくり等の活動の企画・実施

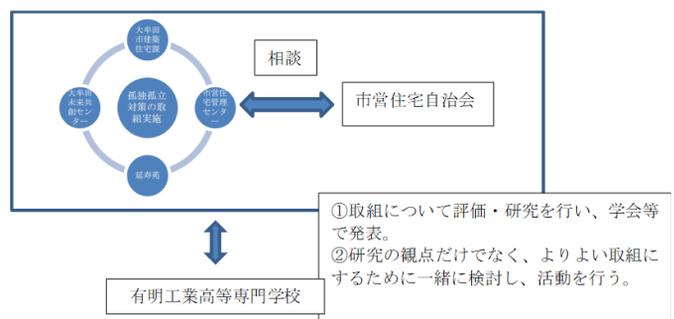
市営住宅の共有スペースに共同作業した「モノ」や「場」があることで、住まいや環境に働きかける「余白」になり、住民が引き寄せられ、つながりが生まれることを目的とした。住民同士で話し合いの場を設け管理方法や名称を考えて看板を作成し、コミュニケーションボードを設置するなど、景観が整うことで近隣住民が「気に入る」仕掛けを取り入れた。

取組全体を通して、作業を通じて得意なことを生かし活躍する（あるいは出番・役割がある）ことで、「支援を受ける立場」ではなく「共にする立場」になり、主体的に地域に関われるよう工夫した。

#### ◆連携先との関わり

孤独孤立対策の取組をする4者では、月1回の定例会議を開催し、状況共有をしつつ、役割分担や取組方針を検討した。

市営住宅自治会には月1回参加すること、自治会開催前に自治会長と定例の話をするようにした。有明工業高等専門学校との学生とは、研究計画の段階から内容についての打合せを実施した。調査にあたっては、市営住宅自治会への説明と、調査対象候補者への打診を行った。調査対象住民はヒアリング調査になれていない方もいた為、ヒアリングに同席した上で普段の様子をふまえて緊張せずに答えられるような場を設定した。



### 3 取組の成果

#### ◆住民同士が出会う場への参加状況

各取組の延べ参加者は以下のとおり。

- ・夜の食事会：145名（うち男性31名、子ども14名、現役世代7名）
- ・お散歩会：33名（うち男性10名）
- ・表札づくり：31名
- ・料理：51名
- ・畑作業：140名
- ・植栽作業：48名
- ・大作業：23名+a
- ・折り紙：14名
- ・イベント開催（夏祭り等）：50～100名以上

#### ◆住民同士・地域とのつながりの醸成

各種取組をすることで、以下のような発言が聞かれた。

- ・引越し後間もないが、団地内の人同士で話が出来て安心した（お散歩会）
- ・花壇や畑作業に参加してみたい（お散歩会）
- ・気になるお店でみんなでお茶をしたい（お散歩会）
- ・今度図書館で地域の歴史を調べてこようと思う（お散歩会）
- ・まわりの人が表札を出しているので、表札を掲げることの抵抗感が減った（表札づくり）
- ・野菜が育って、ここを通る楽しみが増えた（畑作業）
- ・俺がやったほうが、格好よく出来るから、貸してみろ（大作業）
- ・来年のお祭りをもっと盛り上げたい（イベント開催）

#### ◆リロケーションダメージの軽減

参加者を対象とした高専の調査によると、初回調査では転倒不安、食欲や体重の減少、うつ傾向があるという回答だった人が、2回目調査では改善がみられた。また、アンケート調査から市営住宅への愛着が増加し、新たな近隣住民とも仲良くなった、なりたいたいの声が聞かれた。



花壇のうちあわせ



大作業



夜の食事会



畑作業

#### ◆連携による効果

大牟田市や市営住宅管理センターと連携する事で、自治会との連携が円滑になり、イベントに参加する人数が多くなり、多様な人が参加することが出来た。また、孤独・孤立状態に陥りやすい入居者の情報をキャッチして対応しやすい状況が作れた。

有明高専との連携では、ヒアリング調査以外でも高専の学生と住民が交流し、一緒に活動できるようにすることで、関係性の構築や、現場の活動を研究内容に反映することができた。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- ①自治会との協働において、活動の目的や内容について自治会と共有することがうまくできず、自治会との意向の間で齟齬が生じた。
- ②参加者の固定化。

#### ◆解決策

- ①市建築住宅課を交えて改めて説明の場をつくとともに、自治会会議でも改めて説明を行うことで活動を継続することができた。
- ②活動紹介のリーフレット作成し、全戸配布することで活動の周知を図る予定。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

これまで全くつながりの無かった住民ともつながることができた一方で、まだ出会っていない人もおり、それらの人とのようにつながるかが課題となった。また、自治会とコミュニケーションをとりながら取組を進めて行くことの重要性を感じた。

#### ◆取組の継続方法

自治会との協議においては、自治会の課題、地域の現在地や将来像、ゴール設定などを協議しながら、なにをすればゆるやかなつながりができ、地域や住民、自治会運営が良くなるのかを十分に話し合っていくことが必要だと考える。そのなかで、まだつながりのない住人と出会い、子どもや子育て世帯にとってもつながりが出来るような取組をしていきたいと考える。

#### ◆他団体への波及可能性

今回の事業を通じて、多様な人が出会う機会づくり、地域への関心を高め思い入れのある環境づくりについては一定達成できたと思う。一方で自治会との協働や、参加者の固定化などの課題も明らかになった。本事業のポイントで記載したとおり、全国にある公営住宅でも同様の課題を抱えていると考えられるため、当団体の取組が、他団体の活動の手がかりになればよいと思う。

また、公営住宅をテーマに研究する有明高専との研究を引き続き行うことで、住宅の建て替えに伴うコミュニティ支援や公営住宅を取り巻く政策的状況やそこから表出する構造的課題について知見を蓄積し、孤独・孤立が発生しにくい公営住宅建設の計画に少しでも良い影響を与えられればと思う。

#### ●団体概要

一般社団法人大牟田未来共創センター  
代表：原口悠/設立：2019年/スタッフ：15名  
所在地：福岡県大牟田市不知火町1-2-1  
主な事業：行政計画の策定支援、市営住宅をめぐる福祉と住宅をつなぐプロジェクト、VRを活用した地域と繋がるプロジェクト、地域包括支援センターの運営 等

#### ●メッセージ

・公営住宅の建て替えがすすむなか、強制的な移転による孤独・孤立化を危惧しています。当団体の取組が、皆様の取組の一助になれば幸いです。

# 孤独・孤立の防止につながる福祉のまちづくり

社会福祉法人 九十九里ホーム（千葉県匝瑳市）

## ●本事業のポイント

- ①地域の高齢者の居場所づくりに取り組む。
- ②進路に悩む若者の就労支援を行う。
- ③関係機関とのネットワークを構築する。

## ●キーワード

高齢者/若者の就労支援/地域貢献/イベント

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

- この地域での高齢者は以前から様々な不安を抱えている。また、進路に悩む若者の孤独感の解消が求められている。
- 不安や悩みの原因は様々で、高齢・病気・障害など福祉的な問題を抱えている場合は、専門的な支援技術が求められる。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

- 孤独・孤独防止活動において内閣府のアンケートにある一人暮らしの高齢者と若者の孤独感の解消に着目し、高齢者の生きがいを感じる交流の場の設置と孤独感を感じる若者に関しては就労支援を実施し、社会参加の機会から孤独・孤立の解消を重視した活動を実施することとした。

### ◆取組の目的

- 地域において孤独感を感じている当事者が社会の一員であることを認識できるプログラムの開発と、社会参加による自己肯定感の獲得を目的とする。特に一人暮らしの方々の居場所づくりと若者の就労支援を中心に取り組み、その活動を通じて地域の行政及び各機関の連携に関するネットワークを構築する。

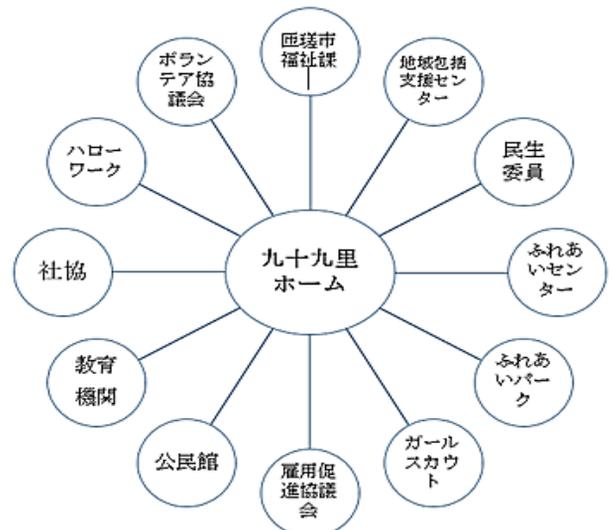


### ②進路に悩む若者の就労支援

- 進路に悩む高校生等の就労支援に関しては、学校との連携により職場見学・体験・セミナーを通じて不安の解消を図り進路選択につながることで孤独感の解消を実施した。

### ◆連携先との関わり

- 従来から関りのある行政及び各機関（下図参照）に対して、まずは地域における孤独・孤独防止対策の目的や取組を周知した。



### ◆連携方法

- 連携先である行政及び各機関とは、各取組を関係機関にチラシ・ポスターの配布、各プログラムの情報案内、ホームページ等を通じて周知を行った。
- 若者の就労支援に関しては、高校・短大・大学等の担当者と情報交換を行い、対象者に適した仕事に就けるよう支援することで孤独の解消を図った。
- また、直接関わるボランティアに対しては、継続につながる取組を計画した。

## 2 取組内容

### ◆具体的な取組の内容及び特徴

#### ①地域の高齢者の居場所づくり

- 飯倉駅前の地域交流センターナザレの里にて地域住民を対象の集いの場として、レーザークラフト教室・生け花教室・おりがみの会・水引教室・クリスマスカードづくり・絵手紙教室を開催し毎回20～30名の皆さんとボランティアとが作品をつくりながらの交流が継続している。また、1月の落語会には約100名の高齢者やボランティアが参加しアンケートを通じて実態を把握することができた。

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- イベント参加者に対して実施した生活における不安や悩みに関するアンケートの結果、下記のような不安の声が見られた。
  - ◆「自分自身の用事ができなくなったらどうするか」
  - ◆「年齢と共に物忘れ症状が出てきて心配です」
  - ◆「近隣にコミュニティがない」
  - ◆「健康について心臓に不安がある」
  - ◆「一人暮らしなので見回っていただくと安心です」
- 上記の不安の解消のため様々な活動を行うことにより、地域住民との交流の場が設けられ、本事業が孤独・孤立の解消の一助となったと考えている。また、各プログラムに協力してもらえらるためのボランティアの人数も増えた。
- 若者の就労支援に関しては、進路に悩む約50名が職場見学や体験・セミナーに参加し、様々な仕事に関する相談を受けた。また、病気・障害・貧困等で悩む若者から相談に応じ、6名を当法人の就労につなげ社会的孤立の解消に寄与することができた。

#### ◆つながりの醸成

- 各イベントへの参加者から、下記の声を聞くことができた。
  - 居場所の利用者から下記の声が聞きとれた。
  - 出会い、ふれあいを感じて楽しみができた。
  - 友達が出来たり、なつかしい人に会えて良かった。
  - 毎回新しいことをやるので楽しみになった。
  - ひとりであることが多かったので参加して良かった。
  - 近所でも話したことがない人と知り合いになった。
  - これからも楽しみにしている。今後も期待している。
  - 毎日退屈しているので助かった。



#### ◆連携による効果

- 各機関を訪問して事業内容を説明したり、地域の様々なイベントでチラシを配布するなどを通じて、孤独・孤立防止の取組を多くの人に周知することができ活動に協力してもらえることができた。また、連携体制を構築するにあたっての課題を抽出することができた。



### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- 一人暮らしの高齢者と若者の孤独感の解消に特化した内容を工夫した。具体的には、地域の高齢者が参加し楽しみを感じてもらうための居場所づくりと進路に悩む学生・生徒の就労支援に関する活動を実施した。
- 取組を進める中で直面した課題は、地域の特性から参加するための交通手段の調整、専門的支援を行う人材の育成、事業を継続していくための財源の確保があるが、圧倒的に多い健康・福祉の不安の解決するために、まずは法人の各事業に関するパンフレットを作成し地域住民に配布することで不安の解消につなげる。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 地域の高齢の居場所づくりに関する取組では、活動の場に来ることができない人も多いことが分かったため、今後は訪問等のアウトリーチによる支援が必要だと考えている。
- 進路に悩む若者の就労支援では、学生・若者の相談者には就職活動の不安や過去の失敗から消極的になっているケースが多いことがわかった。それらの対応としては、まずはカウンセリング手法を用いて受容し徐々に意欲の向上を図る必要がある。また、コロナの影響もあつて職場体験などができずに情報不足から不安につながっている場合は、職場体験やボランティア活動を通じて仕事に関する理解を深め自身に適した職場の就職を目指していくことを支援し孤立の解消につなげるのが重要である。

#### ◆取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法が不明であり検討中。

#### ◆他団体への波及可能性

- この事業を通じて、他団体においても孤独・孤立防止対策を実施することが求められることが分かったため、行政及び当法人から発信していきたい。
- 今回の取組を通して、当事業の重要性を理解することができた。今後も本取組実施の際には、内容の充実と他団体との連携の強化を目指して活動していく。

#### ●団体概要

社会福祉法人 九十九里ホーム  
代表：井上峰夫/設立 1935年/職員数950名  
所在地：千葉県匝瑳市飯倉21番地  
主な事業：医療・福祉・介護及び子育て支援を行う総合的福祉施設の運営、地域住民の交流の場としての地域交流センター「ナザレの里」を中心とした匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業

#### ●メッセージ

- 孤独・孤立事業を実施するには、まずは地域の現状を把握するための情報収集が欠かせない。また、各機関や団体との連携のために当事業の理解と周知を図ることができる効果的な活動を工夫する必要があると考えられる。

# さかいからせかいへ国際フェスティバル

## 坂井市国際交流協会（福井県坂井市）

### ●本事業のポイント

- ①在住外国人が地域社会に受け入れられていると実感出来る機会の提供
- ②地域住民が外国人が身近に生活していることを実感する機会の提供
- ③芸能、伝統文化、食文化を通じて多文化共生を体験する機会の提供

### ●キーワード

外国人/イベント

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

坂井市には技能実習生を中心に約30ヶ国、約1800名強(人口比約2%)の外国人が生活している。仕事柄、外出の機会が限られ、地域住民もその存在に触れる機会が少なく一種の孤立状態にあるとも言える。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

ある技能実習生が「JRに乗ったら誰も隣りに座ってこない、寂しかった」というのを聞いて胸を痛めた。在住外国人が主役となるようなイベント開催し、地域住民と交流する機会を作り、毎年恒例事業に育てていきたいと考えたのが始まりである。

### ◆取組の目的

在住外国人が地域社会に受け入れられていると実感して、母国を誇りに思いながら孤独・孤立を感じることなく喜怒哀楽を素直に表せて生き生きと日本で暮らすことができるようになること第一に期待している。ひいては母国に帰った際にはそのことを家族、知り合いに伝えてもらうことにより、日本の国際的なイメージが向上し、大きいえば国益にも資すると考える。

また、防災面でも効果を期待している。つまり、日本は自然災害の多い国であり、近年は南越前町は大規模な水害に見舞われた。災害時、苦しむのは弱者であり、言葉、習慣の違いから在住外国人は弱者になりうる現実がある。本事業により地域との繋がりを深め、在住外国人を孤立から救う一助にしたい。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●「さかい国際フェスティバル」開催

- ・在住外国人、地域住民併せて300名強の参加があった。主なプログラムは以下の通り。
  - ◆各国および日本の音楽、舞踊のステージパフォーマンス
  - ◆世界のキッチンでの料理の提供
  - ◆各国紹介ブースの設置
  - ◆防災情報コーナーで防災意識の啓発
  - ◆日本の伝統文化の茶道体験

### ◆連携先との関わり

- ・協力頂いた団体は以下の通りであるが、社会貢献とともに幅広い文化紹介を兼ねて、厚みのある地域の魅力の共有を目指した。連携にあたっては、会員の個人的あるいは仕事上の関係を通じてのルートでアプローチして、個別に協力を仰いだ。
  - ①技能実習監理団体 エスパス協同組合：技能実習生への案内
  - ②坂井市総務部 危機管理対策課：防災コーナー設置の助言・協力
  - ③男性調理ボランティアグループ「春江鉄人クラブ」：手打ちおろし蕎麦提供
  - ④春江茶道連盟：茶道実演指導
  - ⑤越前市剣道連盟：居合演武実演
  - ⑥民族音楽屋ココペリ：アンデス音楽グループの紹介
  - ⑦坂井市日中友好協会：中国舞踊の演者紹介



技能実習生の日本語学習風景



防災コーナーの様子

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- 短期的に目に見える形での効果は残念ながら確認できていないが、自分の住んでいる坂井市に当協会が活動しているということを広く示せたことが第一歩と考える。来期以降継続もして実施していくことが肝要である。

#### ◆つながりの醸成

- 参加者アンケートでは、回答67名中11名が「新しい友だちができた」との回答があった。
- 8名からは隣合せの人と気軽に話せました、との回答があり主旨はご理解頂いたと考える。

#### ◆連携による効果

- 市総務部と連携したことにより、防災士を紹介頂いたり、技能実習生監理団体と直接連絡が取りあえる関係になるなど、これまで団体単独ではできなかったことが連携することでできるようになった。
- 連携体制を構築したことにより、冬場の雨天に拘わらず計画の300名（運営側含む）を越す集客を実現するという効果があった。



イベント当日の様子

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

進めていくうえで課題となったのは在住外国人へのアプローチの仕方である。集客目標300名中、外国人100名を設定していたが、当日になるまでどれだけの外国人が来場してもらえるか予想がつかず気を揉んだ。

#### ◆解決策

上記内容を解決するために、まずは確実なところとしてた団体会員が雇用している会社の管理職が外国人従業員を車で送迎、10数名纏まって来場してくれた。また、会員の知合いの外国人を通じて、主に中国人関係の来場があった。それらの効果により50名強の外国人の来場があった。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 今年度の取組では、外国人対象の防災訓練への参加の促進を考えている。次年度は子育てに伴う悩み事への対応に取り組む必要がある。

#### ◆取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法は、会員からの年会費及び不足分は各種助成制度の活用を考えている。2024年度は地元の企業の基金から40万円の助成が決定している。
- 支援対象者とながりつづけるために、技能実習生を雇用している企業に対して当協会のイベント参加への案内を行い、理解と協力を得る活動を地道に継続する。

#### ◆他団体への波及可能性

- 坂井市の当協会は県内では後発になるので、この成果を通じて、県内の他団体の活動を参考にしながら活動内容を早期にキャッチアップしていきたいと考える。

#### ●団体概要

坂井市国際交流協会

代表：平田 貴一郎

設立：2021年/スタッフ10名

所在地：福井県坂井市春江町随応寺17-10

坂井市役所春江支所3階

主な事業：国際交流活動、在住外国人支援 等

#### ●メッセージ

- 今回の取組を通して、アンケート結果にもあるように外国人は地域住民との交流を望んでいることがわかった。この取組を恒例行事化できるよう体制を充実させたい。

# 相談支援



# 親を頼れない子ども・若者のためのオンライン相談窓口のシステム強化

認定NPO法人 トナリビト（熊本県熊本市）

## ●本事業のポイント

- ①若者の声を生かしたアクセスし易いホームページへのリニューアル
- ②スマホ世代の若者がSOSを出しやすい相談窓口
- ③SNS相談を入り口とし、直接支援や他団体への移行など継続支援

## ●キーワード

子ども・若者/相談  
/Webデザイン

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

虐待、DV、ネグレクトや社会的養護で育った等、親を頼れない事情を抱えた若者のための公的支援は少なく、地方都市においては民間の支援団体が無い自治体も多い。住居や仕事を失った若者たちは孤立化しやすく、ホームレス化、自傷、望まぬ犯罪・風俗業の強制などに陥りやすい現状がある。近年、公的機関に10代～20代が繋がらない課題がある中で（熊本県データ）、親・家庭から支援を得られない若者たちのニーズは非常に高まっており、狭間で困窮するケースへの対応が喫緊の課題となっている。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

当法人は2020年にHPを作成し、相談窓口を開設。県内では先駆けてSNSでの相談対応を行い、継続的な支援を実践してきたが、当初のHPデザインはサポーター（大人）向けの印象が濃かった。そこで、今回、スマホ世代の若者がよりアクセスし易く、必要な情報をスピーディーに得てSOSを出しやすいHPにリニューアルすることとなった。

### ◆取組の目的

10代～20代の親を頼れない若者を対象に、孤立感、孤独感を軽減し、信頼できる大人とつながりながら、社会的・経済的に自立できるよう支援することを目的とする。具体的にめざす姿は、SNS世代と言える若者たちの小さなSOSの声を拾い、つながりを保つ入り口を強化し、若者や関係機関に周知することである。また、入り口となった後、直接支援につながらなくても、ホームページのQ&Aから情報を得て、自分の力と判断で即座に動ける若者の背中を押せる助けになることである。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

- ①SNS相談対応の専任スタッフを雇用
- ②若者がよりアクセスしやすいホームページのリニューアル
- ③相談への迅速な返信および対応
- ④過去の相談対応事例の分類と整理
- ⑤事例をもとにしたQ&Aの作成
- ⑥LINEの自動返信（AIチャット）の質問スキーム構築
- ⑦整理された事例をもとに、スタッフの相談スキルの均一化と質の向上
- ⑧上記④⑤⑥で得られた結果を可視化し、他の相談機関に研修等を通し、積極的に発信
- ⑨SNS相談窓口の効果的な広報

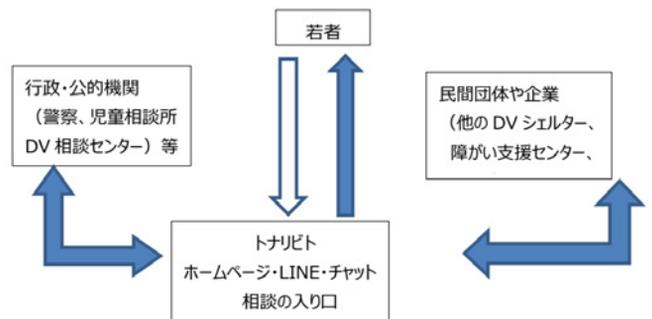


リニューアル後のホームページとLINE

### ◆連携先との関わり

これまでトナリビトで支援したケースには、若者からの直接相談の他、行政や児童相談所からシェルター利用や居場所スペースの利用について相談があり、入所となったケースもあった。

直接相談から保護した若者が未成年だったケースでは、本人との対話を重ね承諾を得て児童相談所につないぎ、協力を得た。若者の特性や「こうなりたい」を尊重すると、住居の選択も変わってくる。他の団体の資源も視野に入れ、若者の自己決定を支援した。共同生活が苦手な若者には、不動産会社に相談し、居場所スペースに近い場所での家電付き賃貸ワンルームを確保するなど、協力が得られた。



関係機関との連携図

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

サイト公開の効果：旧サイト（公開前3か月）と新サイト（公開後約3か月）を比較した結果は以下の通りであった。

- ① 熊本県内からのアクセス増加（位置不明を除く）：  
サイト閲覧数 旧981→**新1107**  
サイト実訪問者数 旧278→**新329**
- ② サイト実訪問者数の増加（全地域・不明含む）：  
旧1,118名（うち新規989名）  
**新1,271名（うち新規1,139名）**
- ③ 直接的なアクセスの増加：アドレスの直接入力やQRコードからの直接訪問が**20%アップ**した
- ④ SNS経由のアクセス増加：公開後SNSでの広報を行ったところ、Instagram・FB・X等からのアクセスが**23%アップ**した
- ⑤ QA集へのアクセス数：公開後、新設した「親を頼れない若者のためのQ&A」を**427名**が閲覧していた



新サイト公開前後のサイト閲覧数・実訪問数の変化

#### ◆連携による効果

##### 実際に支援に繋がった事例紹介

・軽度障がいをもちながら、実家でDVをうけていたAさんは、暴力や規制の強い生活の中どこにも相談できず、長年耐えてきた背景があった。新サイト公開後の2023年12月にネット検索で当法人のサイトを見つけ、相談LINEからSOSの声を伝えてくれた。この相談が入り口となり、対面での相談に繋がり、居場所スペースに通いながら本人の困りごとや希望を聞いていった。最終的には当法人でシェルターに緊急保護となり、本人の希望に添った連携先の民間団体（DVシェルター＆障害グループホーム）に相談し、中長期支援へ繋いだ。→ネットからSNS相談につながり、居場所、緊急短期シェルターを経て、他団体で中長期的な生活支援を受けることになり、新生活をスタートさせた。当法人との関係が若者をエンパワーメントし、自己決定につながったと考える。連携した他団体と話し合いながら、支援の役割分担もでき、実現できた。

##### 相談に繋がりやすい連携体制

想定していなかった効果としては、新サイトになったことで、トナリビトにケースの相談を出したい大人にも使いやすくなったという点。相談を受けている若者に見せやすいサイトになったことや、相談LINEを紹介しやすくなった、という声を頂いた。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

・サイトデザインの工夫：若者がアクセスしやすい、SOSを出しやすいことが第一優先なので、大人側の「伝えたい」に偏らないよう、**当事者である若者たちに実際のデザイン案を見せ意見をもらい取り入れた**。サイト制作会社は福祉は専門外で、望む形にたどり着くまでに時間と細かい調整を要したが、**デザインと福祉の連携を研究している専門家にコンサルを依頼し、制作中のサイトを一緒に見ながら助言をもらった**ことで、制作会社への伝え方・アプローチやデザインの構成を改善できた。

・SNS相談のスキル向上：対面での相談とは異なる「SNS上での相談スキル」について、研修参加だけでなくスタッフ間でのケーススタディを行い質の向上に努めた。

・普及啓発：新サイト運用開始に際し、SNSでの周知、パンフレットや連絡先カードの作成、および若者支援のネットワークをはじめ関係機関への周知・PRを行った。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

・普及啓発：関係各所への周知を進め、アクセス数などのデータを継続的に確認し、新サイトの評価を行う。

・利用者からのフィードバックとデザインの改善：見やすさや必要な情報が得られるかどうか、スピード感はどうか、相談の対応はどうか等について利用者からフィードバックを集めていきたい。アンケートなどの方法も検討する。

・資金集め：事業の充実拡大のビジョンがあり（若者の夜の居場所、妊婦シェルター等）資金調達が課題。

#### ◆取組の継続方法

・2023年年末より企業サポーターの獲得に動いている。今年度認定NPO法人に昇格したこともあり、寄付控除をアピールし、企業サポーターの獲得に尽力する。

・SNSを通じて発信を強化し、フォローアップを充実。

#### ◆他団体への波及可能性

・官民共通の課題として、ジェネレーションギャップがゆえに問題を抱えた若者たちとコミュニケーションがとれないことがある。当法人の若年層に特化した広報やSNSの活用方法、LINE相談等のスキルは行政・民間ともに役立てると実感している。実際に、2024年度には相談員の研修依頼等をすでに受けており、当法人が蓄積したノウハウを伝えるきっかけができた。

#### ●団体概要

NPO法人トナリビト

代表：山下祈恵/設立：2018年/スタッフ：7名

所在地：熊本市西区上熊本2丁目15-16

主な事業：子どもの権利擁護、自立支援、就労支援、学習支援、普及啓発、支援者育成事業

#### ●メッセージ

・**困難な状況におかれた若者たちがサイトに求めるものとして、「すぐに情報が入手できるスピーディーさ」や、「しんどい気持ちに寄り添ってくれるデザイン」、「顔の見える相談先」などの具体的なニーズが多数あがった。若者たちが相談しやすいサイトや相談窓口の構築に、是非一緒に取り組んで頂きたい。**

# かかりつけナースと家事教育によるかくれシングルマザー孤立予防

一般財団法人 ウェルネスサポートLab (福岡県福岡市)

## ●本事業のポイント

- ①かくれシングルマザーのコンタクト
- ②積極的なアウトリーチ
- ③身体・精神・社会健康度の向上

## ●キーワード

母親/相談/家事サポート/家族支援

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

福岡市の平均世帯年収は約500万円であり、この層で共働き・二子以上の家庭では、パートナーの支援がなく制度や自費サービスも利用できない「かくれシングルマザー」があり、家庭や社会に助けを求めにくい状況にある。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

福岡市の働く女性500名を対象に行った令和3年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」採択事業で実施したアンケート内で9割以上の女性が身心不調症状を重複して抱えていること、7割の女性が健康的に働くためにパートナー・配偶者に家事育児のサポートを必要としていることが明らかとなった。特に上記の層の女性たちは、まず「自身が不調や不安を感じた際に、家族を含む周りの人に助けを求めても良い」と思っておらず、周りの人も助けが必要だと認識していないことが重なり合い、知らず知らずのうちに身心不調症状同様、常態化し、改善行動がしがたい状況へと進行することが予測され、自他共に認知されないまま孤独孤立を深めている。

### ◆取組の目的

福岡市在住の2子（所得500万以下）、または3子（所得不問）の核家族の女性を対象に、かかりつけナースによるLINEを使ったサポートとボランティアによる家事サポートを行い、家庭内家事人材の育成をすることで、母親の孤独孤立・疾病・貧困の予防を図る。具体的にめざす姿は、母親が「身心不調やその他悩みを家族含む他人に話すことが容易になることで社会健康度が向上し、改善行動が見られること。



家事サポートでの一枚

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●かかりつけナースチャットサポート（無料）

かかりつけナースによるLINEチャット相談にて意思決定・伝達支援を重ねることで信頼関係を構築し、友人のようなつながりをつくり、早期に孤立を防止する。また地域内の各種団体と連携し、身心の不調不安の軽減を行う。ナースの他、内包する専門アドバイザー4名（助産師、管理栄養士、健康運動指導士、社会福祉士）、地域の関連ステークホルダーと連携しながら実施。

#### ●有償ボランティアを活用した家事サポート兼家庭内家事人材の育成（上記モニター内の希望者、税抜7,500円）

家事人材を再教育し、利用者宅で家事サポートを行いながら同居家族（小学生以上の児童、父親）に家事教育（90分×10コマ：掃除②、片付け①、料理④、補講③）を行う。そのことで家庭内だけではなく同生活圏内に頼れる存在を創出し、孤独孤立を予防した。

#### ●リーフレット作成などの啓発活動

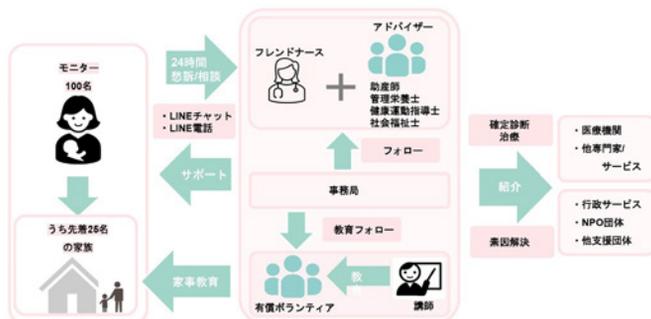
チャット相談やアンケート回答をもとに専門家と共にデータ分析を行い、「かくれシングルマザーの現状（身心の健康度、その要因、ニーズ等）と課題」をとりまとめ、ハンドブックを作成し、配布公表を通して社会に認知と理解を深めることで孤立孤独の予防に取り組んだ。また、キャッチーな文言を使うことでメディアに取り上げてもらうことにも挑戦した。

#### ◆連携先との関わり

・内部連携（他アドバイザー）においては、症状改善や社会的要因の解決にあたりナース以外の他アドバイザーが知見があると判断した際に、個人が特定されない情報のみ共有し、アドバイスをナースが受け取り、モニターに伝えるフローで行う。そのことによりモニターとナースの信頼関係を深めていくことができる。

・日常生活習慣の改善が困難、または社会的要因の解決のために地域の社会資源や行政サービスのサポートが必要だと判断した際には、モニターとナース間で相談するか否かの意思決定と内容の確認を行い、適切な機関を紹介し、相談後もチャット内でフォローを行う。

・必要な際は、紹介先機関へ事前にヒヤリングを行うこともあるが、その際は個人が特定されない情報の共有を行う。



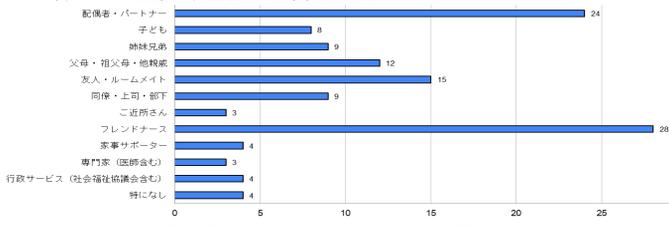
### 3 取組の成果

登録者数72人中59人（内48人がくれシングルマザー）の母親とコミュニケーションを図り孤独孤立予防を行いました！

#### ◆日常生活環境における予防効果（回答者55人、回答数123）

※内46人がくれシングルマザー

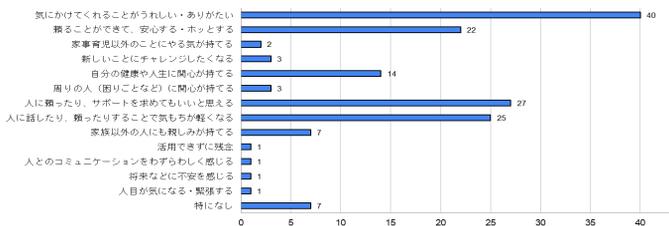
・約9割の母親が「身心不調や悩みを話す（話したい）人が一人当たり2.3人増えた！



【母親が悩みを話す相手の増加】

#### ◆つながりの醸成（回答者55人、回答数154）

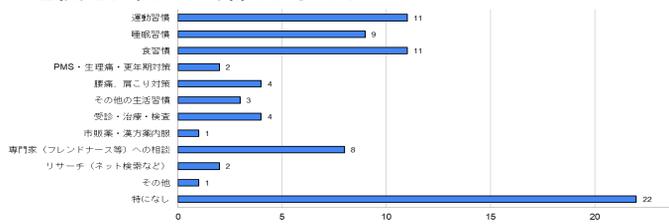
・約9割の母親が一人当たり3個の感情の変化（ポジティブ93%、ネガティブ2%）がありました！



【母親の感情の変化】

#### ◆行動変容（回答者55人、回答数78）

・約6割の母親が「健康や健やかな暮らし」の取組み約1個にチャレンジ始めました！



【母親の健康への取組】

#### ◆連携による効果

- ・経済的不安による身心不調の母親を「福岡市自立支援センター」へ紹介したところ、夫婦で面談に行き、家庭内で課題の共有ができたことで安心された。
- ・内部アドバイザーによる「腰痛・肩こり・口内炎の防止」に対する具体的な運動や調理法提案により症状改善と信頼関係構築ができた。
- ・長期間の不定愁訴に対し適切な医療機関受診の推進をしたところ、確定診断ができ治療が可能となり、喜ばれた。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

・進めていくうえで課題となったのは「①モニター募集」と「②モニターへの働きかけ」と「③サポーターとのマッチング」である。

### ◆解決策

#### ①本事業内で実施する解決策

モニター条件が詳細であったため期待していた企業協力を得ることができなかつたため、「アンバサダー」方式でご本人ではなく「周りの該当者の可能性がある方」に代わりに情報を届けてくれるように発信をしたり、対象者と接点を持ちうる団体やコミュニティへの継続的な協力要請を積極的に行い、目標の8割を達成した。

②インリーチが少なかつたため、積極的にアウトリーチを試みた。その中でもラポール形成と、「相談」を「気になること・モヤモヤすること」に言い換えることによって相談へのハードルを低くすることを行った。最終的にはヒヤリングという名目でline電話でのコミュニケーションを実施し、アクティブユーザー77%（59人）を達成した。

③人生100年時代が到来することもあり、多忙なサポーターと家庭の日程調整が困難な事象が見られたため、終了期間を延長することで対応した。

### 5 今後の展開

#### ◆取組の継続方法

##### チャットサポートサービス ※関東圏・他地域展開予定

2024年3月末までは現状のまま利用可能とし、4月1日以降は希望者のみ既存サービス（一般会員：月額税込1,650円、企業：福利厚生サポート※費用はサポート内容によって異なる）へ移行予定。支援対象者の場合自費サービス利用が困難な状況と推測されるため、代わりに企業が費用負担をする福利厚生プランの促進を図ると同時に自治体などと課題感が共有できた際は自治体モデルとして構築も検討。その他、ナースが常駐する福岡市内コミュニティスペースにて対面相談を受付可能場所として案内する。

##### 家事の家庭教師 ※関東圏・他地域展開予定

90分×10回講座をリニューアル後、2024年4月より一般価格：税込33,000円（弊団体基準の該当世帯は寄付制度補填予定）の他、企業内育児休暇中の福利厚生として福岡市内を中心に提供予定です。

#### ◆他団体への波及可能性

・この成果を通じて、他団体においても積極的なアウトリーチ型のアプローチと企業や関連団体との連携や協働が重要だと感じる。そのためにも活動内容や方向性などを定期的かつ継続的に発信していくことが不可欠である。個人の身心不調は様々な社会的要因が起因していることが多く、包括的かつ継続的なサポートが必要である。

#### ●団体概要

一般財団法人ウェルネスサポートLab  
代表：笠淑美/設立：2019年/スタッフ：40名（職員5名、契約15名、ボランティア20名）  
所在地：福岡県福岡市中央区渡辺通2-9-20  
主な事業：かかりつけチャットサポート、自費の看護ケア、コミュニティ活動（看護師育成等）

#### ●メッセージ

・今回の取組を通して、同一対象者に対して、情報交換や情報共有を通してスムーズな相互間での支援が必要である。その際に各機関の役割を明確にすることが不可欠である。

# 地域連携で実現する、孤独を抱えた母子のための居場所づくり事業

認定NPO法人 LiveQuality HUB (愛知県名古屋市)

## ●本事業のポイント

- ①母子、実質ひとり親の早期発見、地域資源への接続は社会課題
- ②座談会兼相談会の開催により、ハイリスク母子の発掘と支援へのつながりを行う
- ③行政経由の案内だけでなく、SNS広告なども実施し、幅広い層へリーチ

## ●キーワード

シングルマザー/離婚  
や別居を検討中の母  
親/相談

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

この地域のシングルマザーは、離婚や別居を検討している段階から、多くの課題に直面している。孤独という重い心の負担に加え、生活の安定や子育ての問題、時には家庭内暴力の問題も抱えている。これらの要因は、女性とその子どもたちをハイリスク層へと追いやる危険性を高めている。地域内のサポート体系が不足していることも、彼女たちが直面する課題の深刻化に拍車をかけている。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

当団体は、離婚や別居を検討中のシングルマザーが直面する孤立感と、適切な相談先の不足に着目した。これらの女性たちは、家庭内の問題や経済的不安、子育ての悩みを抱えながらも、信頼できる支援や居場所がないために、必要な助けを得られていない。このような背景から、私たちは彼女たちに安心して話せる環境と実用的な支援を提供するためのプログラムを開始することとした。

### ◆取組の目的

本取組の目的は、離婚や別居を検討しているシングルマザーを支援し、彼女たちとその子どもたちの生活を安定させることである。

具体的には、母子が孤独を感じずに安心して暮らせる「第三の居場所」の提供、信頼できる専門家による個別の相談機会の提供、そして地域社会との連携強化を通じて、これらの母子がハイリスク層に転落することを予防することを目指した。

## 2 取組内容

### ◆具体的な取組の内容及び特徴

#### (1) 専門家による相談支援

- 法的、心理的な問題に対する個別相談を提供し、母子の生活安定をサポート。

#### (2) 母子交流会の開催

- 同じ悩みを持つ母子が情報と経験を共有し、孤立感を軽減するための交流の場を提供。

#### (3) 地域資源の活用

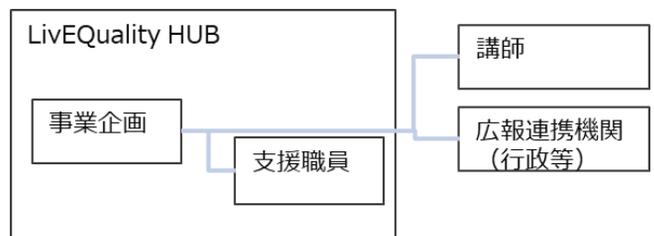
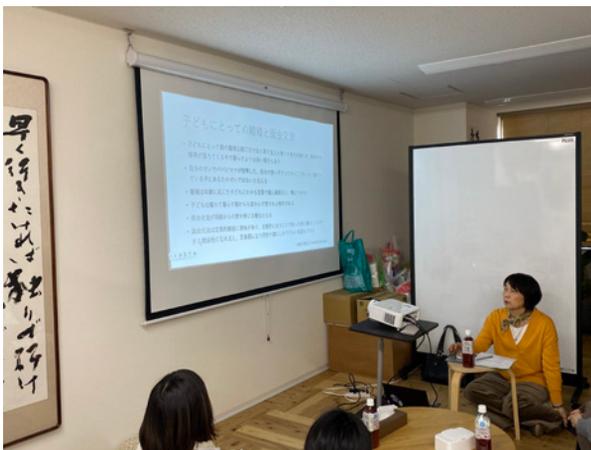
- 住宅、就労、子育て支援など、地域のサポートを活用して、母子の生活安定を促進。

### ◆連携先との関わり

連携先である地域の専門家や公共施設とは、特に「離婚調停」「親子の精神ケア」「面会交流」の問題に関する相談支援を強化するために緊密に協力しています。これにより、シングルマザーの多様なニーズに対応し、彼女たちとその子どもたちが直面する問題の解決を支援します。

また、直接関わる全22区役所・支所の婦人相談員、名古屋市子ども・子育て支援センター、名古屋市社協に対しては、情報提供を行い、相談会兼交流会の宣伝と参加促進を図った。

個人情報の取り扱い等、連携先との情報のやりとりについては、厳格なプライバシー保護の下で行った。これにより、参加者の安心と信頼を保ちながら、効果的な支援を提供した。



### 3 取組の成果

#### ◆参加者数

本取組期間中に4回の相談会件座談会を開催した。

#### ①「何か独りで疲れている」に向き合う！プチカウンセリング体験会

・講師：保健師/看護師/大学教授

・参加者数：3名

#### ②離婚や別居のはじめの一步を知る！

・講師：離婚弁護士

・参加者数：6名

#### ③面会交流のぶつちやけ不安/愚痴/疑問シェア会

・講師：面会交流支援団体

・参加者数：4名

#### ④お母さんの心と身体を大切にしたいとき（医師）

・講師：医師

・参加者数：3名



#### ◆つながりの醸成

・参加者からは、「貴重な機会に参加できたことへ感謝しています。悩みを抱えているのは自分だけではないこと、専門家のお話で色々なケースがあることを知れたことが良かった」など講師より専門的なアドバイスを受けることに価値を感じるだけでなく、他の同様の経験をした母親と現在経験をしている母親との間で、情報交換をすることに価値を感じてもらうことができた。

・自分の他者に安心してシェアすることで、内省に繋がるとともに、他者の話を聞くことで、今後の見通しを考える情報を得られた参加者が多くみられた。

#### ◆地域資源情報の展開

・イベント参加後、当団体の中心事業である、住まいの相談に来た母子が2組いた。

・また、住まいの相談ではないが、生活に関する相談を当団体に対して依頼した母子が1組いた。

上記から、本座談会を通じて、他者へ相談に進むという次のアクションに一定割合つなげることができたといえる。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

・進めていくうえで課題となったのはアウトリーチである。今回行政機関や子育て施設への資料配架、SNS広告を行ったが、それらを経由しての申し込みは33%だった。

#### ◆解決策

・結果としてSNS広告による顧客獲得単価で考えると、2,000円程度となっており、決して高い数字ではなかった。今後同様の会を開催する際には広告予算の増額を検討する。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

・今後さらに幅広い母子の参加を促すためには「開催の頻度を上げる」「開催の時間帯の幅を増やす（週末・夜）」「開催の形式の幅を増やす（オンライン）」ことが考えられる。しかしそれぞれのアクションで心理的安全性を確保し相談できる環境づくりの手法が異なるため、検討が必要である

#### ◆取組の継続方法

・本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法は課題が残る。一定のニーズは感じられるも、参加費型など参加者徴収型ができないため、助成金や寄付金を組み合わせて行う必要がある。また、職員の運営負荷も高いため、慎重に検討する必要がある。

#### ◆他団体への波及可能性

・専門家による少人数の座談会は一定のニーズがあり、また、専門家とニーズの特長をすり合わせる副次的効果もある。このようなノウハウは他の地域でも再現可能と考える。

#### ●団体概要

認定NPO法人LivEQuality HUB

代表：岡本 拓也/設立 2022年/職員数 8名

所在地：愛知県名古屋市東区東桜2-4-9 ナゴヤビル 203号室

主な事業：DV避難や離婚、失業等の様々な理由で住まいを失い、新たな住まいの確保が難しい母子の相談への住まいのコーディネート等

#### ●メッセージ

・この成果を通じて、専門家との座談会を開催することは相談のハードルを下げるという点で一定の有用性を確認することができた。また、かなり話しづらいつトピックであっても、場づくりにより、安心感を保ちながら密な相談をすることができ、その後の支援につなげることができる。今後他の地域で多様な会が開催されることを望む。

# ママの孤立・孤独防止専用LINE「モヤツイ (モヤモヤtweet)」事業

一般社団法人 ママの孤立防止支援協会 (東京都足立区)

## ● 本事業のポイント

- ①子育てママが不安や迷いを遠慮なく吐き出せる場
- ②子育てによる心身の崩壊、虐待、ネグレクトの早期発見と回避
- ③地域における「ママの孤立・孤独予防」への関心を高める

## ● キーワード

母親/相談/チャット

## 1 取組の背景と目的

### ◆ 対象者が抱える課題

母親としての弱音、不安などが吐き出しにくい。「母親失格と思われるんじゃないか？」と考え、助けを求めることに抵抗があり、一人で抱え込み、鬱や心を壊してしまうケースもある。

### ◆ 取組を始めるに至った経緯等

産後の子育てママの孤立感を調査したところ、頼る相手や困った時に話せる相手が「いる」と答える方がほとんどである一方、約85%の方が「孤立感を感じたことがある」と回答した。この結果の背景には、日本社会における「母親なんだから頑張りなさい」「みんなやってきたから」「母親なんだから弱音を吐いちゃいけない」「こんなことを思ってしまうのは母親失格」という暗黙の風潮が根強く残っていることあり、結局母親は自分の気持ちを封印し、心を病んだり、虐待やネグレクトにつながるのではないかと。そのため、誰にも言えない、言いづらい気持ちのモヤモヤを気軽に、好きなタイミングで吐き出す場が必要と考えた。

### ◆ 取組の目的

- ①気持ちのモヤモヤを吐き出す場として、傾聴・共感を軸に研修をした地域の方が対応する「モヤモヤTweet (モヤツイ)」LINEを開設し、日常生活における母親の孤立感の解消に努める。
- ②自分の気持ちを吐き出し、誰かに寄り添ってもらうことで、人が自分の力でまた前向きになる手伝いをする。時と場合により専門機関の介入が必要であれば繋げる。この仕組みが地域に定着すれば、緊急対応案件(児童虐待やネグレクトなどの様々な社会問題)の早期発見、未然予防の大きな一助となると考える。
- ③このLINEの周知は、地域の人や団体の力を借りるため、周囲からの「ママの孤立予防」への関心を高めることにもつながる。

## 2 取組内容

### ◆ 具体的取組内容と特徴

- 公式アカウントで「モヤツイLINE」開設  
事前に・LINE利用規約を作成、LINE対応者を管理者設定をする(操作方法やLINEの仕組みを個別に対応)
- 「モヤツイLINE」対応者養成 — 講座実施
- LINE周知のための告知・PRの実施  
・啓蒙カード制作  
・PR協力(SNS、行政関連部署のカード設置、配布協力スタッフ募集・協力、広報紙に掲載)
- 実際のLINE対応開始



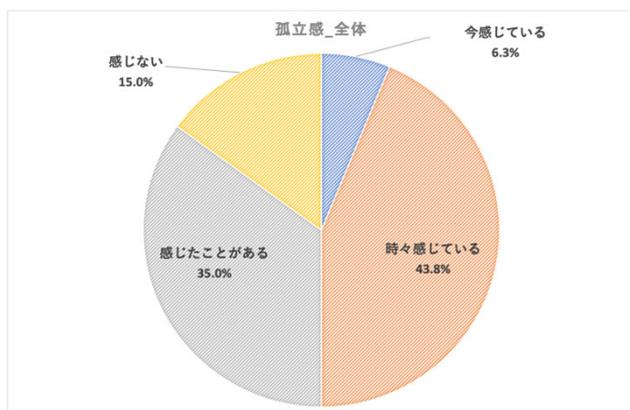
### 孤独を感じたことがある母親の割合

### ◆ 連携先との関わり

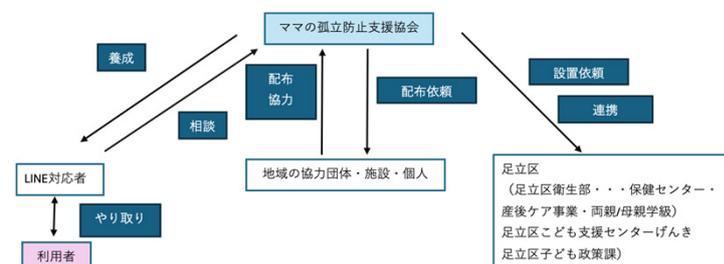
- ・連携先である地域の団体とは、NPO活動で長年関係を作ってきたところやコンタクトをいただき、思いが共通のところをピックアップし、啓蒙活動にご協力いただく
- ・日頃からママの支援の中でつながりのある行政機関で想定されるケースの支援専門機関をピックアップ。
- ・個人情報取り扱い等、連携先との情報のやりとりについては、当団体が定める個人情報取扱いの規約に則り慎重に行う(例えば、ネット回線を使わず電話で伝える等)。

### ◆ 連携方法

- ・当該事業の趣旨などをきちんと理解してもらえるように説明の機会を設け、啓蒙カード設置の協力を依頼。
- ・産後うつ等の疑いなど、LINEのやり取りの中で心配なケースは関係機関に繋げる



孤独を感じたことがある母親の割合



関係機関との連携図

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- ・LINEにて普段のモヤモヤや誰にも言えない不安な気持ちを吐き出すことで心が確実に軽くなり、自分で解決方法を見出し、子育てや生活に前向きになるため、深刻なケースになる予防となる。
- ・地域に「ママの孤独・孤立防止」を周知することにより、関心や目が向き、理解促進につながる。周囲のママが同じ状況の際に気持ちを受け止め、寄り添える人が増える。  
〈事例〉

◎1歳の息子が自我が芽生え、要求が増え通らないと大泣き。夫は出張が多く実家も遠いのでワンオペ。自分に余裕がなくイライラして感情で怒ってしまい自己嫌悪。  
→ママの大変さ、一人に対応する頑張りに寄り添った言葉を伝える。その上で対応策を提案すると、「その手がありましたね。あとは通じなくても言い聞かせていくしかないですね。」とママ自身で解決の方向性を見出し、御礼を言って終わる

#### ◆つながりの醸成

- ・利用に爆発的につながるわけではないが、つながった方は確実に心を軽くできる。

また、何かあればここで呟こう！と安心基地になる。(リピート利用者も発生)

- ・個人ではつながりにくかった行政専門機関・部署ともこの事業を通してつながり、適切な支援を受けられた実績あり。

#### ◆連携による効果

- ・利用者事例で産後うつが心配されたため、本人に確認して地域保健師に繋がった。

※本人も自分からは連絡しづらいようで、当団体から先ず連絡するようにした

→このようなケースでは、当団体から連絡すると言うと合意される場合が多い。行政につながることに抵抗があるようである。

- ・地域の母子寮に啓蒙カードを配布したところ利用に至った。誰にも言ってなかった心のモヤモヤを呟いてくれた。
- ・行政の資源サービスにつながった。この事業が介在することによって「こんなこと相談してもどうにもならない」という誤解が払拭できたようである。
- ・地域のLINE対応者は、日を追うごとに対応が上手になっていくため、頼もしく大きな存在となった。このような存在が地域に誕生したことに意味がある。



啓蒙カード

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- ・周知をしても爆発的な利用に繋がらない
- ・すぐにLINEで呟こうという行動への一歩、きっかけづくりにかかる
- ・差し迫った事態ではないため、「こんな気持ち母親として吐き出して良いものか？」という自制心が勝ってしまう利用者が多い。
- ・利用対象のママたちにヒアリングしたところ、夜や夜中、眠れない時に気持ちがいっぱいになって呟きたい、という意見が多かったが、対応時間外である。

#### ◆解決策

- ・地道に周知し、些細なことでも自分の気持ちを遠慮なく吐き出しよ、という風潮を広めていく。
- ・つぶやきやすくするために、当団体からLINEを通じた地域情報の発信等を行って利用者との距離を縮める。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- ・今年度の取組では、LINEで呟くことで気持ちがスッキリしたり、誰にも言えないことを吐き出すことで確実に前を向ける成果が証明された。心配なケースはうまく専門機関に繋げることもできた。ただ、命に関わるなど緊急性が高くないため、対応者を有償にするほどの数に至るには、まだまだ種まきや周知が必要であるため地道に周知していく必要がある。別の手段として対象者を集めてのイベントを開催し、ダイレクトにアピールすることもトライしたい。

#### ◆取組の継続方法

- ・本取組を来年度以降も継続するための資金調達は、まだまだ助成金に頼ることが必要になってくるが一方でこの事業に賛同して下さるスポンサーも探していきたい。
- ・支援対象者とつながりつづけるために、相談終了で音信不通にならないように時々必要な情報もお届けしたり、「こんなことでつぶやいていいんだ」という例を配信する。

#### ◆他団体への波及可能性

- ・この成果を通じて、他団体においても気軽に自分の気持ち、誰かに言えない思い/気持ちを吐き出せる場は必要。こういったLINEが増えていけば、自分で吐き出し、前を向き孤独感・孤立感から解放される。

#### ●団体概要

一般社団法人 ママの孤立防止支援協会  
代表：三浦昌恵/設立：2021年/スタッフ：4名  
所在地：東京都足立区梅島3-4-8 うめじまKSビル2F

主な事業：ママの孤立防止のシンボルマーク・ドットリンググッズ配布、啓発活動による相談支援周知

#### ●メッセージ

- ・日頃の信頼関係や相談以外のつながりの中、呟きやすくなることもあるため、地域の情報発信と相談・呟きの両機能を兼ね備える方法は有効かもしれない。また、特に深夜にモヤモヤする方が多いので、明朝の対応になってしまっても丁寧に返信することが重要である。

# 社会的孤独孤立（ひきこもり等）に関する合同相談&講演会

一般社団法人 生きづらさインクルーシブデザイン工房（東京都豊島区）

## ●本事業のポイント

- ①社会的孤独孤立状態にある方に対して、支援機関との出会いの場を提供する。
- ②支援団体間の情報交流・ネットワークづくりの場を提供する。
- ③ひきこもり、生きづらさの問題に関する専門家の講演を通して、問題解決のヒントを見つける。

## ●キーワード

生きづらさ/ひきこもり/  
ピアサポート

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

不登校、ひきこもり、発達障害、就労困難、家族との確執などを原因とした社会的孤独・孤立は社会的な課題として広がりを見せている。これらの課題は、孤独死、8050問題など、さらなる社会的課題を誘発する原因となりうる。

社会的孤独・孤立に対する社会的な理解の促進と協力者のネットワークづくりに早急に取り組む必要がある。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

当団体設立者である大橋史信は、自身が社会的無縁（援）・孤立が広がる社会情勢の中、自身も生きづらさ5冠王（いじめ・不登校、家族との確執、発達障害、ひきこもり、社会参加・就労困難者）の当事者・経験者として、誰もが社会的所属先を持ち、自分らしい生き方が出来る、また生き難さをカジュアルな喫茶店でも気軽に語れる社会の実現のために、家族会等に所属し活動をスタートしました。

### ◆取組の目的

当事者としてこれまで関わってきた人たちや、家族会での知見、ネットワークを生かし、社会的孤独・孤立の問題を抱える人たちが「自分らしい」生き方ができるようになることを支援すること。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

- 豊島区を中心とした「居場所」活動や講演会の開催
  - ・豊島区等で定期的に「居場所」を開催し相談年間のべ300人参加。講演会を定期的に開催。

### ●行政や他団体との協働

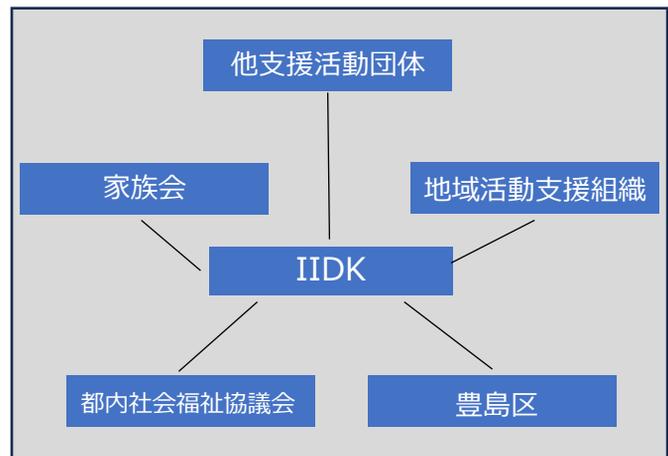
- ・豊島区におけるひきこもり等支援政策拡充のための提言を行い実現。
- ・豊島区で活動している団体と協働でオンラインを活用した新たな活動づくりのきっかけづくりに着手！

### ◆連携先との関わり

- ・これまで参加してきた家族会、支援活動団体とのネットワークを活用。定期的に相互に活動に参加
- ・地元である豊島区及び地域活動支援団体との連携。活動の認知促進のためのイベントなどに定期的に参加。
- ・主に都内の社会福祉協議会と交流を持ち、各地域の支援活動に関する情報交流を行うとともに、講演会などへの講師としての参加を依頼。
- ・豊島区福祉関係部局と定期的情報交換と、イベントへの参加、協働事業の実施。



活動の様子



関係機関との連携図

### 3 取組の成果

#### ◆参加団体のネットワークづくりへの貢献

参加団体のアンケート調査によると、以下のような評価があった。

- 他にも社会的孤独孤立支援で数多くの団体が活動していることを知った。同じ社会的孤独孤立の課題であっても、さまざまな問題が複層的に絡み合っており、他団体との協力・協働の幅が広がった。

#### ◆さまざまな専門家の講演により、幅広い知識とそれぞれのつながりを発見できた

- 早稲田メンタルクリニックの益田氏、目白大学大学院の山崎氏、一般社団法人ケアラーワークスの田中氏、ノンフィクション作家の菅野氏、事故現場清掃会社の前川氏など、さまざまなジャンルの専門家による講演によって、少し専門から離れたテーマに対する知識を得られ、当事者、支援活動団体双方ともに、さまざま課題が関連していることを理解でき、視野が大きく広がった。

#### ◆当事者ニーズの把握

- 今回の参加者は、さまざまな支援制度の内容理解よりも、「居場所」や「相談先」など、支援してくれる団体や場所を探している傾向がみられた。また、現時点で就労に対する悩みを抱えている人が多く、その具体的な解決策がまだ見つかっていないことが明確になった。

#### ◆行政・社協との連携の基盤づくり

- 今回のイベントには、都内9地域の社会福祉協議会の方たちも参加し、その取組を紹介していただいた。今後の当団体の活動をさらに拡大していくためには、行政は社会福祉協議会との連携は必須である、その基盤を構築することができた。



講演会の様子



合同相談会の様子

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

周知・広報、特に、オンラインイベントへの集客力に課題を感じている。

#### ◆解決策

- ① 著名人や当事者の講師への起用。
- ② 講演会後に「居場所」活用を併設した。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 代表大橋の他界により、現時点では当団体の活動内容なども含めて見直しが必要な状況となっています。
- 後任の代表理事が決定致しましたので、これまでほぼ毎週実施してきた「居場所」の活動や、本事業の次年度の展開についても改めて検討しなおしたいと考えています。

#### ◆取組の継続方法

- 当団体として居場所活動を継続し、当事者のニーズを把握し、第2回目以降の合同相談＆講演会にフィードバックを行う。
- 行政や社会福祉協議会との連携をさらに強め、東京を中心に社会的孤独孤立の相談窓口などに関する情報をさらに充実させていく。
- 第2回目以降の合同相談会＆講演会の内容を検討し、より幅広い人たちに、「社会的孤独孤立」をさらに自分ごととして捉えていただけるように内容を充実させていく。

#### ◆他団体への波及可能性

- 社会的孤独孤立は誰にも訪れる可能性があることを広く認識してもらうことで、この問題を身近なこととして一人でも多くの方に感じてもらうことが大切である。そのためにも、現在の当事者だけでなく、当事者となりうる全ての人たちに「知っていただく」よう、さらなる創意工夫を行う。
- 社会的孤独孤立について気軽に訪れることができる場所、相談できる場所の入り口を広げるために、当事者団体以外の人たちが参画できるようにしていきたい。
- 一般企業などに、ひきこもり、発達障害、いじめなど、生きづらさを抱える人たちが就労できることの社会的意義や働くために必要な環境整備の方法などを理解してもらい、社会全体で「生きづらさ」を抱える人たちの生活を支えるような価値観の醸成を図りたい。

#### ●団体概要

一般社団法人生きづらさインクルーシブデザインデザイン工房

代表：久保 亘/設立：2020年/スタッフ6名

所在地：移転中

主な事業：個別相談、居場所活動 等

#### ●メッセージ

- 今回のイベントを通して、他団体との連携が非常に重要であることを改めて認識できた。今後もさらに連携を広げ、深めいこう、協力していきたい。

# 生活困窮者のコミュニティの活性化および実態調査

特定非営利活動法人 ほっとプラス（埼玉県さいたま市）

## ●本事業のポイント

- ①地域における居場所づくりによる孤立化防止
- ②専門職（法律・医療等）の協働による相談対応
- ③孤立や貧困に関する課題や問題点の可視化

## ●キーワード

相談支援/居住支援  
/居場所づくり

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

ほっとプラスで支援をする生活困窮者は、経済的な困難や社会的な偏見などにより、社会から孤立しやすい状況におかれている方が多い。十分な収入がなく社会資源にアクセスできず、基本的な生活ニーズを満たすことも難しく、無力や怠惰といったイメージで見られることもあり、差別や排除の対象となることもある。不安定な生活や将来への不安から孤独感が深まり、心理的負担も大きく、健康問題による影響も考えられる。

### ◆取組を始めるに至った経緯等

身寄りのない生活困窮者がコロナ禍でより孤立状態を深めてしまったり、病気や近所トラブル等をきっかけにひきこもり状態になってしまうケースを多く見てきた。そのような背景を踏まえ、居場所づくりの活動や相談会の開催を通じて、生活困窮状態にある方の居場所や相談窓口をつくり、希薄になってしまった繋がりおよび地域との交流を活性化する活動が必要だと考えた。

### ◆取組の目的

居場所づくり活動（いこいの会）や相談会の開催を通じて、生活困窮状態にある方の居場所や相談窓口をつくり、希薄になってしまった繋がりおよび地域との交流を活性化する活動を行う。また、これまで支援で関わった方々へのアンケートやインタビュー調査を通じて、孤立や貧困に関する実態調査を行い、課題や問題点を可視化していくことを目的とする。



いこいの会での活動



相談会の様子

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●居場所づくり事業（いこいの会）の開催

- 毎月10日頃往復ハガキにて安否確認を兼ねた案内状を送付。
- 毎月最終金曜日にいこいの会を開催。
- ピアサポーターのスタッフを軸にした運営。ボランティア、専門職
- 弁護士、看護師、社会福祉士等の交流、相談の場づくり。

#### ●相談会の開催

- 開催日：9月30日(土) / 12月23日(土) 10時～18時 川口市 キュ・ポラ
- 弁護士、社会福祉士、医療職等による対面および電話による相談対応
- 困りごとに応じた支援制度の案内、食糧支援等の援助を実施

#### ●孤立対策事業の可視化および実態調査

- アンケート調査(相談会)
- インタビュー調査(いこいの会)

### ◆連携先との関わり

《専門職・ボランティア》

- 相談会については、反貧困ネットワーク埼玉や医療生協埼玉協同組合、フードバンク埼玉等と連携して開催。法律専門職や医療専門職、地域のボランティアと協働しながら、専門性を活かした相談支援活動を実施。また、定例で行っている会議や相談会の報告会の開催を通じて、顔の見える関係を維持。

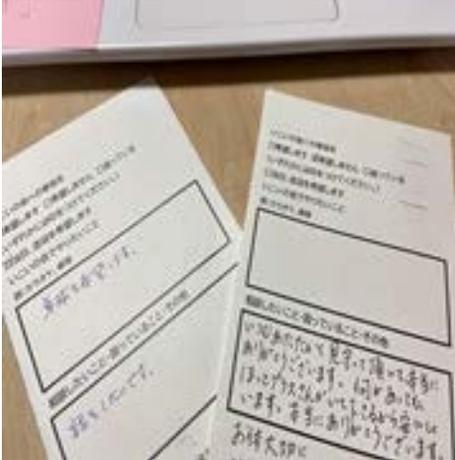
《地域とのつながり》

- 居場所づくり活動については、さいたま市教育委員会（さいたま市立五反田会館）と連携して開催。通常の居場所づくり活動（いこいの会）だけでなく、会館で開催する他団体との交流イベントへの参加や、地域の中学校における職業体験に協力をしながら、地域での関係性を構築。

### 3 取組の成果

#### ◆いこいの会

- これまで居住支援や生活支援を行ってきた方を中心に路上巡回活動で声をかけた方、アパート契約のための緊急連絡先依頼について相談がある方等へ毎月案内状を送付。
- 毎月20名前後が参加。期間内開催7回・延べ参加者数130人。参加できない方からもハガキでの近況報告あり。
- 弁護士(1回)、看護師(2回)による相談対応、体操講師によるレクリエーション(1回)を実施。
- アンケート、インタビューの実施を通じた困り事の把握。



ハガキによるアウトリーチ

#### ◆相談会

- 反貧困ネットワーク埼玉、医療生協埼玉等と連携し、弁護士、司法書士、社会福祉士、労働組合等の相談員が無料で生活や労働のことなどについて相談対応を行った。
  - 期間内開催2回・来場者人数 162名(9/30) 150名(12/23)
  - 相談者の多くは物価高に起因した生活不安を感じており、食糧支援を希望。他分野にまたがる複合的な相談を抱える方も多い。
- 《相談内容より》
- 物価高で食費や光熱費が上がり、年金だけでは生活が困難。
  - 医療費がかさんでしまうため病院にかかることをためらってしまう。
  - 身寄りが無く身元保証人がおらず、宿泊施設からの転居ができない。
  - 難民申請中で仮放免のため、就労ができず生活費がない。
  - 生活保護制度を利用中だが、役所とのトラブルがある。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

サポートを必要としている人にどのように情報を届けるか？

他職種や他団体との連携をどのように取っていくか？

#### ◆解決策

相談会については、SNSや地域の掲示板での掲示、駅前でのチラシ配り等を通じた広報活動。

居場所づくり活動については、往復はがきの送付や路上巡回での声掛けを通じたアウトリーチ活動。

他職種、他団体との連携については、定期的な会議やメーリングリストの活用を通じた顔の見える関係の維持。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 今年度の取組では、居場所づくりの活動と対面での相談会を開催し、現在の孤立や貧困に関する課題や問題点に関する相談者からの聴き取り等を行うことができた。次年度は今年度の活動を継続するとともに、具体的な解決に向けたソーシャルアクションにもより取り組んでいきたい。

#### ◆取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法は居住支援法人の認可を通じた補助金やクラウドファンディングを検討。
- 支援対象者とながりつづけるために、継続した広報活動や案内状の送付を実施。

#### ◆他団体への波及可能性

- この成果を通じて、他の地域においても専門職の協働による相談会を実施することの有効性が見出していけるとよい。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人ほっとプラス

代表：平田 真基/設立：2011年/スタッフ12名

所在地：埼玉県さいたま市見沼区風渡野359-3

主な事業：生活相談、シェルター提供、居場所づくり等

#### ●メッセージ

- 今回の取組を通して、生活困窮状態にある方々がコロナ禍や物価高等でより一層生活が苦しい状況に立たされてしまっている現状がより明らかになった。本取組を継続していけたらと考えているが、一番の理想は「孤立」「貧困」「ホームレス」のような社会問題が無くなるような社会になり、このような取組が不要となることであると思っているので、このような孤独孤立に関する社会問題が少しでも少なくなるような世の中になるように、微力ながら引き続き他団体とも力を合わせていきたい。

## 多様な仕掛け



# 人・物・心を循環させる赤ちゃんから高齢者までの3世代交流拠点

NPO法人 子育て応援ワクワクピース (大分県大分市)

## ●本事業のポイント

- ①赤ちゃんから高齢者まで利用できる「みんなの食堂」
- ②フードドライブ・フードパントリー・リサイクル衣料などの循環型支援
- ③悩み事・困りごとを相談し解決に導く居場所の提供

## ●キーワード

子ども/貧困/孤立/孤食/独居世帯/DV

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

コロナ禍で自治会活動やPTA活動が無くなり、地域で顔を合わせた交流が失われ、地域で協力し共生する関係性が薄れた。



### ◆取組を始めるに至った経緯等

コロナ禍での臨時休校中や夏休み等の長期休暇で給食が無い時期に痩せていく子どもたちを地域で見、共働きでも生活に困窮し食事を満足に取れない家族、生活困窮し困っている高齢者の状況、地域で孤立している独居世帯の悩みを聞き、地域で3世代が交流しながら支え合えるような活動を始めた。

### ◆取組の目的

地域で共に支え合う絆をつくり、困ったときにSOSを出すことができ、諸問題を解決に導く地域の居場所として、地域住民が顔を合わせ交流活動することを目的としている。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

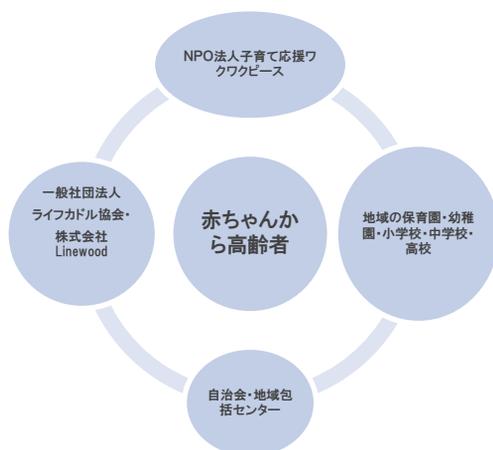
- ・みんなの食堂  
毎月2回定期的に公民館等で開催。夏休み等の長期休暇中は月～金まで毎日給食代わりに開催。会場に来ることが困難な方へは、自宅まで弁当を配達。
- ・地域のフードドライブ・地域でフードパントリー  
家庭や企業での食料品等の余剰品を集めたり、リサイクル衣料やおもちゃ等を集め必要な方に無償で配布する。必要な時に必要な方に支援するために365日対応している。
- ・生きづらさを地域で支え合う地域コミュニティーカフェ  
悩み事や困りごとを相談し解決に導くために専門家を招き相談会や交流会を開催。子連れでの参加の場合は、保育士による託児も準備し、ゆっくりと安心して話せるように工夫している。

### ◆連携先との関わり

- ・連携先である一般社団法人ライフカドル協会は大分県居住支援法人でもあり、生活困窮やDVなどで困っている方の住まいの支援もしているため、相談者から緊急支援のSOSを受けたときは、連携し支援に繋いでいる。株式会社Linewoodは空き家アドバイザー協会に加盟しているため相続や空き家問題等の相談セミナーの講師等を依頼した。
- ・また地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校などには直接チラシの配布を依頼し、各所で気になる家庭などの情報共有を行っている。
- ・地域包括センターや民生児童委員とも連絡を取り、気になる高齢者の支援、独居世帯の支援等に協力していただいている。
- ・個人情報の取り扱い等、連携先との情報のやりとりについては、メールやLINE等では秘密の漏洩が心配なので、直接お会いして会議をさせていただいている。

### ◆連携方法

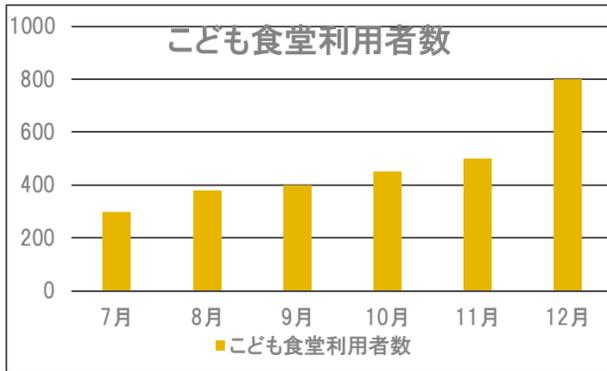
- ・各関係機関と連携を図る上で、大分市の子育て支援課、教育委員会、市民協働推進課等を訪問し協力をお願いした。
- ・地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校へは直接この活動について説明をして回り、毎月案内チラシを配布した。
- ・地域の包括センターや保健センター等にも毎月案内チラシを設置してもらい必要な方に情報が届くようにした。
- ・地域自治体へは、回覧板での案内を依頼したが、地域ごとに温度差があり、困難であったので、ポスティング業者に案内チラシを地域全戸に配布した。



### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- みんなの食堂の利用者が昨年度より増加。口コミやSNSを通じて新規利用者がかなり増加した。利用者が知り合いを連れて次回参加したり、利用者同士が仲良くなり次回も誘い合って参加することが増えた。
- 利用者アンケートでは、孤独を感じている人の内容を絞り込み解決に繋ぐような取組（セミナー開催・個別支援・不足しているものの支援）をした。



#### ◆つながりの醸成

- 利用者アンケートでは、これまで孤独であった方が、交流会に参加し仲間づくりが出来て幸せを感じるようになったとの意見が多い。
- 親同士が仲良くなり、子ども同士も仲良くなり、家族ぐるみで助け合える関係性も生まれた。
- 孫が近くにいない高齢者や独居高齢者が、みんなの食堂開催時に、参加しているこどもたちと触れ合い共に食事をしたりおしゃべりしたりする時間を通じて、高齢者もこどもたちもお互いのココロが満たされる有益な機会になった。
- 利用者にとって本取組は、地域住民の繋がりづくりの一步になったと思う。



#### ◆連携による効果

- 一般社団法人ライフカドル協会と連携したことにより、生活困窮やDVで困っていた人を住む場所やシェルターに繋ぐこと、家事支援や生活支援や介護支援等これまで団体単独ではできなかったことが連携することでできるようになった。
- お互いの強みを活かし連携体制を構築したことにより、相互の団体を利用する人数が増加するなどの相乗効果があった。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

- 進めていく上で課題となったのは、利用者人数が増えたときの活動場所の確保です。赤ちゃんを含むこどもたちが多数利用することで、足音や声、赤ちゃんの泣き声がうるさいとのクレームの増加で公民館の一室を利用することが困難となり、地域の公民館の一棟を借り上げて運営をしなければならなかったこともあり想定以上に経費がかさんだ。

#### ◆解決策

- 上記内容を解決するために、まずは広い会場の継続的な確保が必要となるので地域の空き家等を調べたり、会場使用が可能な場所を地域の方々自治会の方々に協力していただき探している。
- 昨年の夏から場所探しと交渉を続け、今春から使えるかもしれない会場の最終交渉中である。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

- 今年度の取組みでは夏休みや冬休み等の小学生の給食支援、通常はこどもから高齢者までのテイクアウト弁当を配布した。次年度は、朝食支援や中学生や高校生が部活帰りに立ち寄り学習のできる食事つきの居場所づくりに取り組む必要がある。フードバンクも物資が不足することもあるので、企業などに営業活動をして物資の寄付を集めなければならない。

#### ◆取組の継続方法

- 本取組を来年度以降も継続するために企業や個人の賛助会員を獲得、事業収入も増やし資金調達していく。
- 今よりも広い会場を探し365日必要な時に必要な方に支援できるような拠点をづくり活動をしていく。
- 支援対象者と繋がりつづけるためにSNS等を活用し繋がりをつくっていく。
- 連携先も増やし、支援体制を強化していく。

#### ◆他団体への波及可能性

- この成果を通じて、他団体においても地域でこども食堂などの居場所づくりを始めたり、リサイクル衣料やリサイクルおもちゃなどを譲り合うイベントを実施することがスタンダード化しつつある。

#### ●団体概要

NPO法人子育て応援ワクワクピース  
代表：漆間文代/設立：2009年/スタッフ：10名  
所在地：大分県大分市大字木上77番地の1  
主な事業：学童保育・フリースクール・こども食堂等

#### ●メッセージ

- 今回の取組を通して、さまざまな世代に地域で居場所が必要なことがわかった。継続的に活動していけば、徐々に口コミが拡がり参加者が増えていくこともわかった。諦めずに活動し続けることが大切です。

# 近い立場による若者・子育て世代の孤立孤独を防ぐためのパイロット事業

## 特定非営利活動法人 岡山NPOセンター（岡山県岡山市）

### ●本事業のポイント

- ① 居場所を通じた中高生の孤独感の解消と早期発見
- ② ベッドタウンエリアに暮らす子育て世帯の孤立防止
- ③ ピアサポートを通じたゆるやかな関係づくり

### ●キーワード

若者/転勤族/子育て/  
ピアサポート/情報

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

過年度に、当団体と岡山市内でユースセンター等を展開するNPOで取り組んだ調査では、1割強の中高生が学校や家庭に居場所がないと感じている現状があることがわかった。

また、JR北長瀬駅前エリア・岡山市西小学校区エリアは中心市街地へのベッドタウンとしてマンション建設などが続き、単身者や子育て世代の居住が増えている。一方で転勤族なども多く、新造マンション等も多いことから地域組織（民生委員、愛育委員など）での把握やアプローチが難しい状況にある。



### ◆取組を始めるに至った経緯等

普段より居場所なく駅前などに集まる若者が、日常的な居場所として、岡山駅近くに位置するNPO（一般社団法人SGSG）が行うユースセンターの存在を知り、そこから日常的な利用に繋がることで、中高生が困った際に訪れる第3の居場所としての機能確立をめざしている。

また、子育て世代の取組では、情報提供を通じて今回設置するウェブサイトが浸透することで、孤立する子育て世代が日常的なつながりをもつための窓口の一つとして認知されることを期待している。また、フリーペーパー作成を通じて、子育て世代同士でのつながりや支えあい・助け合いが広がっていくことを想定した。

### ◆取組の目的

それぞれのターゲットに対して、当事者に近い立場にある若者や子育て世代が主体となり、相談や情報提供をおこなう居場所をつくることで、持続的な支援（ピアサポート）に繋げ、孤独・孤立防止に繋げることを目的とする。

## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

#### ●JR岡山駅周辺での中高生等の若者に向けたアウトリーチ型居場所の開催

高校生・大学生を中心としたグループと協働し、JR岡山駅周辺を中心に中高生の集まりやすい商店街及び商業施設内で若者向けの簡易居場所を開いた。加えて、当日立ち寄った高校生の現状把握と今後の居場所の在り方を検討するためにアンケートを実施した。

#### ●JR北長瀬駅周辺での母親などの子育て世代に向けた情報提供

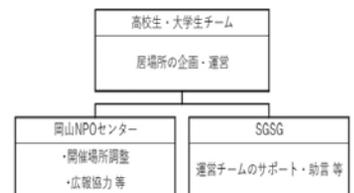
子育て世代を中心としたグループと協働し、同エリア（JR北長瀬駅前エリア）に在住の子育て世代に向けた支援を行った。具体的には、ポスティングによる子育て情報のフリーペーパー作成・配布と、ウェブサイト開設を行い、対象者が知りたい子育て世代特有の情報提供を行っている。

### ◆連携先との関わり

#### ●JR岡山駅周辺での中高生等の若者に向けたアウトリーチ型居場所の開催

・大学生による「ユースワーク支援を考える会」：中高生向け居場所の運営

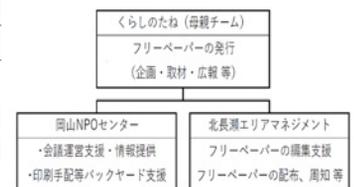
・一般社団法人SGSG：居場所に対する助言、ユースセンターへのつなぎ、大人の考えに誘導せず、あくまでも、高校生、大学生が主体となり場づくりができるよう意識しながらかかわった。



#### ●JR北長瀬駅周辺での母親などの子育て世代に向けた情報提供

・子育て世代による「くらしのたね」：フリーペーパーの企画・取材・広報等

・一般社団法人北長瀬エリアマネジメント：フリーペーパーの編集・支援、フリーペーパーの配布、周知等母親自身が、フリーペーパーに掲載する店舗の情報チェックリストを作成するなど、内輪感が出ないように配慮しつつ、「当事者視点」を大切にた。



### ◆連携方法

これまでの協働を生かして、各々の強みを生かす形で今回の企画をつくった。

### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

##### ●当事者である中高生や関係者への場の周知

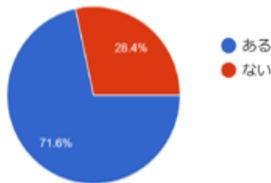
これまで接点のなかった中高生に新たに居場所について知ってもらうことができた。高校生・大学生が画にかわり来所した生徒と対話することで、「困ってなくても使って良い場所、困る前に頼って良い場所がある」という情報を届けられたことはひとつの成果である。

高校や大学教員、不登校支援に取り組むNPOの関係者とも、改めて支援情報や対応、ケースについて情報共有を図る機会ともなり、横連携の強化にも繋がった。



##### ●今後の居場所の在り方への要点整理

アンケート及び来場した中高生との対話から、居場所に必要な要素も明らかとなりつつある。居場所の要素として、「程よい距離感」で雑談ができる場



▲約3割が、学校(部活や生徒会等を含む)と家以外に過ごせる場所がないと回答。

であることや、それとなく観察できるスキルを持つ同世代の存在があること、本音を引き出せる信頼関係づくりが重要であることなど、いくつかのポイントが見えつつある。

##### ●孤立する世代に向けたチャンネルづくりと地域内での機運醸成

孤立する子育て世代が多いエリアでアパートなどへのポスティングや取材店舗やハウジングメーカーなどで子育て情報紙の配布ができたことにより、情報を届けられるチャンネルができた。また、取材店舗が増えていくことにより、エリア内の店舗などで子育ての孤立を支える機運醸成ができ、孤立防止を図るまちづくりへと繋がる可能性を感じた。

##### ●子育て世代(母親)のコミュニティ形成

情報紙編集のプロセスそのものが、孤立について当事者が自身の経験に紐づけて思いだし考える機会となり、それぞれの子育て中の想いや不安を開示する機会となった。また、それぞれの経験からの情報を集約することで地域を改めて知るきっかけになると共に、当事者と店舗との相互の関係づくりにも繋がっていた。

##### ●あらたなアウトリーチ事業の検討開始

当初、想定していた子育て世代の集まりだけでは子育ての孤立解消に足りないのではないかという気づきから大学などと連携した新たなアウトリーチとしての取組検討へとつながり、大学へも打診をすることにより次のアクションを考えることとなった。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

・若者の居場所では、開催場所の設定と調整が課題となった。当事者である中高生が訪れやすい場所と、予算や条件などによる限界もあり、調整に時間を要した。  
・編集メンバーとして子育てに関する価値観を伝えたい気持ちと一方で押し付けになってはいけないという意見とのバランスを取って編集する部分に難しさがあった。

#### ◆解決策

・若者の居場所では、居場所の在り方について改めて条件整理した上で、ある程度同じ場所で繰り返し開催することが必要と思われる。当事者にとって、居心地良い、必要だと感じられる場所の認知拡大により、解決を図りたい。  
・偏った掲載(自然素材へのこだわり等が徹底しているお店だけにしない等)にならないように、議論を重ねながら調整していった。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

・若者の居場所においては、今回のアウトリーチでのアンケートや当事者との対話を踏まえ、2月に今後の居場所づくりの在り方について改めて協議をする予定。  
・子育て世代の取組については、駅周辺の商業施設や公共施設との連携による継続した情報誌発行やアウトリーチ、居場所検討と実施を目指す。

#### ◆取組の継続方法

いずれの取組についても、無償提供や負担の分担なども考慮しながら、継続可能な形を探る。また、今回の取組で得たノウハウを、市内及び県内に講演活動等で広げていく予定。

#### ◆他団体への波及可能性

・若者の居場所では、当事者同士が「繋がる自由」「繋がらない自由」も保障しながら、緩やかに関係を築ける場づくりを意識したい。またその場の運営を担える若者が各エリアで育まれるよう支援し、より広域での若者の孤独解消に寄与したい。  
・子育て世帯については、子育て世代特有の「必要な情報」をハブとして、当事者同士が各エリアで緩やかに繋がれる仕組みづくりに繋げたい。

#### ●団体概要

特定非営利活動法人岡山NPOセンター  
代表：石原達也/設立：2002年/スタッフ：34名  
所在地：岡山県岡山市北区表町一丁目4-64上之町ビル3階  
<https://www.npokayama.org/>  
主な事業：社会参画・協働推進、経営支援

#### ●メッセージ

・ピアサポートの取組は、課題当事者への対応のみならず、関係者間での連携強化やコミュニティ形成への寄与といった付加価値を感じることができました。成果半ばですが、他団体のみならずとも情報交換をさせていただきつつ、本事業を発展させていきたいと思っております。

# 孤立するキャバクラや風俗などで働く方を主対象に制度や既存の支援団体からの支援からもれてしまう方への居場所づくりと支援事業 ハピママメーカープロジェクト（埼玉県川口市）

## ●本事業のポイント

主に夜職シングルマザーが自信と誇りをもって安心して働ける社会創りをする  
ことを目的に、夜職のシングルマザーの方を主対象とし、食料等支援や、交流の  
場及び居場所作り、緊急時の対応、生活不安への伴走支援を行います。

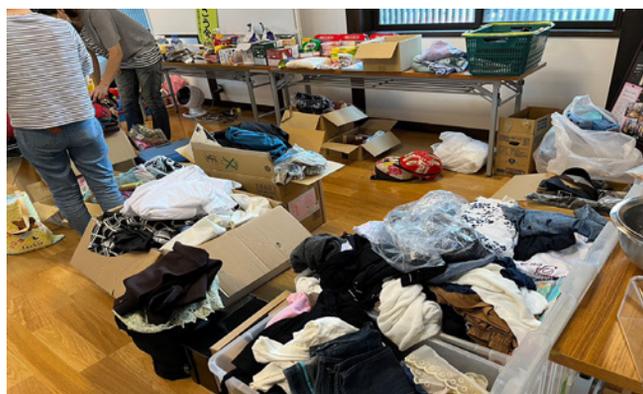
## ●キーワード

シングルマザー/孤  
立防止/交流活動

## 1 取組の背景と目的

### ◆対象者が抱える課題

職業柄相談する上での精神的ハードルを抱く方が多く、また、中学卒業後夜業界に入り、他の一般職を経験したことがないという方や、精神疾患などの体の不調を抱えていたり、頼れる親族がいない方、DVなどで逃げている方、離婚調停中の方、妊娠中で働いている方もいる。  
職業柄、様々なトラブルにも巻き込まれやすい（性被害等）



### ◆取組を始めるに至った経緯等

ハピママメーカープロジェクトは2020年のコロナ前から横のつながりが希薄で孤立しがちな夜業界で働く人たちの居場所づくりがしたいと考えていた。  
コロナの影響で閉店したり、客足がなくなり、生活苦に陥る方も多く、相談支援と食料支援を実施することになった。

### ◆取組の目的

主にキャバクラや性風俗などで働くシングルマザーの方を対象に、イベント企画などを通して横のつながり作りをすること。具体的にめざす姿は、  
業界で働く方が常日頃から繋がれる環境をつくることで、緊急時に孤立せずに相談できる体制づくりをし、自信と誇りをもって日々を安心して過ごせるようになること。

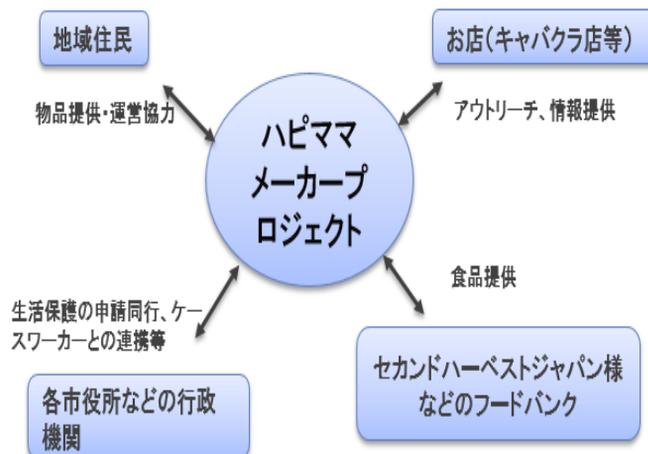
## 2 取組内容

### ◆具体的取組内容と特徴

- ・フードパントリー（食材無償提供活動）  
※緊急でお困りの方には県外への郵送で支援を実施しております。
- ・行政書士、社会福祉士、精神保健福祉士、弁護士らによる相談対応
- ・月2回のZOOMでの情報発信 職業や生活面での悩み、愚痴相談
- ・居場所、交流活動（キャンプ、凧揚げ等）、勉強会（確定申告等）
- ・店舗などへのアウトリーチ活動

### ◆連携先との関わり

- ・厚川薬局 会場提供
- ・医療生協さいたま 会場提供
- ・セカンドハーベストジャパン 食料支援
- ・各地域での市役所やケースワーカー 生活保護などの申請同行支援
- ・性感染症検査クリニック 無料での検査実施
- ・外部弁護士 トラブル発生時などのより専門的な法律面での解決
- ・妊婦の方が多く働くお店などへのアウトリーチ 定期的な連絡のやり取りで困窮度合の高い方へアプローチ



### 3 取組の成果

#### ◆日常生活環境における予防効果

- 孤独・孤立を感じる方の外出機会の増加（具体的成果：居場所への参加者30世帯・1開催あたり）
- 社会的なつながりの改善（具体的成果：不登校状態のお子さんもボランティアとして参加して頂いています。多様な大人たちとの交流の場になっていると感じます）
- 抱えている悩みの改善（具体的成果：相談件数弁護士対応5件、元刑事対応2件、社会福祉士対応3件、専門機関につないだ件数2、同居人の暴力に悩んでいた女性への相談対応、その他レスパイト利用につなげた）



#### ◆つながりの醸成

- 性感染症検査をしているクリニックとつながり、無料検査を実施することで、性感染症への予防啓発の機会創出もできた。

### 4 取組において工夫した点

#### ◆取組において直面した課題

生活困窮している方で、役所への生活保護申請同行などを実施、ケースワーカーとの連携がうまくいかず、家賃の取り立てが続き、精神状態などからも中々生活が安定しないケースもあった。

遠方からの支援希望もあるが、その場合一度食料品の郵送支援を緊急対応として実施しても、継続的な支援は困難。近くの団体などを紹介するものの、継続してみれないことへの利用者側からの不満、不安の声もあった。

#### ◆解決策

・上記内容を解決するために、まずはケースワーカーとの間に立ち、現状をお伝えし再度生活支援の改善をお願いした。また、他の地域の支援団体の方に直接ご連絡をし、支援につなげた。

### 5 今後の展開

#### ◆今後の課題

・今年度の取組では、川口市内の東川口と西川口でエリアをより広くして支援を提供することができた。次年度は繁華街などより多くの店舗へのアプローチと、コミュニティ形成の場になれるような業界に特化した勉強会の開催などを実施する。また、高齢者風俗嬢の貧困問題も参加者から訴えとして聞かため、セカンドキャリア支援（他団体との連携、情報シェアも含め）など選択肢を増やす支援をしていきたい。

#### ◆取組の継続方法

- ・本取組を来年度以降も継続するための資金調達の方法は企業様や個人の方からのご寄付と、地域の通信紙に掲載いただくことで、周知を広める
- ・支援対象者とつながりつづけるために最低月1回のイベント開催をする。

#### ◆他団体への波及可能性

社会全体の職業への理解を促進する。職業で排除されない、また、職業を理由に相談しにくい等の心理的ハードルを排除していく。そのことにより、働く人たちの健康とその家庭の孤立を予防し、問題の深刻化を減らしていく。

#### ●団体概要

ハピママメーカープロジェクト

代表：石川菜摘/設立：2020年/スタッフ：8名

所在地：埼玉県川口市西川口2-10-8

<https://expressyourself.jp/nightwork/>

主な事業：

#### ●メッセージ

- この取組を通して、やはり聞こえてくる声は、「相談したいが“このような仕事（風俗）”をしていて相談すると注意をされるのでは。実際に嫌な目に遭った。子どもを連れていかれそうになった。もう相談したくない」という職業からくる先入観や偏見を恐れる声があった。職業を職業として受け入れていただくことも社会の中での寛容さとして大切だと思っています。